ニ於テモ亦裁判官ナシテ受贈者ヲ救護シテ之ニ一猶豫期限ヲ許ス
ヲ得セシメタリ
故ニ期限ノ極盡セシノミニテ當然取戻シ有ルコハ非サルナリ贈與
者ハ必ス取戻ヲ裁判所ニ願ハサル可カラス其願ヲ受ケタル裁判所
ハ之ヲ酌量、考定スルノ權アリ若シ負擔ヲ執行セサル事、受贈者ノ詐
詭又ハ過失ニ係ル時○又何レノ場合ニ於テモ贈與者其與ヘタル物
件幷ニ負擔ノ執行ヨリ其得可キ所ノ利益ヲ失フ可キノ恐アル時又
ハ受贈者ニ負擔ヲ執行スル能ハサルノ情實アル時ハ裁判所ハ直ニ
取戻ヲ言渡スヿヲ得可シ是ニ反スル場合ニ於テハ裁判所ハ受贈者
ニ許スニ猶豫期限ヲ以テスルヲ得可キナリ(第千百八十四條、第千二
百四十四條及第千六百五十五條)

〔七百二十四號〕 受贈者負擔ヲ執行セスシテ其許サレタル猶豫期限ヲ
過ル時此場合ニ於テハ贈與ハ必ス取戻サル可キヤ曰ク尚ホ未タナ
リ此期限極盡ノ後ト雖モ受贈者ハ負擔ヲ執行スルヲ得可ク而シテ
又其執行ノ利アル可キナリ然リト雖モ裁判所ハ若シ贈與者ヨリ之
ヲ請求スルニ於テハ直ニ其取戻ヲ言渡サヽル可カラス裁判所ハ更
ニ復タ猶豫期限ヲ許スヲ得サルナリ

〔七百二十五號〕 此規則ハ雙方ノ者ノ契約ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得可
キナリ故ニ贈與者ハ贈與書中ニ左ノ事件ヲ約スルヲ得可シ
第一 指定シタル某ノ時刻ニ於テ受贈者其負擔ヲ執行セサリシ時
ハ無論贈與ヲ取戻ス可キ事○此場合ニ於テハ取戻ハ指定シタル時
刻ニ負擔ヲ執行セサリシ事ヨリ生スル者ナルヤ曰ク、否ナ受贈者ハ
妄リニ贈與者ノ意ヲ推量シ而シテ贈與者若シ嚴ニ其權ヲ行ハント
スルニ於テハ必ス催促シテ其旨ヲ通知ス可キナリト誤信シ而シテ

其執行ヲ怠ル事アルモ知ル可カラス是レ法ノ配慮スル所ナリ故ニ贈與者催促ヲ爲シ而シテ受贈者ヲ遲滯ニ附スルト雖モ其催促ノ當日又ハ遲クモ其翌日ニ至テ尙ホ受贈者負擔ヲ執行セサルニ於テハ則チ贈與ハ解除セラル可キナリ是レ所謂ル無論解除セラルヽ者ナリ乃チ此場合ニ於テハ取戻ノ訴ヲ受ケタル所ノ裁判所ハ必ス直ニ取戻ヲ言渡サヽル可カラス裁判所ハ決シテ受贈者ニ許スニ猶豫期限ヲ以テスルヲ得サルナリ(第千六百五十六條ニ比照シテ立テタル論ナリ)

第二　指定シタル時刻ニ負擔ヲ執行セサルニ於テハ唯期限ノ到來セシノミニテ別ニ催促ヲ爲ス事ナク贈與ヲ取戻ス可キ事(第千百三十九條)○此場合ニ於テハ負擔ノ執行ニ附キ指定シタル期限ノ後ニ至リ之ヲ執行スルモ受贈者ハ之ニ因テ取戻ヲ妨ルヲ得サルナリ

〔七百二十六號〕　第肆　負擔ヲ執行セサルニ附キ取戻ノ効

負擔ヲ執行セサル事ハ素ト暗ニ約シタル解除ノ未必條件ナルカ故ニ是ヨリ生スル所ノ取戻ハ唯未來ニ於テ贈與ヲ消滅セシムルノミナラス尙ホ且ツ過去ニ遡テ之ヲ消滅セシム可キナリ一切ノ事件ヲ全ク贈與以前ノ位置ニ復セシム可シ(第千百八十三條)故ニ受贈者ノ承諾シタル一切ノ讓渡ハ皆ナ無効ニ屬ス可ク而シテ受贈者贈與財產上ニ於テ作出シタル所ノ書入又ハ義務ハ悉ク皆ナ消滅シテ其財產ハ全ク義務ナキ者トナリテ贈與者ノ所ニ歸來ル可キナリ

〔七百二十七號〕　第伍　菓實ノ返還

受贈者ハ取戻ノ訴以後ニ拾取シタル菓實ハ勿論其以前ニ收受シタル者ト雖モ亦之ヲ返還セサル可カラス受贈者ハ一切皆ナ返還ス可キナリ何トナレハ受贈者自身ニ執行スルヲ欲セスシテ而シテ自身

無効ノ者ナリト認メタル所ノ契約ニ附キ利益ヲ得可キノ理ナケレハナリ

〔附言〕右ハワレット氏ノ説ナリ○ギュラントン氏ノ説ニ據ルニ受贈者其負擔ヲ執行セサリシ過失ノ日ヨリ以後ニ其收受シタル所ノ菓實ニ非サレハ受贈者ハ之ヲ返還スルニ及ハストセリ又ドムロンブ氏ノ説ニ據ルニ受贈者ハ取戻ノ訴ノ日ヨリ以後ノ分ニ非サレハ返還スルニ及ハストセリ(第九百五十八條ニ據リ推論シタル説ナリ)

〔七百二十八號〕第陸　負擔ヲ執行セサルニ依リ取戻ノ訴ヲ爲スヲ得可キ權アル人幷ニ此權ヲ行フニ附キ其敵手トナル可キ人

取戻ノ訴ヲ爲スヲ得可キ權ヲ有スル者ハ左ノ如シ

第一　贈與者

第二　其相續人

第三　其權利者但シ此權利者ハ第千百六十六條ノ要領ニ照準シテ此訴ヲ爲スヲ得可キ者ナリトス

此訴ハ左ノ者ニ對シテ之ヲ行フヲ得可シ

第一　受贈者ニ對シ

第二　其相續人ニ對シテ之ヲ行フヲ得可キナリ

贈與者取戻ノ言渡ヲ爲サシメタル時ハ外人ノ贈與財産ヲ得テ之ヲ占有スル者ニ對シテ亦之ヲ取戻スヲ得可キナリ但シ其外人時効ニ依テ之ヲ抗拒スル時ハ此限ニ在ラストス

〔七百二十九號〕第柒　負擔ヲ執行セサル事ニ基キテ爲ス取戻ノ訴ノ時効

此訴權ハ普通法ニ準シテ三十年間繼續スル者ナリ第千三百四條ニ

ハ十年ノ時効ヲ記スト雖モ該條ハ契約ノ無効又ハ契約取消ノ訴權ニ非サレハ適施スルヲ得サル者ニシテ解除ノ訴權(レソリユシヨン)ニハ全ク關渉セサル者ナリ三十年ノ期限ハ負擔ノ執行ニ附キ定メタル日ノ翌日ヨリ起算スル者ナリ

取戻ノ訴權ハ贈與財產ヲ占有スル所ノ外人ニ對シテ之ヲ行フ時ハ若シ其財產不動產ナルニ於テハ第二千二百六十二條及ヒ第二千二百六十五條ニ定メタル區別ニ從ヒ或ハ十年或ハ二十年又ハ三十年ニテ時効ニ至ル者トス此場合ニ於テハ時効ハ占有ノ日ヨリ經過ス可キナリ○又動產ニ附テ取戻ノ訴ヲ爲ス時ハ若シ之ヲ占有スル者善意ナルニ於テハ其訴權ハ直ニ占有ノ事柄ノミニテ時効ニ至ル可ク(第二千二百七十九條)若シ是ニ反シテ其占有者惡意ナルニ於テハ其訴權ヲ經ルニ非サレハ時効ニ至ラサルナリ

○第三節　恩義忘却ニ原因スル贈與ノ取戻

〔七百三十號〕　第壹　此取戻ノ要領

負擔ヲ執行セサル事ハ是レ贈與ニ附キ一ノ解除ノ未必條件ナリ若シ受贈者其負擔ヲ執行セサルニ於テハ贈與ヲ取戻シテ全ク成立セサリシ者ト看做ス可シト雙方共ニ結約セシ者ナリト法ニ於テ之ヲ想像ス是ニ由テ受贈者其負擔ヲ執行セサル時ハ贈與者ハ最初ヨリ贈與ヲ爲スノ意ナキ者ナリト看做サル可キナリ故ニ其贈與ハ過去ニ遡テ全ク消滅ス可ク乃チ曾テ成立セサリシ者ト看做サル可シ是レ此種ノ取戻ハ受贈者ト結約シタル外人ニ對シテモ其効ヲ有スル所以ナリ(七百二十六號參觀)

恩義忘却ニ原因スル取戻ハ結約者雙方ノ意ノ解釋ニ基ク者ニ非ス何トナレハ此ノ如キ事ハ雙方ノ者ノ豫メ察知ス可キ者ニ非サレハナ

リ是レ恩義ヲ忘却シテ一般ノ通義ヲ破リタル所ノ受贈者ニ對シテ法ノ言渡ス所ノ一刑罰ナリ眞ニ其理ヲ論スル時ハ是レ贈與ヲ取戻スニハ非サルナリ（下ノ附言ヲ見ル可シ）受贈者ノ犯シタル罪ニ附キ之ヲ刑スルカ爲メニ之ヨリ其財產ヲ取揚ルナリ然レ𪜈贈與ハ過去ニ遡テ消滅スルニ非ス受贈者ハ取戻ノ時刻迄ハ眞ニ贈與財產ノ所有者タル者ニシテ獨リ未來ニ向テ其所有權ヲ失フノミナリ○恩義ヲ忘却シタル受贈者ニ受ケシムル所ノ此取戻ニ附テノ說ハ之ニ關スル一切ノ規則ヲ辯明シ殊更贈與者ノ取揚ル所ノ財產上ニ受贈者ノ作成シタル權利ハ之ヲ得タル所ノ外人ノ爲メニハ依然トシテ成立スル所以ノ規則ヲ辯明ス可キ者ナリ（七百三十五號參觀）

〔附言〕此說ハ余ノ著書「トレーテ、ド、ラ、トランスクリプシヨン」中ニ於テ余之ヲ辯駁シタリ（五百三十三號）

〔七百三十一號〕第貳　恩義忘却タル可キ事件

此事件ノ數凡ソ三アリ法ニハ制限シテ之ヲ定メタリ裁判官ハ口實ノ如何ナルヲ問ハス都テ法文ニ定記シタル場合外ニ於テハ決シテ恩義忘却ニ附キ贈與ヲ取戻スヲ得ス故ニ取戻ハ左ノ三個ノ場合ニ非サレハ之ヲ言渡スヲ得サルナリトス

第一　贈與者ノ生命ニ對シテ受贈者ノ妨害ヲ爲シタル時○贈與者ヲ殺害シ又ハ殺害セント企テタルニ附キ受贈者ノ處刑ヲ言渡サレシ事ヲ要スルニ非ス贈與者ノ生命ニ對シテ受贈者ノ妨害ヲ爲シタル事ノ裁判上ニ於テ證明セラレシノミニテ足レリトス故ニ此妨害ヨリ十年ヲ經過セシ時ハ受贈者ハ刑事ニ於テハ訴ヘラルヽ事ナク又刑セラルヽ事ナカル可シ何トナレハ公訴ハ時効ニ至レハナリ然リト雖モ贈與取戻ノ訴權ハ時効ニ至リタルニ非ス故ニ贈與者又ハ其

相續人ハ其受ケタル所ノ妨害ハ既ニ十年、十五年、二十年、二十五年等ノ年間ヲ經タル事ナリト雖モ其受贈者ノ犯シタル者タルヲ知テ之ヲ證明スルニ於テハ贈與ノ取戻ヲ訴ヘ以テ其裁判ヲ受ルヲ得可キナリ

〔七百三十二號〕第二　贈與者ニ對シテ受贈者重大ナル「セウヒース」、犯罪又ハ不敬ヲ爲シタル時○「セウヒース」、トハ苛虐、殘忍ナル取扱ヲ爲シ他ヲシテ其生命ヲ保チ難カラシムルニ至ルノ所爲ヲ云フ犯罪トハ都テ刑法ニ於テ刑スル所ノ所爲ニシテ贈與者ノ身體又ハ財產ニ對シテ受贈者ノ犯シタル者ヲ云フ不敬トハ總テ贈與者ノ面目、榮譽ヲ害ス可キ一切ノ所爲、書面又ハ言語ヲ云フナリ

「セウヒース」、犯罪又ハ不敬ニハ重大ナル性質アルヲ要ス譬ヘハ贈與者ノ財產上ニ於テ受贈者ノ犯シタル狩獵ノ犯罪ハ之ヲ以テ取戻ノ原因トスルニ足ラサル事ハ是レ世人ノ皆ナ承認スル所ナリ都テ皆ナ其事情ニ關スル者ニシテ是ニ附テハ裁判官其專斷ノ權ヲ以テ之ヲ酌定ス可キナリ

贈與者ノ謀殺セラレシ時受贈者之ヲ知テ而シテ其告發ヲ爲サヽルモ之ヲ以テ贈與者ノ記念（メモワル）ニ對スル重大ノ不敬トス可キニ非ス且ツ假令ヒ之ヲ不敬ナリトスルモ余ハ尙ホ此事柄ヲ以テ贈與不敬ノ原因ニ非サルナリトス第九百五十七條ノ第二項ヲ說明スル所ニ於テ贈與者ノ記念ニ對シテ爲シタル重大ノ不敬ヲ以テ贈與取戻ノ原因トナシ而シテ相續人ヨリ其訴ヲ爲スヲ得サル可キ事ヲ證明ス可キナリ（七百四十六號參觀）

〔七百三十三號〕第三　贈與者ニ養料ヲ給スル事ヲ受贈者ノ拒ム時○譬ヘハ、贈與者ニ養料ヲ給ス可キノ義務ヲ受贈者ノ負フ事アランニ

此義務ハ素ト是レ法律ニ於テ受贈者ニ負ハシムル所ノ者ナリ然レモ此義務ハ贈與者養料ヲ必要トシ而シテ他ニ之ヲ得可キ道ナキニ至リタル時刻ヨリ以後ニ非サレハ生セサル可キハ言ヲ待タサル事ナリ是ニ由テ贈與者ニ養料ヲ給ス可キ義務アル他ノ親族アリ而シテ其親族タル之ヲ給スルヲ得可キノ力アル時ハ受贈者ハ自身之ヲ給スルヲ拒ムト雖モ贈與ノ取戻ヲ受ク可キニ非サルナリトス(第二百三條ヨリ第二百五條マテ)○又玆ニ附言ス可キ事アリ受贈者ノ負フ所ノ養料ハ其全體ノ家產ニ從テ計算ス可キ者ニ非スシテ贈與物件ノ入額ニ準シテ計算ス可キ者ナリ而シテ何レノ場合ニ於テモ養料ハ此入額ヲ超過ス可カラサルナリ若シ然ラサルニ於テハ是レ贈與者ニ許スニ間接ニ其贈與ヲ取戻スノ手段ヲ以テスルナリ然レハ是レ贈與ノ取戻ス可カラサル若タル要領ニ反ス可キナリ

第九百五十五條〔七百三十四號〕「インヂニュテー」ニ原因スル相續ノ追除ヨリモ恩義忘却ニ原因スル贈與ノ取戻ハ殊ニ容易ニ法ニ之ヲ許シタリ其差異タル左ノ如シ

贈與者ノ生命ニ對スル妨害ハ假令ヒ受贈者ハ之ニ附テ更ニ處刑ヲ受ケサルモ贈與取戻ノ原因タル可シ(七百三十一號第一參觀)ト雖モ相續人ハ刑事ニ於テ處刑ヲ受ケタル時ニ非サレハ同上ノ原因ニ附テ追除セラルヽ事ナシトス(四十九號參觀)

第二　重大ナル「セウヒースト」犯罪「不敬又ハ養料ノ拒絕ハ贈與取戻ノ原因タル者ナリト雖モ相續人ニ附テハ「インヂニュテー」ノ原因タル者ニ非サルナリ

此差異ヲ辯明スル二個ノ理由アリ

第一　相續ノ追除ハ法律ニテ施政上ニ緊要ナリトスル所ノ事件ノ

形情幷ニ法律ニ定メタル相續ノ順序ニ違フ者ナルカ故ニ大ニ配慮シテ至重ノ原因アル時ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラサルナリ是ニ反シテ贈與ノ取戻ハ却テ法律ノ相續順序ヲ復立スル者ナリ何トナレハ法律ニ於テハ財產ハ一親族中ニ永ク存在セン事ヲ欲シ而シテ今取戻ニ依テ贈與財產ハ其親族中ニ歸來レハナリ是ニ由テ相續ノ追除ニ比スル時ハ贈與ノ取戻ハ殊ニ容易ニ之ヲ許サヽル可カラサルナリトス

第九百五十六條〔七百三十五號〕第參　恩義忘却ニ依テ贈與ノ取戻サル、ハ何レノ時ニ

第二　受贈者ノ財產ヲ得ルハ全ク贈與者ノ意ノミニ依テナリ相續人ノ相續スルハ是レ法ニ依テナリ故ニ法ノ相續セシムル所ヨリシテ死者ノ恩義ヲ承認ス可キノ職分ニ比スル時ハ贈與ニ附テ其恩義ヲ承認ス可キノ職分ハ最直接ニシテ最嚴重ナル可キ者ナリトス

刻ヨリナルヤ○負擔ノ不執行ノ如ク受贈者ノ恩義忘却ハ當然贈與ヲ取戻サシムル者ニ非ス是ヲ解釋スルノ理由ハ如何ン曰ク其理由二個アリ左ノ如シ

第一　恩義忘却ニ原因スル贈與ノ取戻ハ其恩義忘却ノ罪ノ償ニシテ而シテ之ヲ斷定スル者ハ獨リ其害ヲ受ケタル所ノ贈與者ノミナリ是ニ由テ當然贈與ヲ取戻サシムルニ於テハ其取戻ハ獨リ贈與者之ヲ喚起スルヲ得ルノミナラス其他總テ利益ヲ有スル者ハ皆ナ之ヲ喚起スルヲ得ルナル可キナリ

第二　此取戻ハ素ト被害者タル贈與者ニ許シタル償ナルカ故ニ又此贈與者ニ許スニ其償ヲ赦宥シ而シテ取戻ノ利益ヲ抛棄スルノ權ヲ以テスルハ是レ自然ノ事ナル可キナリ是ニ由テ若シ當然贈與ヲ取戻サシムルニ於テハ贈與者ハ赦宥スルノ權ナキカ故ニ其意ニ非

サルモ強テ取戻ヲ爲サヽル可カラス而シテ若シ贈與者赦宥シテ其贈與ヲ保存セント欲スルニ於テハ贈與者ハ更ニ法律上ノ式ニ從テ新贈與ヲ爲サヽル可カラサルニ至ル可キナリ(七百七十號第二參觀)故ニ贈與者ノ願ニ依リ裁判所ニ於テ取戻ヲ言渡シタル時ニ於テ始メテ贈與ヲ取戻サレシ者ナリトス

第九百五十八條〔七百三十六號〕第肆　恩義忘却ニ原因スル取戻ノ効

恩義忘却ニ原因スル取戻モ亦負擔ノ不執行ニ原因スル取戻ノ如ク過去ニ遡ルノ効ヲ有シ而シテ未來ニ附テハ勿論過去ニ附テモ贈與ヲ取戻スニ於テハ解除ノ未必條件ノ規則ヲ適用ス可ク故ニ又受贈者ヨリ外人ノ得タル所ノ一切ノ權利ヲモ取消サヽル可カラス然リト雖モ過去ニ遡テ取戻ヲ爲スハ不正ノ事ナル可シ受贈者ト結約シタル外人ハ贈與者ヨリ賠償ヲ訴フル所ノ恩義忘却ノ事ニハ更ニ關渉スル所ナキ者ナリ

故ニ法ハ他ノ方法ニ從ハサル可カラス而シテ法ハ此主意ノ一部ヲ用ヒシナリ恩義忘却ニ原因スル取戻ハ是レ其妨害ノ賠償ナリ是ニ由テ此妨害ニ附テ罪ス可キ者ノ其賠償ヲ爲ス可キナリ

妨害ニ附テ罪ス可キ者ハ受贈者ナリ故ニ受贈者ハ罰セラル可キナリ受贈者ヨリ贈與ノ利益ヲ取戻スハ是レ之ヲ罰セシナリ受贈者ト結約シタル所ノ外人ハ贈與者ヨリ賠償ヲ願フ所ノ犯罪ニ干預セシ者ニ非ス故ニ罰セラル可キ者ニ非サルナリ是ニ由テ外人ハ贈與物ニ附キ受贈者ヨリ其得タル所ノ一切ノ權利ヲ保有ス可キナリ

然リト雖モ亦法ヲ以テ贈與者ノ利益ヲモ保護セサル可カラサリシナリ是ニ由テ何レノ時刻ヨリ以後ハ受贈者ハ其返還セサル可カラサル所ノ物件ヲ適正ニ處置スルノ權ヲ有セサル可キヤ其時刻ヲ定

メサル可カラサリシナリ

此時刻ハ如何ン曰タ取戻ノ訴ヲ外人ノ知ルヲ得タル所ノ時刻ヨリ以後タル可キハ是レ自然ノ事ナル可シ然レハ贈與者ヨリ外人ニ之ヲ知ラシムルニハ何レノ方法ヲ用フルヤ曰ク法ニハ殊更ニ配慮シテ其方法ヲ指定シタリ然レ𪜈是レ獨リ不動產ヲ以テ贈與トナシタル塲合ノミノ事ナリ贈與者ハ第九百三十九條ニ照準シテ謄記ヲ爲シタル所ノ簿冊ノ紙端ニ記スルニ取戻ノ訴ノ抄出書ヲ以テセサル可カラス

受贈者ハ贈與ヲ謄記セシメタルナリト法ハ想像セシナリ故ニ若シ贈與ヲ謄記セシメサリシ時ハ贈與者ハ如何ス可キヤ曰ク第九百五十條ニハ之ニ附テ一言スル所ナシ故ニ今之ヲ補充セサル可カラス乃チ贈與者自身ニ贈與ノ謄記ヲ請求シ而シテ簿冊ノ紙端ニ其取戻

ノ訴ヲ附記セシムルヲ得可キナリ且ツ贈與ノ謄記ニ依リ贈與者豫メ拂フニ及ハサル可キ所ノ費用ヲ拂ハシメラル可キ事ナルカ故ニ贈與者ハ尋常ノ謄記ノ簿冊上ニ其取戻ノ訴ヲ附記セン事ヲ請求スルヲ得可キナリ

故ニ贈與以後ナリト雖モ犯罪以後ナリト雖モ取戻ノ訴ノ前又ハ此訴ノ以後ナリト雖モ其訴ヲ公ケニシタル時迄ニ於テ受贈者ヨリ外人ノ得タル所ノ一切ノ權利ハ皆ナ保存セラル可キナリ是ニ反シテ謄記役所ノ簿冊上ニ其訴ヲ謄記シタルヨリ以後ニ承諾シタル所ノ者ハ皆ナ無効ナリトス

〔七百三十七號〕 然リト雖モ動產ヲ以テ贈與ト爲シタル塲合ニ於テハ決シテ此方法ヲ實行スルヲ得サルナリ動產ノ贈與ハ固ヨリ謄記ノ式ニ從ハサル者ナリ故ニ取戻ヲ以テ外人ニ抵抗スルヲ得ルハ何レ

ノ時刻ナルヤ曰ク法ニ之ヲ云ハサルニ據テ余輩ハ此事柄ニ附テハ自然古法ノ要領ニ從ハサルヲ得サルナリ佛國古昔ノ裁判事例ニ據ルニ取戻ノ効ハ訴ノ日迄ニ遡リシナリ譬ヘハ受贈者訴ヘ以後ニ贈與中ノ物件ヲ賣却シ而シテ其引渡ヲ爲サヽル時ハ贈與者ハ之ヲ取戻スヲ得可キナリ若シ賣買ニ次テ引渡ヲ爲シタル時ハ其買主善意ナルニ於テハ所謂ル動産ニ附テハ實際ノ占有ヲ以テ證書ノ價アル者トスルノ格言ニ依テ保護セラル可キナリ(第二千二百七十九條)

〔七百三十八號〕 贈與者外人ニ對シテ有セシ所ノ人權ヲ以テ贈與ト爲シタル時ハ其取戻ノ訴ヲ公ケニスルハ最モ容易ナル可キナリ贈與者ハ取戻ノ訴ヲ其舊義務者ニ通知スルヲ得可ク而シテ正シク通知セラレタル舊義務者ハ受贈者ニ辨濟スルヲ止メ而シテ贈與取戻ノ事ニ附キ來リ尋問スル者アル時ハ是ヲ此外人ニ示敎セサル可カラス」

然リト雖モ贈與者ハ必ス此公告ノ方法ニ因ラサル可カラサルヤ曰ク必ス因ラサル可カラサルナリトス其說ニ曰ク人權ヲ所得トスル場合ニ於テハ之ヲ義務者ニ通知シ又ハ公成證書ヲ以テ義務者ノ之ヲ承諾シタル時ニ非サレハ之ヲ所得トセシ事ヲ以テ外人ニ抵抗スルヲ得サルナリ(第千六百九十條)然ルニ取戻ノ訴ニ次テ眞ニ取戻ヲ爲ス時ハ其訴ニ依リ贈與者ハ曾テ其贈與シタル所ノ人權ヲ再取ス可キナリ是ニ由テ人權所得ノ事ニ附キ法ノ定メタル所ノ公告ノ方法ニ從ヒ其訴ヲ公告セサル可カラサルナリトス

〔七百三十九號〕 受贈者ヨリ外人ノ得タル所ノ權利ヲ贈與者ノ敬重セサル可カラサル一切ノ場合ニ於テ贈與者ハ受贈者ニ對シ其讓渡シタル物件ノ價額ノ盡ル迄ハ訴ノ時ヨリ以後ハ要償ノ訴ヲ爲スヲ得可ク又ハ贈與物件ニ附キ負擔供給權又ハ書入ヲ爲シタル時ハ是ニ

由テ減却シタル價額ノ盡ル迄ハ要償ノ訴ヲ爲スヲ得可キハ言ヲ待タサル事ナリ

〔七百四十號〕第伍　菓實ノ返還

受贈者ハ取戻ノ訴ヨリ以後ノ者ニ非サレハ返還スルニ及ハス受贈者ハ罪惡ノ日迄ハ善意ナル者ニシテ而シテ此日以後ト雖モ贈與者ノ恩義忘却ノ罪ヲ赦宥センヿヲ切望セシ事アリシナル可キナリ

第九百五十七條〔七百四十一號〕第陸　恩義忘却ニ原因スル取戻訴ノ期限即チ其時効

贈與者ハ固ヨリ其受ケタル所ノ妨害ヲ赦宥スルヲ得可ク而シテ之ヲ默スル事甚タ永キニ過ル時ハ是ニ由テ其之ヲ赦宥セシ意ナル事ヲ想像スルヲ得可キナリ取戻ノ訴ハ短期内ニ之ヲ爲サヽル可カラサルノ規則ヲ設ケシハ是レ之ニ由ルナリ

此期限ヲ一年トス然レヒ其起算ノ點ハ何レノ時ナルヤ法ニ曰ク「是レ贈與者ノ犯罪ヲ知リ又ハ知リ得タル所ノ時刻ナリ」ト「デリー」ト譯犯罪セリノ語ハ妥當ノ者ニ非ス之ニ代フルニ「イングラチチュード」ト譯恩義忘却セリヲ以テセサル可カラス何トナレハ贈與者ハ其身體上又ハ其財產上ニ於テ犯サレタル所ノ犯罪ヲ知ルト雖モ之ヲ犯シタル者ノ受贈者タル事ヲ知ラサル事アル可ケレハナリ

故ニ贈與者恩義忘却ヲ知リ又ハ知リ得タル所ノ日ヨリ起算シテ一年以内ニ取戻ノ訴ヲ爲サヽルニ於テハ其訴ヲ爲スノ權ヲ失フ可キナリ故ニ受贈者ハ取戻ノ訴ヲ破却セントスル時ニ於テ贈與者一年以上恩義忘却ノ事ヲ知リタル事ヲ證スルニ及ハス唯諸狀況ニ依テ贈與者ノ之ヲ知リ得タル可キ事ヲ證明スルノミニテ足レリトス

贈與者ハ恩義忘却ヲ知リ得タル可シト雖モ實際ニ於テ其之ヲ知ラサリシ旨ヲ證明スルヲ許ス可キヤ曰ク此點ニ附テハ法ニ一言セス

然リト雖モ法意ヲ考フルニ余ハ贈與者ニ之ヲ許ス可キヲ信スルナリ蓋シ一年以後ニ至テ訴ヲ爲ス事ヲ贈與者ニ許サヽルハ是レ贈與者ヲ以テ其受ケタル妨害ヲ赦宥シタル者ナリト看做セハナリ然レハ豈ニ之ヲ知ラスシテ之ヲ赦宥スルノ理アランヤ

〔七百四十二號〕第柒　恩義忘却ニ原因スル取戻ノ訴權ヲ有スル人幷ニ其敵手トナリテ此訴ヲ受ク可キ人其訴權ハ之ヲ有スル者ニ附テモ之ヲ受ル者ニ附テモ相續人ニ及フ者ナルヤ

此事項ニ附テハ法ニ左ノ如ク說明セリ(第九百五十七條第二項)即チ「恩義忘却ニ原因スル取戻ハ受贈者ノ相續人ニ對シテ贈與者ヨリ之ヲ願フヲ得ス又受贈者ニ對シテ贈與者ノ相續人ヨリ之ヲ願フヲ得ス但シ此第二ノ場合ニ於テハ贈與者ヨリ其訴ヲ爲シ又ハ犯罪ヨリ一年以內ニ贈與者ノ死去シタル時ハ格別ナリトス」ト

法ニハ左ノ二個ノ場合ヲ記載シタリ

〔七百四十三號〕〔第壹〕　贈與者生存シテ受贈者死去シタル場合

贈與者ハ假令ヒ尙ホ期限內ニ在ルモ受贈者ノ相續人ニ對シテ取戻ノ願ヲ爲スヲ得サルナリ然リト雖モ贈與者既ニ受贈者ニ對シテ之ヲ爲シタル時ハ其相續人ニ對シテ亦之ヲ繼續スルヲ得ルヤ曰ク此論題ニ附テハ反對ノ說アリ

第一說○既ニ一回受贈者ニ對シテ爲シタル願ハ其死去ニ依テ消滅スル事ナシ其相續人ニ對シテ之ヲ繼續スルヲ得可キナリト是レ佛國古昔ノ論者ノ皆ナ許シタル所ノ說ニシテ其本ト羅馬法ノ規則ニ基キシ者ナリ

民法モ亦同上ノ論ヲ再出シタルナリ其法文ニ言フ所ノ如何ヲ見ル可シ取戻ハ受贈者ノ相續人ニ對シテ之ヲ願フヲ得スト云フニ非ス

ヤ民法ハ願フ事ヲ許サスト雖モ其願ノ繼續スルヲ許サヽルニハ非サルナリ故ニ既ニ受贈者ニ對シテ爲シタル訴ハ其相續人ニ對シテ之ヲ繼續スルヲ得可キナリ

若シ然ラストスルニ於テハ贈與者ハ自己ノ干渉セサル事件即チ一變災タル受贈者ノ死去ノ爲メニ其訴權ノ利益ヲ失却ス可キナリ而シテ此ノ如キハ最モ不正ノ事ナル可キナリ

且ツ既ニ贈與者ノ爲シタル訴ヲ其相續人ノ繼續スルヲ得ルハ是レ所謂ル訴權ハ其本人ノ死去ニ依テ消滅スト雖モ本人既ニ之ヲ行フタルニ於テハ其訴權ハ本人ノ死後ニ生存ス可シト云フノ規則ヲ適施スルニ非スヤ此ノ如ク贈與者死去スルモ受贈者ニ對シテ其行フタル訴權ハ消滅セストスルニ於テハ如何ソ受贈者ノ死去ニ依テ此訴權ノ消滅ス可キ事アランヤ

〔七百四十四號〕第二說○受贈者ニ對シテ爲シタル訴ハ其相續人ニ對シテ之ヲ繼續スルヲ得サルナリ思義忘却ニ原因シテ贈與ヲ取戻スノ權ハ是レ實ニ刑事ノ一訴權ナリ何トナレハ其訴ノ主意タル妨害ヲ罰スルニ在レハナリ然レハ凡ソ刑事ノ訴權ハ既ニ之ヲ行フタルト行ハサルトニ拘ハラス罰ス可キ罪人ナキ以上ハ消滅ス可キナリ

故ニ被告人タル者其吟味中ニ於テ死去スル時ハ其相續人ニ對シテ其訴訟ヲ繼續スルヲ得サルナリ且ツ其相續人ニ對シテ罰金ヲ言渡サシムル爲メニスト雖モ之ヲ繼續スルヲ得サルナリ然リ而シテ罰金ハ贈與ノ取戻ト同シク貨財上ノ刑ニ過キサル者ナリ

法ニハ取戻ヲ願フ事ヲ許サスト雖モ之ヲ得ル爲メニ爲シタル願ヲ繼續スル事ヲ禁セシニ非サル事ヲ論スルハ蓋シ無益ノ事ナル可シ是レ實ニ贅言ニ過キサルナリ實ニ願ヲ繼續スルハ是レ亦願フニ非

スヤ法ニ於テ用フル所モ亦固ヨリ此意味ナリ何トナレハ其第二ノ條規ニ曰ク「受贈者取消ヲ得ンカ爲メニ願ヲ爲シタル後ニ死去セシ時ハ其相續人ハ取戻ヲ願フヲ得ス」ト條中ニ於テ「ドマンデ」(願ト譯ス)ノ語ハ「エキジゼー」(宓ム義ナリ)ノ語ト同義ニ用ヒタリ而シテ其意味ハ普通ノ者ナリ

贈與者ニ干渉セサル事件ニ依テ即チ贈與者ノ死去ニ依テ贈與者其訴權ノ利益ヲ失却スルハ眞ニ然リ然リト雖モ此結果ニハ決シテ不正ナル所アルニ非サルナリ實ニ贈與ノ取戻ハ財貨上ノ目的即チ贈與者ヲ利スルノ主意ニテ設立セシ者ニ非ス是レ獨リ受贈者ヲ罰スルノ主意ノミニ出テシ者ナリ是ニ由テ其犯人ノ在ラサル上ハ最早其罰ハ論スルニ及ハサルナリ且ツ受贈者ノ死去スル時ハ贈與者ハ是ニ由テ其訴權ヲ行フノ權ヲ失フニ非スヤ然レハ其既ニ之ヲ行フタ

ル場合ニ於テモ亦之ヲ繼續スルノ權ヲ失ハシメサルハ果シテ何ノ理由ナルヤ

(然レ𪜈論者言フナル可シ贈與者死去スト雖モ其既ニ行フタル訴權ハ消滅セス然レハ受贈者ノ死去ニ依テ其消滅スルハ何故ナルヤ)ト

○曰ク至當ノ理由アレハナリ犯人ノ生存シ而シテ妨害ヲ赦宥セサル限ハ諸事皆ナ同樣ノ形情ニテ在ル可キハ是レ自然ノ事ナル可シ今贈與者死去スト雖モ受贈者ハ是ニ由テ無罪タル可キニ非サルナリ」且ツ法文モ亦之ヲ說述スル事甚タ明カナリ法ニハ左ノ二個ノ規則ヲ設ケタリ

第一　受贈者ノ相續人ニ對シテ取戻ヲ願フヲ得ス

第二　贈與者ノ相續人ヨリ之ヲ願フヲ得ス

而シテ是ニ次テ例外ヲ揭示シ而シテ其例外中ニ載スルニ既ニ行フ

タル訴權ヲ繼續スルノ權ヲ以テス然レモ此例外ハ第二ノ規則ニ附テニ非サレハ當ル可キ者ニアラサル事ハ又之ヲ法文中ニ明示セリ

〔七百四十五號〕（第貳）受贈者生存シテ贈與者死去シタル場合

此第貳ノ場合ヲ規定シタルノ方法甚タ奇怪ナリ先ツ大要ニ於テハ取戻ノ權ハ贈與者ノ一身ニ係ル者ナリト爲シ而シテ後チ又其相續人ニ之ヲ許シ且ツ其權ノ廣大ナル全ク贈與者ノ有スル權ニ異ナラス而シテ相續人ノ爲メニ設ケタル例外ノ廣大ナル恰モ通則ノ如キナリ」

（取戻ハ贈與者ノ相續人ヨリ之ヲ願フヲ得ス云々）○是レ取戻ノ權ハ贈與者ノ相續人ニ移轉ス可キ者ニ非サルヲ云フナリ是レ即チ一個ノ要領ナリ

今其例外ヲ掲ク可シ「但シ贈與者訴權ヲ行フタル時又ハ贈與者犯罪ヨリ一年內ニ死去シタル時ハ格別ナリトス」是レ取戻ノ權ハ相續人ニ移轉スルヲ得可キ者ナリト云フニ非スシテ何ソ實ニ相續人ハ贈與者ノ有シタル所ノ一切ノ權利ヲ有セサル者ナルヤ相續人ハ若シ贈與者一年內ニ死去シタル時ハ贈與者ノ如ク取戻ノ訴權ヲ行ヒ又贈與者既ニ之ヲ行フタル時ハ之ヲ繼續スルヲ得サル可キヤ且ツ贈與者尙ホ生存セシニ於テハ其相續人ノ爲スヲ得可キハ何事ナルヤ

〔七百四十六號〕然リト雖モ二三ノ論者ハ贈與者ト其相續人トノ間ニハ一個ノ差異アル事ヲ主張セリ其說ニ曰ク贈與者ニ附テハ一年ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算セスシテ其之ヲ知リ又ハ之ヲ知リ得タル所ノ日ヨリ起算ス是ニ反シテ其相續人ニ附テハ此期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス此點ニ附テハ明文アリト○此說ハ蓋シ世人ノ用ヒサル所ノ者ナリ一般ニハ本條第二項ニ言フ所ノ犯罪ノ日モ亦其第一項ニ言フ所ノ者モ同樣ナリトセリ

總テ是ニ拘ハラス贈與者ノ相續人ハ移轉(トランスミッション)ニ依ラサレハ贈與ノ取戻ヲ願フノ權ヲ得ル能ハサル事ハ是レ明カニ吾人ノ知ル所ナリ相續人ハ贈與者ノ身ニ附テ生シタル所ノ權利ニ相續スル者ナリ然リトヽ雖モ此權利ハ相續人ノ身ニハ生スルヲ得サルナリ是ニ由テ贈與者ノ記念(メモワル)ニ附テ爲シタル重大ノ不敬ハ取戻ノ原因ニ非サル可キナリ

〔七百四十七號〕概言スルニ恩義忘却ニ原因スル取戻ヲ願フノ權ハ被害者ノ方ニ在テハ相續人ニ移轉スル者ニ非スシテ常ニ受贈者ノ死去ニ依テ消滅スル者ナリ

此權ハ贈與者ノ相續人ノ身ニ附テ生スルヲ得スト雖モ贈與者ノ身ニ附テ生シタル權ハ其相續人ニ移ル可キナリ若シ贈與者既ニ取戻ノ訴權ヲ行フタルニ於テハ其訴權ハ贈與者尙ホ自身ニ之ヲ繼續スルト一般ニ其相續人ハ之ヲ繼續スルヲ得可キナリ若シ又受贈者ノ爲シタル恩義忘却ヲ知ラスシテ贈與者ノ死去セシ時ハ其相續人ハ此犯罪ヲ知リ又ハ知リ得タル可キ日ヨリ起算シテ一年以內ハ之ヲ行フヲ得可キナリ又贈與者ノ之ヲ知リ得タル時ハ其死去ヨリ一年ニ至ル可キ日數ノ殘リタル時間內ニ非サレハ相續人ハ之ヲ行フヲ得サルナリトス○然リト雖モ贈與者其身ニ附テ犯罪ヲ受ケタル時刻ニ死去スル時又ハ其後頃刻ニシテ死去スル時即チ概言スルニ贈與者犯罪ヲ其相續人ニ告ルノ時ナクシテ死去スル時此場合ニ於テハ其相續人受贈者ノ恩義忘却ヲ知リ又ハ知リ得タル所ノ日ヨリ起算シテ一年ヲ定メサル可カラス

〔七百四十八號〕財產ノ相續人ハ正統相續人ノ如ク恩義忘却ニ原因スル取戻ノ權ニ附テ相續スル者ナルヤ

二三ノ論者ハ其相續ス可カラサル事ヲ主張セリ其說ニ曰ク此權ハ

貨財上ノ權利ニ非スシテ贈與者ノ受ケタル妨害ヲ罰スルヲ以テ其効トスル者ナリ而シテ財産取戻ハ此結果ヲ生セシムルカ爲メニ法律ノ與ヘタル手段ニ過キサルナリ此權ヲ行フノ身分ヲ有スル者ハ獨リ妨害ヲ受ケタル者(贈與者)幷ニ其代理タル者(正統相續人)ノミナリト

又他ノ論者ハ其相續ス可キ事ヲ主張セリ其說ニ曰ク贈與者ハ其利益ノ爲メニ生シタル所ノ權ヲ其相續中ニ遺シタルナリ何人ナリトモ其相續ヲ受ル者ハ猶ホ他ノ權ニ於ケルカコトク此權ニ相續ス可キナリ何トナレハ法ニハ更ニ區別スル事ナクシテ此權ノ其相續人ニ移轉ス可キ事ヲ述フレハナリト

然リト雖モ贈與者ノ生存スル限ハ之ヲ行フノ權ヲ有スルハ獨リ贈與者ノミナル事ハ是レ世人ノ認可スル所ナリ贈與者ノ權利者ハ之ヲシテ此權ヲ行ハシムルヲ得ス又其地位ニ立テ自身之ヲ行フヲ得サルナリ敕宥スルノ權アル者ハ獨リ贈與者ノミナルカ故ニ其訴權ヲ行フヲ得ル者モ亦獨リ贈與者ノミナル可キナリ

〔七百四十九號〕第捌　負擔ノ不執行ニ原因スル取戻ト恩義忘却ニ原因スル取戻トノ差異

第一〇第一種ノ取戻ハ未來ニ附テモ過去ニ附テモ贈與ヲ消滅セシムル者ニシテ而シテ此取戻ハ唯受贈者ニ對シテ抵抗スルヲ得可キノミノ者ニ非ス又贈與財産上ニ於テ受贈者ヨリ物權ヲ得タル所ノ外人ニ對シテモ抵抗スルヲ得可キ者ナリ(七百二十六號參觀)○第二種ノ取戻ハ唯未來ニ附テ贈與ヲ消滅セシムルニ過キサル者ニシテ而シテ贈與取戻ノ願ノ公告以前ニ受贈者ト結約シタル所ノ外人ニハ抵抗スルヲ得サル者ナリ(七百三十六號參觀)

第二〇第一ノ取戻ハ三十年間之ヲ爲スヲ得可シ(七百二十九號參觀)

〇第二ノ取戻ハ僅ニ一年ノミナリ(七百四十一號參觀)

第三〇第一ノ取戻ハ贈與者ヨリ贈與者ノ相續人ニ對シテ之ヲ行フヲ得可シ又ハ贈與者ノ相續人ヨリ直ニ受贈者ニ對シテ行フヲ得可キナリ(七百二十八號參觀)〇第二ノ取戻ハ贈與者ヨリ受贈者ノ相續人ニ對シテハ之ヲ行フヲ得ストス(七百四十三號參觀)

第四〇第一ノ取戻ハ第千百六十六條ノ要領ニ照準シテ贈與者ノ權利者ヨリ之ヲ行フヲ得可シ(七百二十八號參觀)〇第二ノ取戻ハ贈與者又ハ其相續人ニ非サレハ之ヲ行フヲ得サルナリ(七百四十八號參觀)

〔七百五十號〕 是ニ由テ贈與ヲ爲ス時ハ明言シテ養料ヲ約束スルハ無益ニ非サルヲ見ル可キナリ加之ス假令ヒ此約束ヲ爲ス事ナシト雖モ贈與者養料ヲ必要トスル場合ニ於テ受贈者之ヲ扶助スルヲ拒ムノニ於テハ贈與者ノ其贈與ヲ取戻スヲ得可キハ疑ヲ容レサル事ナリ然リト雖モ此場合ニ於テハ是レ恩義忘却ニ依テ之ヲ取戻スナリ若シ明言シテ養料ヲ約束シタルニ於テハ是レ負擔ヲ執行セサルニ依テ之ヲ取戻スナリ

第九百五十九條

〔七百五十一號〕 第玖 恩義忘却ニ依テ取戻スヲ得サル所ノ贈與

婚姻ノ爲メニ爲シタル贈與ハ恩義忘却ニ原因シテ之ヲ取戻スヲ得サルナリ

此例外ハ恩義忘却ニ原因スル取戻ノ性質ニ附テ一個ノ新結果ナリ蓋シ婚姻ノ爲メニ爲シタル贈與ハ獨リ直接ニ受贈者タル匹耦者ノ爲メノミニスル者ニ非スシテ又其匹耦者ト婚姻ニ依テ出生スル所ノ子トノ爲メニスル者ナリ故ニ直接ナル受贈者ノ恩義忘却ニ依テ取戻ヲ言渡スニ於テハ其取戻ハ無辜ノ人ヲ害ス可キナリ而シテ是

レ法ノ欲セサル所ナリ

〔七百五十二號〕一方ノ匹耦者ヨリ他ノ匹耦者ニ爲シタル贈與ハ外人ヨリ匹耦者中ノ一人ニ爲シタル贈與ノ如ク恩義忘却ニ原因シテ取戻スヲ得サル者ナルヤ

一ニ第九百五十九條ノ法文ノミニ據ル時ハ疑フ可キノ論題タルニ非サル可シ余輩ヲ以テ之ヲ見ルニ「婚姻ノ爲メニ爲シタル贈與ハ恩義忘却ニ原因シテ取戻スヲ得サル者ナリ而シテ匹耦者中ノ一方ヨリ他ノ者ニ爲ス所ノ贈與ハ固ヨリ婚姻ノ爲メニ爲シタル者ナル可キナリ何トナレハ此贈與ナキニ於テハ婚姻ハ恐ラクハ決定セサリシナル可ケレハナリ故ニ此贈與ハ恩義忘却ニ依テ取戻スヲ得可キ者ニ非ストス」然リト雖モ法文ニ拘泥セスシテ而シテ法意ニ因循スル時ハ反對ノ說ヲ許ス可キハ疑ヲ容レサル事ナリ實ニ本條ニ於テ

例外ヲ說キタル所以ノ理由ヲ考フ可キナリ此理由ハ余輩既ニ之ヲ指定セリ受贈者タル匹耦者ノ恩義ヲ忘却スルヨリシテ婚姻ニ依テ出生スル所ノ子ヲシテ其害ヲ受ケシメン事ハ是レ法ノ欲セサル所ナリ然ルニ此理由ハ外人ヨリ匹耦者中ノ一人ニ贈與ヲ爲シタル場合ニ非サレハ當ラサル者ナリ匹耦者ノ一方ヨリ他ノ一方ニ贈與ヲ爲シタル時ハ其贈與ヲ取戻スモ無辜ノ匹耦者ヲ害スルニハ非サルナリ何トナレハ取戻ニ附テ利益ヲ有スル者ハ即チ此無辜ノ匹耦者ナレハナリ又決シテ婚姻ニ依テ出生シタル子ニ害ヲ與フルニ非サルナリ何トナレハ取戻ノ効ハ罪ス可キ匹耦者ノ收受シタル所ノ財產ヲ剝取シテ他ノ無辜ナル匹耦者ノ家產中ニ入ルヽニ過キサル者ナレハナリ然レハ豈ニ恩義忘却ニ拘ハラスシテ此贈與ヲ存立セシム可キノ理アランヤ玆ニテハ受贈者ハ尋常ノ受贈者ヨリモ殊ニ罪

ス可キ者ナリ何トナレハ此受贈者ハ匹耦者タルノ本分ヲ失フノミナラス兼テ又受贈者タル其本分ヲモ失ヘハナリ贈與ノ取戻ハ獨リ罪ス可キノ匹耦者ヲ罰スルニ過キサルナリ然レハ何ノ故ニ之ヲ許サヽル可キヤ(第一帙八百五十五號ノ附言ニ言ヒシ所ヲ參觀ス可シ)

〔七百五十三號〕受贈者ノ恩義忘却ニ拘ハラス取戻スヲ得サル者ハ獨リ婚姻ノ爲メニ爲シタル贈與ノミナリ是ニ由テ恩義忘却ニ因リ取戻サルヽヲ得可キ者ハ唯〻尋常ノ贈與ノミナラス又左ノ贈與ハ皆ナ取戻サルヽヲ得可キ者ナリ

第一　報酬(レミユネラトリル)ノ贈與即チ他ノ救助ヲ受ルニ依テ爲シタル贈與○贈與者ノ受ケタル所ノ救助タル金錢ニテ其償ヲ定ムルヲ得可キ者ナルト然ラサル者ナルトニ拘ハラス又其救助タル贈與者ヨリ受贈者ニ與フル所ノ利益ニ匹敵ス可キ者ナルト然ラサルトニ拘ハル事ナシトス是レ純粹ニ自然ノ義務即チ道德上ノ義務ヲ辨濟スル事(千三百九號、千三百十號參觀)ナリト雖モ亦實ニ一恩與ニ外ナラサル者ニシテ而シテ其基礎ニ附テモ亦其法式ニ附テモ贈與ヲ規定スル所ノ規則ニ從フ者ナリ

〔七百五十四號〕第二　雙方(ミユチユエル)ノ贈與即チ二人アリ雙方互ニ一個同一ノ契約ニテ爲ス所ノ贈與○譬ヘハ甲ハ乙ニ與フルニ其家屋ヲ以テシ而シテ乙亦同一ノ契約ニテ甲ニ與フルニ其葡萄園ヲ以テスル如キ是ナリ此ノ如ク雙方相互ニ爲ス贈與ヲ稱シテ雙方ノ贈與ト云フ乙ハ知ラスト雖モ甲ハ己レノ爲シタル所ノ贈與ノ取戻ヲ願ヒ而シテ其家屋ヲ再取スルヲ得可キナリ此ノ如ク甲ハ其爲シタル所ノ贈與ヲ取戻スト雖モ是ニ由テ其受ケタル所ノ贈與モ亦取戻サルヽニ

ハ非サルナリ實ニ雙方ノ贈與ハ各個特別ニシテ互ニ相干渉セサル者ナリ二個ノ贈與ハ贈與者ヨリ受贈者ニ於ケル親愛中ニ於テ各〻其成立スル所以ノ主タル原因アル者ナリ各贈與者ノ受ル所ノ恩與ハ贈與者ヲシテ贈與ヲ爲スノ意ヲ生セシムルノ原因中ニ入ル事アル可シト雖モ然レ𪜈此恩與ハ其贈與ヲ爲シタルニ附キ常ニ間隔シタル理由ニ過キサル者ニシテ決シテ其直接ニシテ而シテ主タル原因ニハ非サル可キナリ

然リト雖モ結約者雙方ノ眞實ノ主意ハ配慮シテ之ヲ考究セサル可カラス雙方ノ者ハ實ハ更換ヲ爲サントスルノ眞意ニシテ而シテ其所爲ノ名義ヲ誤ル事實際之アル可キナリ是ニ由テ裁判官ハ結約者ノ之ニ附シタル所ノ名義ヨリモ殊ニ其事柄ノ性質ヲ考察セサル可カラス故ニ雙方ニテ讓渡ヲ爲シタルノ主意實際共ニ相愛好スルニ

非スシテ一方ノ收受スル所ノ財産ト他ノ讓渡ス所ノ財産ト互ニ相更換スルニ在ル時ハ決シテ取戻ヲ爲スヲ得サルナリ此場合ニ在テハ雙方ノ爲シタル所ノ所爲ハ即チ眞成ノ更換ニシテ而シテ要償ノ契約ニ於テハ雙方何レニ在テモ其恩義ヲ報酬スル事ナキナリ

○第四節　子ノ出生ニ原因スル贈與ノ取戻

第九百六十條及第九百六十一條

〔七百五十五號〕贈與ヲ作成スル時ニ於テ絶ヘテ生存スル子ヲ有セサリシ者ノ爲シタル贈與ハ若シ其贈與者ノ子ノ出生スル事アルニ於テハ取戻サル可キナリ

第壹　此取戻ノ由來

○此取戻ハ既ニコンスタンス帝ノ憲法中ニ在リシ者ニシテ而シテ該憲法ハギュスチニヤン帝ノ法典中ニ於テ「ド、レボカンギス、ドナジオニビュス」贈與ノ取戻ノ義ト題シタル卷ニ入リシ者ナリ此法典ハ即チ當時ノ

子ノ出生ニ原因スル贈與ノ取戻

憲法ニシテ又之ヲ「シ、ユンカム」ノ法ト稱セシナリ何トナレハ其法文先ツ此語ニ依テ始マリシ者ナレハナリ此法ニハ唯主人ヨリ其自由ヲ與ヘタル所ノ奴隷ニ爲シタル贈與ヲ規定セシニ過キサルナリ獨リ此贈與ニ限テ子ノ出生スル時ハ之ヲ取戻スヲ得タリシナリ

千七百三十一年ノ命令書ニテ羅馬法ノ要領ヲ擴充シ而シテ將來夫婦タル可キ約アル匹耦者ノ間又ハ尋常ノ匹耦者ノ間ニ於テ爲シタル贈與ニ之ヲ適施シタリ

民法ノ草案ニハ贈與取戻ノ此原因ハ之ヲ刪除シタリト雖モ終ニ又此廢止ノ價ナキニ至レリ即チ參議院ニ於テ千七百三十一年ノ命令書ニ定メタル權利ヲ許シ而シテ該條規ヲ殆ト其原文ノ儘ニテ再出シタリ

ビゴー、プレアムヌー氏立法院ニ告ケテ曰ク子ノ出生ニ依リ贈與ヲ取戻ス事ハ千七百三十一年ノ命令書中ニ述ヘタル如ク之ヲ

存立セラル可シト

故ニ該命令書ノ主意ハ全ク民法中ニ再存セシナリ是ニ由テ此理論ノ趣旨ヲ討訊シ又ハ之ニ關スル論題ヲ決斷セントスル時ハ此事項ニ附キ昔人ノ述ヘタル說ニ依ルニ非サレハ其眞意ヲ探ルヲ得サル可キナリ

〔七百五十六號〕 第貳 取戻ノ此原因ノ理由并ニ其性質

ポチエー氏此取戻ノ理由ヲ論シ曰ク凡ソ子ヲ有セサル者ノ贈與ヲ爲スハ是レ終ニ其子ヲ有スル能ハサル可シト信スレハナリ若シ其子ヲ有ス可キヲ豫察スルニ於テハ贈與ヲ爲サヽル可キナリ是ニ由テ其贈與ニ附テハ若シ子ノ出生スル事アルニ於テハ之ヲ取戻ス可キノ約條ヲ暗ニ含蓄シタル者ナリト看做サヽル可カラサルナリ

此推測ハ甚タ强大ノ者ニシテ假令ヒ之ニ反スル陳述ヲ契約書中ニ

記載スト雖モ之ヲ破却スルヲ得サルナリトス故ニ假令ヒ贈與者ハ明言シテ子ノ出生スル事アルモ取戻ヲ願ハサル可キ旨ヲ陳述シテ其權ヲ拋棄スル時ト雖モ贈與ヲ取戻スヲ得可キナリ若シ此ノ如キノ約條ヲ許スニ於テハ常ニ贈與書ノ書式トナル可ク而シテ公證人ハ常ニ必ス之ヲ贈與書中ニ記載ス可ク贈與者モ亦尚ホ父タルノ情ヲ有セサルカ故ニ常ニ之ヲ承諾ス可キナリ且ツ取戻ノ權ヲ拋棄スルモ亦是レ眞成ノ思與タル事ナリ是ニ由テ都テ贈與ハ皆ナ子ノ出生ニ依テ必然取戻スヲ得可キ者ナリトス

〔七百五十七號〕 懷妊シタル婦又ハ懷妊シタル婦ノ夫ノ爲シタル贈與ハ之ヲ爲シタル時刻胎內ニ在リタル子ノ出生ニ依テ取戻サル可シ然リト雖モ法ノ理由ハ此場合ニハ適中セサル者ノ如シ何トナレハ贈與者ハ妊娠ノ子アルヲ知ルカ故ニ其贈與ヲ爲シタルハ是レ子ノナカル可キヲ信セシカ故ナリト言フヲ得サレハナリ然レモ其辯解ヲ爲ス者アリ曰ク尙ホ未タ子ノ出生セサル以前ニ在テハ其父母タル者ハ現ニ其子ヲ有シタル時ノ如キ情ナカル可ク而シテ既ニ其親子ノ情ヲ有シタルニ於テハ必ス贈與ヲ爲サヽリシナル可キナリ

現在生存スル子ヲ有スル者ノ爲シタル贈與ニ附テハ此ノ如クナルヲ得ス第二子ノ出生スル事アルモ贈與ヲ取戻スヲ得サルナリ凡ソ父タル者ハ其子ニ附テハ皆ナ同一ノ親愛アル者ナリ是ニ由テ贈與ノ時刻ニ於テ第一子ヲ有スル者ニシテ而シテ贈與ヲ爲スニ於テハ其以後ニ出生シタル子ニ附テ殊ニ親愛ノ情深カル可シトハ是レ決シテ吾人ノ信スルヲ得サル所ナリ

然リト雖モ第二子ノ出生スル事モ亦其影響ヲ贈與ニ與ヘサルニ非サルナリ實ニ死者ノ遺ス所ノ子ノ多少ニ從テ其處置スルヲ得可キ

分量ニ増減アル可キハ是レ吾人ノ既ニ知ル所ナリ故ニ第二子ノ出生スル時ハ處置スルヲ得可キノ分量ヲ減却シ而シテ其贈與ノ全部又ハ一部ヲ減殺セシムルヲ得可キナリ是レ贈與ノ時刻ニ於テ贈與者ノ有シタル子ノミヲ其死後ニ遺シタル場合ニ於テハ此ノ如キノ減殺ハ之ヲ爲ス事ナカル可キナリ

〔七百五十八號〕 第參 取戻ノ此原因ハ何人ノ爲メニ之ヲ設ケタル者ナルヤ

論者曰ク法ニ之ヲ設ケタルノ主意ハ獨リ贈與者ノ利益ノ爲メノミニ在リ其説ニ曰ク取戻ス所ノ財産ハ子ニ歸スルニ非スシテ贈與者ニ歸スルナリ贈與者ハ其意ノ欲スル所ニ從ヒ舊受贈者ニ之ヲ與フルヲ得可ク又ハ外人ニ之ヲ與フルヲ得可キナリ是レ其證據ナリ又贈與ヲ爲シタル以後ニ至リ出生シタルノ子死去スルモ是ニ拘ハラス其贈與ハ取戻サレタル儘ニシテ別ニ復立セラルヽ事ナシ是レ亦其證據ナリ其子タル生存ス可キノ景狀ニシテ出生スルニ於テハ僅ニ一日ニシテ死去スルモ贈與ハ無論取戻サル可キナリ○此説タル是レ全ク古昔ヒュルゴン氏ノ主唱シタル所ニシテ更ニ子ノ利益ヲ顧ミサル者ナリ

此説ノ主意タル眞ニ法意ヲ得タル者ナルヤ曰ク余ヲ以テ之ヲ見ルニ法意ハ此ノ如クナルニ非サル可キナリ法ノ贈與者ヲ保護セントスルハ眞ニ然リ然リト雖モ法ハ亦子ノ利益モ之ヲ觀察セシニ相違ナカル可シ法ノ贈與ヲ取戻サシムルハ專ハラ贈與者ノ子ニ於ケル愛情ヲ察シテ其贈與トナシタル財産ヲ舊ニ復セシメ而シテ其子ヲシテ父ノ相續中ニ於テ其財産ヲ得セシムルニ在ルナリ

セル氏幷ニポチエー兩氏ノ説ニモ之アリ曰ク法ニテ贈與ヲ取戻サシムルハ是レ唯

贈與者ノ爲メノミナラス又其子ノ爲メニスルナリト此事項ニ附テハ七百六十二號及ヒ七百六十三號ヲ參觀ス可シ

然リト雖モ取戻ノ權ハ贈與者ノ身ニ生スル者ナリ是レ亦知ラサル可カラサルナリ且ツ贈與者ハ此權ヲ得ルモ必シモ之ヲ利用スルニ及ハサルナリ之ヲ行フト否トハ全ク贈與者ノ意ニ在リ故ニ其子ハ間接ニ非サレハ取戻ノ利益ヲ得サルナリ其子ハ左ノ三件ノ合スル時ニ非サレハ其利益ヲ得ル事ナシ

第一　其子ハ贈與者ノ死後ニ至テ尙ホ生存スル事ヲ要ス

第二　其子ハ贈與者ノ相續ヲ領承スル事ヲ要ス

第三　贈與者其取戻シタル所ノ財產ヲ更ニ又他ニ處置セサリシ事ヲ要ス

〔七百五十九號〕第肆　子ノ出生スルニ依リ贈與ヲ取戻スニ附キ必要ナル條件

茲ニヲテ贈與ヲ取戻サンニハ左ノ一個ノ條件ノ集合セン事ヲ要ス

第一　贈與ノ時ニ於テ現存スル子又ハ卑屬ヲ贈與者ノ有セサランヿ事ヲ要ス尙ホ茲ニ再言ス可キ事アリ即チ贈與ノ時刻ニ懷胎シタル子ハ現存スル子トハ看做サヽル事是ナリ是ニ由テ贈與ノ時ニ現存スル子ヲ有セサル者ノ爲シタル贈與ト看做シテ此子ノ出生スル時ハ其贈與ヲ取戻ス可キナリ

法ニハ複稱ヲ以テ記スト雖モ（第九百六十條ニ「アンファン」子ト譯ス幷ニ「デッサンダン」卑屬ト譯スノ二語共ニ複稱ニ記シ數人ノ意ヲ示シタリ）贈與ヲ爲シタル時刻ニ於テ假令ヒ一人ノミナリトモ子ヲ有シタル時ハ其爲シタル贈與ハ其後ヲ第二子ノ出生スル事アルモ之ニ由テ取戻ヲ爲スヲ得サルナリトスボチエー氏ノ言ニ曰ク俗間ノ用語ニ從フニ既ニ一子ヲ有スル者ハ諸子ヲ有セスト言フヲ

得サル可キナリ（茲ニ諸子ト譯セシハ所謂複稱ノ「アンフリン」ヲ指スナリ然リト雖モ譯文上未タ其意ヲ詳悉スルヲ得サルナリ）

第二　贈與者ノ嫡生ノ子ナリ又ハ嫡生ニナシタル私生ノ子ナリ其出生セン事ヲ要ス

贈與前ニ出生シタル私生ノ子ハ之ヲ嫡生トスルモ之ニ由テ取戻ヲ爲スヲ得サルナリ私生ノ子ノ出生幷ニ之ヲ嫡生トスル事何レモ皆ナ贈與ヨリ以後ニ非サレハ取戻ヲ爲ス能ハサルナリ

嫡生ノ子父ノ死後ニ出生スル時モ亦贈與ヲ取戻ス（第九百六十六條ヨリ推論ス）○孫ノ出生ハ之ニ異ナリトス吾人ノ孫ニ附テ有スル所ノ愛情ハ吾人ノ子ニ附テ有スル愛情ト實ニ同一ナラサルナリ然リト雖モ贈與者其贈與ノ時ニ於テ現存スル所ノ子ヲ有セサルナリ然レハ如何ソ其孫ノ出生スル事アル可キヤ曰ク此事項ニ附テハ左ノ

場合ヲ想像セサル可カラサルナリ即チ贈與者其息子ノ死後ニ贈與ヲ爲シ而シテ其息子ノ寡婦其夫ノ死後十箇月內ニ於テ子ヲ產ミタル事ヲ想像ス可キナリ

〔七百六十號〕紛議アル論題

第一　贈與ノ時刻ニ於テ公認セラレタル私生ノ子アル時ハ後ニ至リ贈與者ニ嫡生ノ子ノ出生スル場合ニ於テ贈與ヲ取戻スノ妨ケタル可キヤ曰ク古法ニ據ル時ハ贈與ヲ取戻スノ妨ケトナル事ナシ而シテ此點ニ附テ民法編集官ハ古法ヲ改革セシトハ思考スルヲ得サルナリ何トナレハ七百五十五號ニ於テ余ノ既ニ論述セシカ如ク編集官ハ殆ト彼ノ命令書ノ全文ヲ摸寫シテ改作スル所ナケレハナリ且ツ贈與ノ時刻ニ私生ノ子アル事ハ取戻ノ原因タラサル事ヲ故ラニ編集官ノ明記セシニ依テ知ル可キナリ若シ果シテ贈與ノ時刻ニ

此私生ノ子アル事ノミヲ以テ直ニ取戻ヲ妨ケシメシニ於テハ此事項ニ附キ明文ヲ掲ルハ眞ニ無益ノ業ナル可キナリ

〔七百六十一號〕第二　贈與者僅カニ一子アルノミニシテ而シテ其子失踪セシ時ハ贈與ノ時刻ニ於テ子ナキ者ト看做ス可キヤ○第二子ノ出生ニ依リ又ハ失踪者タル子ノ歸來ニ依テ贈與ノ取戻サル可キ時ニ於テハ子ナキ者ト看做ス可キナリ何トナレハ失踪中ハ其子ヲ生存セサル者ト看做スニ依テ又其歸來セシ事ヲ以テ眞ニ子ノ出生セシト同視ス可キハ理ノ當然ナレハナリ又若シ其贈與ヲ取戻スヲ得サル可キニ於テハ子ナキ者ト看做スヲ得サルナリトス

最普通ノ説ニ從フニ贈與ノ時刻ニ失踪者タル子ハ其財產ヲ假リ占有ニ附スルノ間ハ生存スル者ト看做シ而シテ之ヲ確定ノ占有ニ附シタル後ハ生存セサル者ト看做セリ

余ノ見ル所ヲ以テスルニ古法中ニモ一個ノ區別アリ而シテ上文述フル所ノ區別ト全ク同一ナルニ非スト雖モ亦殆ト之ニ類スル者ナリ贈與ノ時ニ於テ新ニ失踪ヲ爲シタル時ハ其子ヲ存命ナル者ト看做ス此場合ニ於テハ贈與者ハ其子ノ歸來ランヿヲ希フテ之ヲ待ツカ故ニ贈與者終ニ其子ナキヲ測度シタルニ依テ贈與ヲ爲シタリト言フヲ得サルナリ又若シ是ニ反シテ其失踪タル大ニ年月ヲ經タル事ナルニ於テハ失踪者ハ存命セサル者ナリト看做サル可キナリ何ーナレハ贈與者ハ其子ヲ死シタル者ナリト信セシカ故ニ贈與ヲ爲シタルナリト想像スルハ是レ自然ノ事ナレハナリポチエー氏曰ク贈與ノ時ニ於テハ子生存セシト雖モ久シク失踪シ而シテ既ニ死去セシ者ト人ノ信スルニ至ル時ハ贈與ハ子ノ出生ニ依テ取戻サル可キナリ何トナレハ法ノ基本トスル所ノ理由ニ依ルニ是レ子ノナキ

ニ均シカル可ク又ハ子アルモ之ヲ知ラサルニ同シカル可ケレハナリト

ポチエー氏又曰ク此場合ニ於テ贈與ハ第二子ノ出生ニ依リ且又失踪シタル子ノ歸來ニ依テ取戻サル可シト余ノ見ル所ヲ以テスルニ是レ實ニ眞意ヲ得タル者ナル可キナリ

論者曰ク然リト雖モ子ノ歸來ル時ハ是レ實ニ贈與ノ時刻ニ其生存シタルノ證據ナリ然レハ贈與ヲ取戻サントスルノ説ハ是レ法律ヲ干犯スルニ非スヤ

曰ク偏ヘニ法文ノミニ拘泥スルニ於テハ法律ヲ干犯シタル事ナル可シ然リト雖モ法律ノ精神及ヒ其由來ヲ考フルニ於テハ却テ法律ヲ遵守シタル者ナル可シ余竊カニ思フ立法官ハ此條規ヲ設クト雖モ實ハ本論ノ場合ヲ考察セシニ非サリシナル可シ是ニ由テ本論ノ場合ハ古法ノ來歷ニ就テ述ヘタルカ如ク法律ノ主意ニ從テ之ヲ斷定スルハ全ク法理ニ適シテ妥當ナルニ似タリ(七百五十五號參觀)

〔七百六十二號〕第三「ピュタチフ」ノ婚姻(其實無効ノ婚姻ナリト雖モ匹耦者之ヲ知ラスシテ結ヒタル婚姻ヲ云フナリ)ニ依テ出生シタル子、贈與ノ時刻ニ存在スル時ハ其贈與ノ取戻ヲ妨ク可キヤ○贈與ヲ爲シタル時刻ニハ生存スル子ヲ有セスト雖モ「ピュタチフ」ノ婚姻ニ依リ子ノ出生スル時ハ其贈與ヲ取戻ス可キヤ

本論二個ノ場合ニ於テ善意ナル匹耦者ノ贈與ヲ爲シタル事ヲ想像スルニ於テハ、一ハ取戻ヲ妨ケ、一ハ取戻ヲ許ス可キナリ實ニ「ピュタチフ」ノ婚姻ハ之ニ因テ出生シタル所ノ子幷ニ適正ナリト信シテ結約シタル所ノ匹耦者ノ爲メニハ適正ナル婚姻ト同シク民法上ノ効ヲ有スル者ナリトス(第二百一條及第二百二條)○然リト雖モ「ピュタチフ」

ノ婚姻ノ無効タル可キ匹耦者即チ惡意ニシテ結婚シタル所ノ匹耦者ノ贈與ヲ爲シタル場合ニ於テハ如何ンス可キヤ

第一ノ論題ニ附テハ余ハ其妨ケタル可キヲ承認ス受贈者ハ當ニ贈與者ニ言フナルヘシ曰ク贈與ノ時刻ニ於テ汝嫡生ノ子ヲ有シタリ(第二百二條)故ニ子ノ出生ニ依リ其贈與ヲ取戻ス能ハサルナリ(第九百六十條)若シ其婚姻ノ無効タル事ヲ論述スルヲ贈與者ニ許シタリシニ於テハ贈與者ハ此辯難ニ逃カル、ヲ得可シト雖モ然レトモ其惡意ナルヲ疾クミ而シテ之ヲ罰センカ爲メノミニ設ケタル無効ヲ論述スル事ヲ以テ如何ソ此贈與者ニ之ヲ許スヲ得ンヤ

第二ノ論題ニ附テハ是ニ反シテ余ハ取戻ヲ爲ス能ハサル可キヲ主張ス余輩ノ論シ來リシ所ノ取戻ハ贈與者ノ子ヲ考察シ而シテ其利益ノ爲メニ設ケタル者ナリト雖モ其取戻ノ權ハ贈與者ノ身ニ非サレハ生スルヲ得サルハ固ヨリ是レ當然ノ事ナリトス其子ハ決シテ自己ノ權ヲ以テ受贈者ニ對シテ訴ヲ爲スヲ得サルナリ(七百五十八號參觀)是ニ由テ贈與者ニ別段ナル理由アリ而シテ其利益ノ爲メニ取戻ヲ爲ス可キノ理ナシト言ハサルヲ得サルナリ今本例ニ於テハ贈與者ハ如何ソ其嫡生ノ子ノ出生シタルヲ主張スルヲ得ン若シ其結約シタル所ノ婚姻タル贈與者ニ附キ且ツ其利益ノ爲メニモ適正ナル者ナリシニ於テハ贈與者ハ之ヲ主張スルヲ得可シト雖モ然レトモ贈與者ニ關シテハ全ク成立セサル者ニシテ而シテ其効ナキハ固ヨリ言ヲ待タサルナリ

余ノ法意ヲ解釋セシ所ノ事ハ(七百五十五號參觀)實ニ余ノ確信シテ疑ハサル所ノ者ニシテ古法中ニ在テハ一般ニ世人ノ承諾セシ所ナリ古人ノ言ニ曰ク取戻ノ權ハ子ノ有スル所ノ權ニ非スシテ是レ贈

與者ニ固有スル所ノ者ナリ是ニ由テ贈與者ハ子ヲ擧クト雖モ其婚姻ノ適正ナラサルヲ知リ而シテ故ラニ之ヲ結ヒタルニ於テハ此權ヲ得ル能ハサル可キナリ

〔七百六十三號〕第四　贈與ノ時刻ニ於テ養子ノ在ル時ハ他ノ子ノ出生ニ附キ贈與取戻ノ妨ケトナル可キヤ又贈與ヲ爲シタル時ニ於テ贈與者子ヲ有セスシテ後ニ養子ヲ爲ス時ハ之ニ因テ其贈與ヲ取戻ス可キヤ

此論題中ノ第二ニ附テハ取戻ヲ爲ス能ハサルハ蓋シ言ヲ待タサルナリ法ニ曰ク「贈與ハ嫡生ノ子又ハ嫡生ニナシタル子ノ出生ニ依テ取戻サル可シ」ト養子ハ嫡生ノ子ニ非ス又嫡生ニナシタル子ニモ非サルナリ故ニ取戻ヲ爲スヲ得サルナリ第三百五十條ノ法文ニ據テ養子ハ養親ノ相續ニ附テハ嫡生ノ子ニ同シキ權アル可シト雖モ然レ𪜈取戻ハ相續ノ權中ニ入ル者ニ非サルナリ且ツ本例ニ於テハ取戻ハ贈與者ノ子ノ權ニ非スシテ是レ直ニ贈與者ノ權ナリトス（七百五十八號參觀）

第一ノ論題ニ附テモ亦余ハ其妨ケトナラサル可キヲ確信ス先ツ第九百六十條ノ全條規ヲ通觀スルニ於テハ贈與ノ時刻ニ生存スルニ依リ其取戻ノ妨ケタル可キ所ノ子又ハ卑屬トハ嫡生若クハ嫡生ニセラレタル子又ハ卑屬ヲ云フニ過キサルナリ而シテ又之ニ過クル可カラサルナリ且ツ法意ニ據ルニ此ノ如ク解釋セサル可カラサルナリ血統ト愛情トニ附テ養子シタル他人ノ子ト眞ノ己レノ子トヲ比較スル時ハ必ス其間ニ異ナル所アル可キナリ是ニ由テ養子アル者ノ贈與ヲ爲シタルヲ見以テ其嫡生ノ子ヲ有シタル時モ亦同シク之ヲ爲シタル可シトハ測度スルヲ得サルナリ

〔七百六十四號〕第伍　子ノ出生ニ原因シテ取戻ス可キ贈與幷ニ取戻スヲ得サル可キ贈與

凡ソ贈與ハ皆ナ此原因ニ由テ取戻サル可キ者ナリ是レ其通則ナリ故ニ左ノ贈與ハ皆ナ取戻サル可キナリ

第一　尋常ノ贈與

第二　或ル負擔ヲ以テ爲シタル贈與

第三　報酬ノ贈與

第四　雙方ノ贈與（恩義忘却ニ原因スル贈與ノ取戻ニ附キ七百五十三號及ヒ七百五十四號ニ余ノ論述シタル所ノ者ハ今茲ニ之ヲ適用ス可キナリ）

第五　婚姻ノ爲メニ爲シタル贈與

〔七百六十五號〕例外ニテ此原因ニ依テ取戻スヲ得サル者アリ左ノ如シ

第一　相續ニ附キ返還ヲ免除セラレタル所ノ贈與是ナリ此贈與ハ入額物ヲ以テ爲シタル者ト看做スカ故ナリ婚姻ノ贈與又ハ土產モ亦是ナリ是レポチエー氏ノ說ナリ而シテ此事項ニ附テハ民法ハ古法ノ條規ヲ再出セシニ過キサル者ナル事ハ余輩既ニ之ヲ論述シタリ（七百五十五號參觀）

〔七百六十六號〕第二　將來夫婦タル可キ約アル者ノ間ニ於テ婚姻ノ爲メニ爲シタル贈與又ハ婚姻ノ間匹耦者中ニテ爲シタル贈與是ナリ（第千九十六條）此例外ヲ設ケタルノ理由ハポチエー氏之ヲ說明セリ其言ニ曰ク子ハ贈與者ノ相續中ニ於テ贈與財產ヲ得ルモ亦受贈者ノ相續中ニ於テ之ヲ得ルモ其身ニ於テ利害ナシトス何トナレハ其相續何レモ皆ナ此財產ヲ保存シテ之ヲ其子ニ傳フル者ナレハナ

リト

然レモ此理由ハ全ク十分ナルヲ得サル者ナリ實ニ受贈者タル匹耦者ハ其子ナクシテ死去スル事アル可ク而シテ此場合ニ於テハ贈與中ノ財産ハ其尊屬又ハ傍系者ノ得ル所トナル可キナリ又贈與者再婚ヲ爲シ而シテ其子ヲ有スル事ヲモ想像スルヲ得可シ此次度ノ婚姻ニ依テ出生シタル子ハ固ヨリ贈與ノ取戻ニ附テ利益アル可キナリ

故ニ法文ヲ記スル左ノ如クナルニ於テハ殊ニ妥當ナル可キナリ曰ク將來夫婦タル可キ者ノ一方ヨリ他ノ一方ノ者ニ爲シタル贈與ハ相互ノ子ノ出生ニ依テハ取戻サル可カラスト然レモ此區別ハ法ニ之ヲ爲サヽリシナリ

故ニ將來夫婦タル可キ匹耦者ノ一方ヨリ他ノ一方ニ爲シタル贈與

ハ假令ヒ其贈與者中ニテ鰥夫トナリ寡婦トナル事アリ而シテ最初ノ匹耦者ニハ子ナクシテ次度ノ婚姻ニ附キ子ヲ有スル事アリト雖モ之ヲ取戻スヲ得サルナリ○此例外ノ理由ハ贈與者ト受贈者トヲ結合スル所ノ續合ヨリ出ル者ナリ匹耦者タルノ身分アルニ依テ贈與者其匹耦者ノ爲メニ贈與ヲ爲スハ是レ此匹耦者ヲ以テ其子孫ヨリモ優位ニ置カント欲スルノ意ナリト想像セサルヲ得サルナリ

〔七百六十七號〕第三　婚姻ノ爲メニ(一尊屬ヨリ將來匹耦者タル可キ一方ノ者ニ)爲シタル贈與是ナリ然レモ此贈與ハ一尊屬ヨリ匹耦者中ノ一人ニ爲シタル者ナルカ故ニ是レ贈與ノ時刻ニ現存スル子ヲ有シタル者ノ爲シタル贈與ナルハ言ヲ待タサルナリ然レハ子ノ出生ニ附テ此贈與ノ取戻サレサル事ヲ言フカ爲メニ殊更例外ヲ設クルヲ要ス可キヤ曰ク民法編集官ハ古昔法學士ノ說ヨリ生セシメタ

ル所ノ疑惑ヲ防止セントスル古人ノ説ニ曰ク贈與ハ本例ニ於テハ贈與者ノ子ニ爲シタル者ナルカ故ニ受贈者ハ子トシテ計算セラル可キ者ニ非ス何トナレハ受贈者ハ子タルノ職ト受贈者タルノ職トヲ兼有スル能ハサレハナリ其子ニ贈與ヲ爲シタル贈與者ハ其贈與ノ時刻ニハ子ヲ有セサル者ト看做サル可キナリ故ニ此贈與ハ第二子ノ出生ニ依テ取戻サル可キナリト

第九百六十三條〔七百六十八號〕第陸　子ノ出生ニ原因スル贈與取戻ノ効

子ノ出生ハ猶ホ他ノ解除ノ未必條件ノ成就スル時ノコトク萬事以前ト同樣ノ形情ニ復セシムル者ナリ(第千百八十三條)故ニ子ノ出生スル時ハ總テ受贈者ノ爲シタル所ノ贈與財産ニ關スル讓渡ヲ無効ナラシメ而シテ受贈者ノ爲シタル一切ノ負擔、書入又ハ土地ノ義務ヲ滌掃シテ其財産ヲ贈與者ニ復歸セシム可キナリ

且ツ嫁資返還ノ保證ノ爲メ受贈者ノ婦ニ法ノ許ス所ノ書入モ亦消滅ス可シ故ニ彼ノ契約上ノ復歸ノ場合ノ如クナラサルナリ(七百十七號參觀)又第九百六十三條ニ附記シ曰ク「受贈者ノ婚姻ノ爲メニ贈與ヲ爲シ而シテ契約書中ニ之ヲ記載シ且ツ贈與者其贈與ヲ以テ嫁資返還ノ保證ヲ爲ス可キノ義務ヲ負フ時」ナリモ亦此ノ如シト

法ニ於テハ直ニ贈與ト同シク保證ヲ取戻セリ法ノ之ヲ取戻スハ是レ法ニテハ保證ヲ以テ贈與ノ結果ト看做シ且ツ取戻ヲ防止スルノ一手段ト看做シタルカ故ナリ

是レポチエー氏ノ説ナリ然リ而シテ民法ニハ之ヲ抛棄シタリシト推測ス可キ所ナキナリ

第九百六十二〔七百六十九號〕第柒　菓實ノ却還并ニ受贈者ノ保有スルヲ得可キ菓實及ヒ其返還セサル可カラサル菓實

受贈者ハ左ノ菓實ハ之ヲ保有スルヲ得可キナリ

第一　贈與以後ニシテ取戻ノ日迄其收受シ又ハ收受ス可キニ至リタル菓實

第二　取戻以後ニシテ而シテ此取戻ノ原因タル子ノ出生ノ通知ノ日迄其收受ス可キニ至リ又ハ收受シタル菓實

取戻ヲ爲ス爲メニハ此通知ヲ必要トスルニ非ス此取戻ハ當然爲サルヽ者ナリ通知ハ受贈者ニ出生ヲ知ラシムルヲ主意トスル者ナリ故ニ又受贈者ニ菓實ヲ收受ス可カラサル事ヲ知ラシムル所以ノ者ナリトス

贈與者ヨリ使吏ノ書面ニ依リ又ハ他ノ法式ニ適シタル書面ニ依テ子ノ出生シ又ハ之ヲ嫡生ナラシメシ事ヲ受贈者ニ通知シタルノ後ニ受贈者ノ收受スルニ至リ又ハ其收受シタル菓實ハ之ヲ返還セサ

ル可カラス

第九百六十條及第九百六十四條

〔七百七十號〕第捌　子ノ出生ニ原因スル取戻ハ如何シテ之ヲ爲スヤ又何レノ時ヨリ之ヲ爲スヤ

條件ノ不執行ニ原因シ又ハ恩義忘却ニ原因スル贈與ノ取戻ハ當然有ル者ニ非ス是ニ反シテ子ノ出生ニ原因スル贈與ノ取戻ハ當然有ル者ナリ條件ノ不執行又ハ恩義忘却ハ贈與ヲシテ取戻サシムル者ナリ子ノ出生ハ直ニ之ヲ取戻ス者ナリ此二個ノ場合ノ差異ハ殆ト取消サル可キ契約ト無効ノ契約トノ差異ニ同シキ者ナリ（第千三百四條ノ說明ノ所ヲ觀ル可シ）

此差異ハ緊要ノ者ナルニ依リ殊ニ之ヲ明解セサル可カラス

○條件ノ不執行ニ原因スル取戻　○子ノ出生ニ原因スル取戻

第一　此取戻ハ當然アル者ニ非ス贈與者ハ裁判所ニ之ヲ願ヒ而シテ其裁判ヲ受ケサル可カラス此時迄ハ贈與ハ常ニ成立ス可シ贈與者ノ願ヲ受ケタル裁判所ハ必シモ取戻ヲ言渡スニ及ハス受贈者ニ猶豫期限ヲ與フルヲ得可キナリ而シテ受贈者此猶豫期限内ニ其負フ所ノ義務ヲ履行スルニ於テハ贈與ヲ取戻スヲ得サルナリ故ニ此取戻ニ附テハ裁判所ハ左

第一　此取戻ハ當然アル者ナリ贈與者ハ取戻ノ裁判ヲ得ルニ及ハス若シ受贈者ヨリ爭論ヲ爲ス時譬ヘハ贈與者贈與ノ時刻ニ子ヲ有シタル旨ヲ受贈者ノ主張スル時又ハ出生スル所ノ子ハ嫡生ノ子ニ非サル旨ヲ其主張スル時ハ贈與者ハ裁判所ニ出訴ス可キハ言ヲ待タサル事ナリ何トナレハ一方ノ者ノ爲サントスル事件ニ附キ他方ノ者ヨリ異論ヲ發スル時ノ二事項ニ審定セサル可カラス即チ、第一、贈與ニ附テノ負擔ヲ履行セシヤ否ヤヲ檢察セサル可カラス、第二、負擔ヲ履行セサル受贈者ニハ之ヲ扶持、救助ス可キ者アルヤ否ヤ又之ニ猶豫期限ヲ許シタルヤ否ヤヲ視定セサル可カラス(七百二十二號及七百二十三號參觀)

故ニ一ハ裁判所ニテ取戻ヲ言渡シタル時ヨリ以後ニ非サレハ即チ詞訟ヲ生スレハナリ然リト雖モ贈與者ノ申立テタル所ノ事件ヲ確實ナリトスル時ハ裁判所ハ必ス取戻ヲ言渡ササル可カラス即チ其取戻ヲ認可セサル可カラス蓋シ裁判所ハ贈與ヲ取戻スニハ非ス是レ其取戻ヲ認可シ而シテ受贈者ニ贈與物件ノ返還ヲ命令スルナリ

故ニ一ハ裁判所ニテ取戻ヲ言渡スヲ必要トセス又一ハ裁判

子ノ出生ニ原因スル贈與ノ取戻

ハ取戻ナキニ依リ又一ハ受贈者ニ猶豫期限ヲ許スニ於テハ其負擔ヲ履行ス可キ事ヲ裁判所ニテ認定スル時ハ裁判所ハ取戻ヲ言渡サヽルヲ得ルニ依テ取戻ハ當然アル者ニ非ストス

第二 此取戻ハ贈與者之ヲ願フニ非サレハ有ル者ニ非ス而シテ之ヲ願フト願ハサルトハ贈與者ノ權ニ在リ故ニ贈與者ハ之ヲ願フノ權ヲ拋棄スルヲ所ニテ其願ヲ受ル時ハ之ヲ言渡サヽルヲ得ルニ依テ取戻ハ當然アル者ナリトス

第二 此取戻ハ贈與者ノ之ヲ欲スルト欲セサルトニ拘ハラスシテアル者ナリ贈與者ノ子出生スルニ於テハ其時刻ヨリ贈與ハ過去ニ附テモ未來ニ附

得可キナリ若シ贈與者之ヲ拋棄スルニ於テハ是レ贈與ヲ補(ラナヒカ)脩(シヨン)シタルナリ此補脩ハ贈與ニ附着シタル瑕疵ヲ消滅ヤシム可キ者ナリ

故ニ取戻ハ贈與者ノ意ニ拘ハラスシテアル者ニ非サルカ故ニ是レ當然有ル者ニ非サルナリ

テモ消滅スルナリ決シテ此贈與ヲ補脩スルヲ得ス贈與者ハ取戻アルニ拘ハラスシテ其贈與財產ヲ同受贈者ニ與フルヲ得可キナリ然リト雖モ此場合ニ於テハ贈與者ハ更ニ新贈與ヲ爲スニ非サレハ之ヲ與フルヲ得サルナリ(七百五十八號參觀)故ニ取戻ハ贈與者ノ意ニ拘ハラスシテアルカ故ニ是レ當然取戻アルナリ

第三　此取戻ハ贈與者又ハ其代權人ニ非サレハ之ヲ願フヲ得ス取戻ニ附キ利益アル外人ハ之ヲ願フ可キノ身分ナシ今茲ニ贈與シタル不動產ヲ外人現ニ占有シ而シテ時効ニ依テ之ヲ所得トセントシ而シテ受贈者ヨリ此外人ニ對シテ其取戻ヲ爲ス事ヲ想像ス可シ此占有者タル外人ハ左ノ語ヲ述ヘ以テ防禦スル能ハサルナリ「汝ハ最早所有者タルニ非サルナ

第三　此取戻ハ獨リ贈與者ノ之ヲ申立ルヲ得ルノミナラス凡テノ他ノ利益アル者皆ナ之ヲ申立ルヲ得ルナリ故ニ本例ニ於テハ不動產ヲ占有スル者ハ受贈者ノ之ヲ取戻サントスル時ハ左ノ如ク述フルヲ得可キナリ「汝ノ所有權ヲ得タル所以ノ贈與ハ既ニ取戻サレタリ何トナレハ贈與者ノ子出生シタレハナリ」ト

リ何トナレハ汝ノ所有權ヲ得タル所以ノ贈與ハ取戻サルレハナリ贈與ノ取戻サレシト云フハ是レ汝負擔ヲ執行セサレハナリ」ト受贈者ハ左ノ答ヲ爲スヲ得可シ「贈與者ヨリ要求セサル限ハ贈與ハ成立スル者ナリ贈與物件ハ余ニ屬スル者ニシテ贈與者ニ屬スル者ニハ非サルナリ」ト

故ニ取戻ハ贈與者ニ非サレハ願フ能ハサルニ依リ當然アル

故ニ取戻ハ總テ利益アル者皆ナ之ヲ願フヲ得ルニ依リ當然アル

者ニハ非サルナリ　　者ナリトス

第九百六十六條〔七百七十一號〕第玖　子ノ出生ニ原因スル贈與取戻ニ依リ生スル訴權ノ時効

先ツ茲ニ一論題アリ曰ク此時効ノ性質ハ如何ナルヤ又其時効ハ如何ナルヤ尋常ノ時効ナルヤ將タ特別ノ時効ナルヤ

尚ホ此論旨ヲ明瞭ナラシムル爲メ更ニ左ノ問題ヲ掲ク可シ先ツ此時効ノ成就セシ事ヲ想像ス可シ其時効ハ如何ナル効ヲ生スルヤ新ニ所得シタルノ名義ヲ生スルヤ將タ受贈者ノ舊名義ヲ確實ニシテ之ヲ再生セシムルニ過キサルヤ即チ取戻ニ依テ消滅シタル所ノ贈與ヲ蘇生セシムルニ過キサルヤ

若シ新名義ヲ作出スル者トスルニ於テハ以後贈與者ナク又受贈者モナキナリ故ニ又後來減殺返還ノ事ヲ論スルニ及ハス又負擔ノ不執行或ハ恩義忘却ニ原因スル取戻ノ事モ問フニ及ハサルナリト言ハサル可カラス若シ是ニ反シテ消滅シタルノ贈與ヲ再生セシ者トスルニ於テハ其贈與ハ一回既ニ成立シタル者ナルカ故ニ又其成立セシ時ノ如ク返還ス可ク、減殺ス可ク又取戻ス可キ者ナリトセサルヲ得サルナリ

第一種ノ解釋ハ甚タ妥當ナルニ似タリ贈與ヲ爲シタル時ニ於テ子ヲ有セサリシ贈與者其後ニ至リ子ヲ有スルニ於テハ其贈與ハ當然取戻サルヽ者ナリ是ニ由テ其以後贈與ハ成立スル事ナシ既ニ成立セサルニ於テハ如何ソ時効ニ依テ之ヲ確實ニシ之ヲ適正ナラシムルヲ得ンヤ蓋シ成立セサル所ノ者ハ之ヲ確實ニスルヲ得サルナリ且ツ法文ニモ之アリ曰ク「取戻シタル贈與ハ決シテ之ヲ確實ニシ以テ再生セシムルヲ得ス」ト（第九百六十四條）

然リト雖モ余輩ハ第二種ノ解釋ニ從ハサルヲ得サルナリ第九百六十六條ハ實ニ余輩ヲシテ之ニ從ハシムル所以ノ者ナリ該條ニ曰ク「時効ヲ得ル者ハ取戻サレタル贈與ヲ申立ルヲ得可シ」ト此ノ如ク法ニ明文アルニ於テハ決シテ疑念ヲ抱ク可キニ非サルナリ

然レハ此時効ハ取戻ニ依テ既ニ消滅シタル所ノ贈與ヲ暗ニ確實ニスルニ外ナラサル者ナルヲ見ル可キナリ第九百六十四條ノ法文ニ據リ取戻サレタル贈與ハ決シテ確實ニスルヲ得サル者ナリト論スルハ蓋シ無益ノ言ナリ法ニ此ノ如ク説明セシハ是レ通則ヲ定ムルカ爲メナリ然レトモ亦第九百六十六條ニ於テハ之ニ異ナル特別ノ規則ヲ設ケタルナリ

且ツ此例外ヲ設ケタル所以ハ能ク之ヲ辯解スルヲ得可キナリ既ニ取戻シタル贈與ハ明言シテ確實ニスルモ亦暗ニ確實ニスルモ決シテ之ニ因テ再生セシムルヲ得サル者ナリ而シテ又實際ニ於テハ草卒ニシテ之ヲ確實ニシ又ハ他ニ從順スルカ爲メニ之ヲ確實ニスル事有ル可キナリ然リト雖モ贈與者三十年ノ久キヲ默過スルニ於テハ決シテ草卒ニ出テ又ハ他ニ從順スルカ爲メニ之ヲ確實ニセシ者ニハ非サル可キナリ

〔七百七十二號〕 此時効ハ占有ヨリ三十年ニシテ成就ス可シ但シ法律ニ定メタル破斷アル時ハ格別ナリトス（インテリユプション）

然レトモ何レノ日ヨリシテ三十年ノ期限ハ經過ス可キヤ曰ク取戻ノ當日即チ第一子ノ出生ノ日ヨリ經過セシメサル可カラサルニ似タリ實ニ贈與者ノ權利ハ此時ニ始マルカ故ニ豈ニ贈與者ニ對シテ時効ヲ經過セシムルヲ妨ク可キノ理由アランヤ實ニ贈與者ハ此時ヨリ以後ハ自由ニ訴ヲ爲スヲ得可キナリ

然リト雖モ此ノ如キハ是レ法律ノ說ク所ニ非サルナリ法律ニ於テハ三十年ノ期限ハ假令ヒ死後ニ生レシ子ナリトモ其季子ノ出生ヨリ以後ニ非サレハ計算セラレストセリ故ニ、第一子ノ後チ二十年三十年ニシテ、第二子ノ出生スル時ハ此二子ノ出生間ノ年月ハ全ク消滅スル者ニシテ年限中ニ之ヲ計算セサルナリ

〔七百七十二號ノ二〕 總テ此論理ハ左ノ者ニモ適用ス可キ者ナリト爲シタリ即チ

第一　受贈者

第二　其代權人

第三　其他總テ贈與物件ヲ所持スル者ニ適用ス可キナリ

受贈者幷ニ其不特定ノ代權人又ハ不特定ノ名義アル代權人ニ附テハ其理由見易キナリ又譬ヘハ買主ノ如キ尋常ノ代權人ニ附テモ尙ホ其理由ヲ解スルヲ得可キナリ實ニ此代權人モ亦取戻サレタル贈與ヲ申立ルニ附キ利益ヲ有ス可キ者ナリ此代權人ノ利益ヲ有スルト云ヒシハ是レ其名義即チ贈與ヲ申立ルニ依テ受贈者ヨリ其得タル所ノ一切ノ權利ヲ確乎タラシムルヲ得レハナリ

然リト雖モ其代權人ニ非サル所ノ所持人即チ贈與者ノ取戻ス所ノ財產ヲ名義ナクシテ占有シ又ハ外人ヨリ生シタル名義ニ依テ占有スル所ノ者ニハ如何ソ此論理ヲ適用スルヲ得可キヤ此所持人ハ何ノ身分ニ依リ又何ノ利益ノ爲メニ取戻サレタル贈與ヲ申立ルヤ今過去ニ遡テ取戻ノ効アルヲ想像ス可キナリ然レハ所持人ハ何ヲカ得ルヤ決シテ一物モ之ヲ得ル能ハサルナリ

論者將ニ言フナルヘシ第九百六十六條ハ素ト所持人ヲ云フニ非サルナリ所持人ニ附テハ普通法ヲ適用ス可キナリ故ニ所持人ハ三十

年ニシテ時効ニ至ル可ク又善意ニシテ且ツ正シキ名義ニ依テ占有スル時ハ十年若クハ二十年ニシテ時効ニ至ル可ク而シテ二個ノ場合共ニ其占有ヲ爲シ始メタル日ヨリ計算ス可キナリト(第二千二百六十二條及第二千二百六十五條)

本ト此説ハドマント氏ノ主唱セシ者ニシテ其考證スル所甚タ精確ナリト雖モ余ハ未タ是ナリトスルヲ得サルナリ果シテ余ノ説ヲシテ誤ナラシメハ法ノ決スル所ハ左ノ如クナル可キナリ

第一　受贈者若クハ其代權人中ノ者ニ對シ又ハ名義ナクシテ占有シ若クハ外人ヨリ得タル名義ニ依テ占有スル所持人ニ對スルニ拘ハラス第九百六十六條ニ法ノ設立シタル所ノ者ニ非サル他ノ時効ハ決シテ贈與者ニ抵抗スルヲ得可キ者ニ非ストス

第二　法ニテ贈與者ヲ從ハシムル所ノ時効ニ附テハ受贈者ノ代權人ニ非サル者ト雖モ所持人ナルニ於テハ之ヲ以テ贈與者ニ抵抗スルヲ得可シトス

所持人ハ其權利ノ基本スル所ヲ證明スル爲メニ贈與ヲ申立テサル可キハ必然ナリト雖モ贈與者ヨリ所持人ヲ退除センカ爲メ爲ス所ノ訴ヲ防止シテ之ヲ準理セシメサル爲メニハ贈與ヲ喚起ス可キナリ即チ所持人ハ必ス言フナル可シ「贈與ハ曾テ取戻サレサリシ者ト看做サル可キナリ是ニ由テ財產ノ所有權ハ贈與者ノ身ニハ屬セサル可キナリ故ニ贈與者ハ取戻スヲ得サル可キナリ受贈者ニ附テハ余輩決シテ恐ル可キ所ナシトス何トナレハ普通法ノ時効ハ既ニ余輩ノ爲メニ成就シ而シテ其完全ナル効ヲ生シタレハナリ」ト

余輩ノ論決スル所ハ即チ法文ヨリ出ル者ニシテ而シテ所持人ノ利益タル可キ一要領ナリ余又茲ニ附言ス可キアリ曰ク千七百三十一

年ノ命令書ハ民法ノ由リ基ク所ニシテ而シテ此命令書ハ常ニ左ノ如ク之ヲ釋解シテ且ツ之ヲ實踐セリヒュルゴン氏(該命令書第四十五條ニ附テ)ノ言ニ曰ク「名義ナキノ所持人ハ受贈者ニ對シテ時効ヲ得ルニ十分ナル可キ時間占有スト雖モ然レモ命令書中ニ記シタル所ノ時効ニ非サル他ノ時効ヲ以テ贈與者ニ抵抗スルヲ得サルナリ」ト是レ實ニ佛國ノ古法ニシテ余屢〻之ヲ引證セリ贈與ニ附テハ前文論シ來リシ所ハ殊ニ一定動カス可カラサル者ナル可キナリ(七百五十五號參觀)

○第五章　遺囑ノ處置

○第一款　遺囑ノ法式ニ附テノ總則

○第一節　遺囑ノ諸種類

〔七百七十三號〕遺囑ニ尋常ノ者アリ又特別ノ者アリ

特別ノ遺囑トハ

第一　兵士又ハ軍隊中ニ用ヒラレシ人ノ爲シタル者

第二　疫病ノ時ニ於テ總テノ人ノ爲シタル者

第三　航海中ニ於テ總テノ人ノ爲シタル者

此遺囑ヲ特別ノ遺囑ト云フハ是レ尋常ノ遺囑ニ附テ遵守ス可キ法式ヨリモ殊ニ簡單ナル法式ヲ以テ爲ス者ナレハナリ(第八百號以下參觀)

民法ニハ尋常ノ遺囑三個ヲ認定シタリ所謂ル自筆ノ遺囑、公正ノ遺囑及ヒ秘密ノ遺囑是ナリ

遺囑者自身ニ全文ヲ筆記シタル時ハ其遺囑ヲ自筆ノ遺囑ト云フ(「オログラフ」ハ本ト希臘語ノ「オロス」ト「グラフー」ト合成セシ者ニシテ「オロス」ハ全ク皆ナト云フ義「グラフー」ハ自カラ記スルノ義ナリ)○二名

ノ證人ノ面前ニ於テ二名ノ公證人ノ記シ又ハ四名ノ證人ノ面前ニ於テ一名ノ公證人ノ記シタル時ハ其遺囑ヲ公正ノ遺囑ト云フ○遺囑者自身ニ之ヲ記シ又ハ外人ニ之ヲ代書セシメ而シテ後チ之ニ封印シテ之ヲ公證人ニ渡シ而シテ又其公證人ハ其渡サレタル所ノ書面ハ是レ即チ遺囑書タル事ヲ遺囑者ノ確言セシ旨ヲ數名ノ證人ノ面前ニ於テ直ニ其遺囑書ノ上ニ附記スル時ハ其遺囑ヲ秘密ノ遺囑ト云フナリ

遺囑ニ附キ法ニ此三式ヲ設ケタルハ是レ此各法式ニ存スル所ノ便益ヲ一個ノ法式中ニ集合スル能ハサルカ故ナリ

自筆ノ遺囑ニハ著大ナル二個ノ便益アリ

其一　此遺囑ハ何レノ地ニ於テモ亦一生中何レノ時ニ於テモ且ツ死ニ瀕スル時刻ニ於テナリトモ遺囑者ヲシテ遺囑ヲ爲スヲ得セシムル者ナリ

其二　遺囑者ノ處置ヲ秘シテ漏泄セシメサルカ故ニ遺囑ヲ取消スト雖モ其取消サレタル遺囑ヲ受ケシ者ヲシテ激怒セシメサルハ勿論不快ノ意ヲモ生セシムル事ナク遺囑者ヲシテ隨意ニ復タ處置スルヲ得セシムル者ナリ

公然ノ遺囑ニハ此ノ如キノ便益ナシ先ツ此遺囑ニハ處置ヲ秘密ナラシムルヲ得サル所アリ何トナレハ數名ノ人ノ面前ニ於テスル者ナレハナリ又此法式ニ從テ遺囑セント欲スル者アリト雖モ其證人ヲ集合シ且ツ其遺囑ヲ記スル事ヲ公證人ニ請フノ時間ヲ得スシテ死去スル事間〻之アリ○然レトモ亦他ノ關係ニ於テハ自筆ノ遺囑ヨリモ殊ニ便利ナル所アリ即チ

(一)　此遺囑ハ文字ヲ識ラサル者ト雖モ之ヲ爲スヲ得可キナリ

(二) 自筆ノ遺囑ニ比スル時ハ最モ其信據ス可キノ力大ナリトス

秘密ノ遺囑モ亦文字ヲ記スル事能ハサル者ナリトモ之ヲ讀ムヲ得ル者ナレハ之ヲシテ秘密ニ遺囑スルノ手段ヲ得セシムル者ナリ然リト雖モ此遺囑ハ甚タ混雜ナル法式ニ從フ者ナリ

○第二節　總テノ遺囑ニ通シ用フ可キ規則

第九百六十七條及第九百六十八條

〔七百七十四號〕第一　遺囑ニテ己レノ財產ヲ處置スルノ能力アル者ナレハ何人ナリトモ或ハ相續人設置ノ名義ヲ以テシ或ハ遺囑物(レグ)ノ名義ヲ以テシ或ハ其他總テ意思ヲ表スルニ適當ナル名稱ヲ以テ遺囑ヲ爲スヲ得可キナリ○此規則ハ第八百二十四號以下ノ所ニ於テ更ニ之ヲ詳說ス可キナリ

第二　遺囑ハ正式(ソランテル)ニ從フ所ノ所爲ナリ假令ヒ意思ヲ表出スル事甚タ明瞭ニシテ信據スルヲ得可キ者ナリトモ法ニ定メタル式ニ從テ之ヲ爲サヽルニ於テハ遺囑トスルヲ得サルナリ故ニ其法式ノ一ヲ缺クニ於テハ其遺囑ヲ無効ノ者トス

法ニ定メタル正式ヲ缺キタル遺囑ハ之ヲ補修(ラチヒカシヨン)スルヲ得サルナリ法式ニ從テ成立セサル者ナレハ更ニ法式ニ據テ之ヲ改作セサル可カラサルナリ

然リト雖モ法式ヲ缺クニ依テ無効ナル所ノ贈遺ニ附テモ贈遺者ノ相續人ハ明ニ之ヲ補修シ又ハ暗ニ之ヲ補修スルヲ得ルト一般ニシテ無効ナル遺囑ニ附テモ亦遺囑者ノ正統相續人其無効ナルヲ知リ而シテ隨意ニ之ヲ執行シ即チ暗ニ之ヲ補修スルニ於テハ其相續人ハ遺囑ヲ無効ナラシメン事ヲ願フノ權ヲ失フ可キナリ(千五百九十六號ヨリ千五百九十七號マテ參觀)

故ニ無効ナル遺囑中ニ在ル所ノ遺囑物ニ附キ隨意ニ其執行ヲ爲ス時ハ是レ恩與ト看做ス可カラスシテ自然義務ノ辨濟ト看做ス可キナリ是ニ由テ數個ノ結果ヲ生ス可シ此結果ハ千三百九號ノ所ニ於テ之ヲ説明ス可シ

第三　總テ遺囑ヲ有効ナラシムルニハ之ヲ書面ニ記載セサル可カラス此書面ヲ作ラシムルハ是レ唯一證據ノ一方法トシテ之ヲ眞實ナラシムル爲メノミニ非ス又是レ遺囑ノ適正ニ附テ必要ナル法式トシテ殊ニ之ヲ鄭重ニスル所以ナリ○是ニ由テ言語ヲ以テシタル遺囑ハ假令ヒ數人ノ面前ニ於テ之ヲ爲シ而シテ其證明白ナル時ト雖モ尚ホ無効ノ者ナリトス

然リト雖モ遺囑書ヲ記スト雖モ遺囑者ノ死後ニ於テ變災ノ爲メニ其書面失亡シ又ハ外人ノ所爲ニ依テ其除去セラレシ時或ハ遺囑者ノ生前ニ於テナリヒ書面ノ失亡シ又ハ除去セラレシ事アリ而シテ遺囑者之ヲ知ラスシテ死去セシ時ハ第千三百四十八條ノ要領ニ從テ證人ヲ以テ其遺囑ハ規則ニ適シテ爲シタル者ニシテ法ノ定メタル一切ノ式ヲ遵守シタル事ヲ證スルヲ得可キナリ

第四　凡ソ遺囑ヲ爲サント欲スル者他ノ人ト共ニ合同シテ其遺囑ヲ爲スヲ得ス故ニ譬ヘハ二人相互ニ遺囑ヲ爲シ又ハ二人共ニ他ノ外人ニ遺囑ヲ爲スカ如キ數人ニテ一個ノ書面ヲ以テ爲シタル遺囑ハ皆ナ無効ナリトス○ポチエー氏曰ク法ノ此規則ヲ設ケタルハ是レ遺囑者ハ可成的自由ヲ有シ而シテ共ニ遺囑ヲ爲ス者ノ爲メニ束縛セラレサラン事ヲ欲シタルナリト○又ピゴー、プレアムヌー氏其第二ノ理由ヲ揭ケテ曰ク合同シタル遺囑者中ノ一人ノ死去シタル後ニ至リ他ノ生存スル者遺囑ヲ取戻スヲ得ルヤ否ヤノ論題ヨリ

生スル所ノ困難ヲ避ケサル可カラサルナリ抑〻遺囑取戻ヲ許スハ是レ雙方相互ノ信義ヲ破リシナリ又之ヲ取戻ス可カラスト述フル時ハ是レ遺囑ノ性質ヲ交換スルナリ而シテ此場合ニ於テハ實際是レ最後ノ意思ヲ表シタル者ニ非サルナリ

○第三節　自筆ノ遺囑

第九百七十條〔七百七十五號〕左ノ三個ノ條件ノ合シタル時ニ非サレハ遺囑ハ適正ナル者ニ非サルナリ即チ

第一　遺囑書ニ日附ヲ爲ス事ヲ要ス

第二　手署セシ事ヲ要ス

第三　日附、手署並ニ遺囑書中ノ條件ハ總テ皆ナ遺囑者自身ニ之ヲ記シタル事ヲ要ス

第壹　日附

第一　日附ヲ要スル理由○受禁者並ニ十六歳ノ幼者ハ遺囑ヲ爲スノ能力ナキ者ナリ十六歳ノ丁年者ハ半能力（ドミ、カパシテ）ヲ有スルニ過キサルナリ（五百三十九號及五百四十號參觀）故ニ遺囑ノ適否ハ之ヲ爲シタル時刻ニ關ス可キナリ其日附ハ即チ此時刻ヲ知ラシムル者ナリ遺囑ハ能力者ノ爲シタル者ナルヤ將タ無能力者ノ爲シタル者ナルヤ之ヲ知ルヲ得ルハ此日附アルニ依テナリ○若シ遺囑者數個ノ遺囑ヲ爲シタルニ於テハ其最初ノ遺囑ト其次度ノ遺囑トノ處置反對シ又ハ矛盾スル所ノ者ハ皆ナ次度ノ遺囑ニ依テ暗ニ取戻サレタル者ナリトス（第千三十六條）是ニ由テ其最後ノ遺囑ヲ知ルヲ得ルニハ遺囑ニ日附ナカル可カラサルナリ

第二　日附ハ何ノ元素ニ依テ成ル者ナルヤ○千七百三十五年ノ命令書ニ命スル所ノ日附ニハ月日及ヒ年ヲ指示セサル可カラサリシ

ナリ

民法編集官ハ自筆ノ遺囑ノ事ヲ編集スルノ際該命令書ノ條規其目前ニ在ルカ故ニ日附ノ成立スル所以ノ元素ハ之ヲ定メサリシナリ故ニ此事項ニ附テハ古昔ノ要領ニ據ラサル可カラサルナリ是ニ由テ遺囑ニハ必ス之ヲ爲シタル所ノ月日並ニ年ヲ指示セサル可カラス然レトモ年月日ハ必シモ一定ノ語ニテ之ヲ記スルニハ及ハサルナリ即チ意ノ通ス可キ語ヲ以テ之ヲ記スルヲ得可キナリ遺囑ヲ作リタル明瞭ノ時刻ヲ其遺囑書ニ指示セサルニ於テハ其遺囑ノ無効タル可キハ疑フ可キニ非ストス然リト雖モ曖昧ナラサル方法ヲ以テ時刻ヲ指示スルニ於テハ法意ヲ滿足セシム可キナリ故ニ譬ヘハ遺囑書ノ日附トシテ千八百六十五年「ノエル」祭日ノ名ナリノ日ニ作ルト記スルモ其遺囑ハ適正ナル可キナリ

第三　日附ノ位置○法ニハ此位置ヲ定メス故ニ遺囑ノ頭首ニ於テナリ又ハ其末尾ニ於テナリ且ハ其諸條件ノ中央ニ於テナリトモ日附ヲ置クヲ得可キナリ

嚴格ニスル時ハ日附ハ必ス手署ノ先ニ在ラサル可カラス然リト雖モ直ニ手署ノ後ニ之ヲ置キタル時又ハ手署ト日附ト接近シテ相離ルヽ遠カラサル時即チ手署ト日附ト一行ヲ爲ス時ハ其日附ヲ正シキ者ナリトス

○自筆ノ遺囑ハ何レノ地ニ於テ之ヲ爲スト雖モ適正ナル者ナルカ故ニ之ヲ記シタル場所ヲ日附中ニ指示スルニハ及ハサルナリ

〔七百七十六號〕第貳　手署

手署ニハ親族ノ姓ヲ記スルヲ以テ慣習トセリ唯〻此姓ノミヲ記スルヲ以テ十分ナリトス又茲ニ己レノ名（ブレノン）ヲ附記スルヲ得可シト雖モ己

レノ名ハ必シモ記スルニハ及ハサルナリ

且ツ遺囑者ハ必シモ其親族ノ名ヲ記載スルニモ及ハサル可キナリ

總テ法ノ望ム所ハ是レ手署ニ依テ曖昧ナラスシテ何人ノ遺囑ヲ爲シタルヤヲ知ルノミニ在ルナリ故ニ遺囑者其名ノミヲ書シ又ハ世人ノ知リタル所ノ其號(シュルノン)ヲ書シ又ハ其姓ノ頭字ヲ書スルヲ以テ書面ニ手署スルノ慣習ト爲スニ於テハ此ノ如キ慣習ノ手署ヲ爲シタル遺囑ニテモ適正ニ手署セラレタル者ナリトス結局此手署ハ親族ノ姓ヲ記スルヨリモ却テ遺囑者ノ誰ナルヤヲ確知スルヲ得セシムル者ナレハナリ是レ實際クレルモンノ僧マシロン氏ノ裁判セラレタル所ノ例アル事ナリ該氏ハ其遺囑書ニ手署スルニ其名ノ頭字ヲ以テシ而シテ其前ニ十字架ヲ記シ其後ニハ己レノ身分ヲ記シタリ

○手署ハ遺囑書ノ末尾ニ之ヲ爲サヽル可カラス何トナレハ手署ハ遺囑ノ依テ成就シ完全スル所ノ者ナレハナリ

〔七百七十七號〕第參　書方

遺囑ハ獨リ遺囑者ノミノ所爲ナラサル可カラス若シ其記載ニ附キ外人ノ干預スル事アルニ於テハ遺囑者ハ多少外人ノ爲メニ束縛セラレシナリト想像ス可キハ是レ自然ノ勢ナリ是ニ由テ左ノ規則ヲ生ス可シ曰ク日附、手署竝ニ遺囑ヲ構成スル所ノ各條件ハ全ク遺囑者ノ自筆ニテ之ヲ記載セサル可カラスト僅ニ一語ナリモ外人ノ記シタル者アルニ於テハ其遺囑ヲ瑕瑾アル者トス但シ外人ノ記シタル所ノ語タル遺囑中ノ一部タル可キ者ナルノ證確實ニシテ而シテ遺囑者ノ之ヲ承諾シ認定シタル時ニ限ル可キナリ然ラサルニ於テハポチエー氏モ既ニ論シタル如ク遺囑書外人ノ手中ニ落テ其所持スル事アルニ於テハ其外人ハ之ニ一二ノ語ヲ附記シ以テ隨意ニ遺

囑ヲ毀壞スルヲ得可キナリ故ニ遺囑書ノ端邊ニ外人ノ記シタル語アルモ遺囑者手署ヲ爲シ又ハ横線ヲ畫シテ殊更ニ之ヲ認定セサリシ時ハ是レ遺囑無効ノ原因ニハ有ラサル可キナリ

〔七百七十八號〕上文論シ來リシ所ノ三個ノ要件ノ外、法ニハ自筆ノ遺囑作成ニ附キ望ミシ者ナシ即チ「此遺囑ハ決シテ他ノ法式ニ從フ事ナシ」是ニ由テ左ノ如ク決斷ス可キナリ

第一　自筆ノ遺囑ハ尋常ノ書翰ノ體裁ニテ之ヲ作ルヲ得可キナリ

然リト雖モ尋常ノ書翰ハ眞成ノ遺囑ノ處置ヲ記載シタル時ニ非サレハ遺囑ト見做サヽルヲ得ス筆者其書翰ヲ送ル所ノ人ノ爲メニ後日遺囑セントスルノ意ヲ述フルノミニテハ未タ之ヲ遺囑ト看做スヲ得サル可キハ是レ言ヲ待タサル事ナリ

第二　此遺囑ハ尋常ノ用紙ニ記スルヲ得可ク又證劵印紙ニ記スルヲ得可ク又其他都テノ物件上ニ記スルヲ得可ク譬ヘハ「パルシュメン」羊皮製ノ一種ノ紙ナリノ上ニ記スルヲ得可キナリ

壁上ニ「シャルボン子」炭ニテ記スシタル遺囑、尖刀ヲ以テ門戸ニ刻シタル遺囑又ハ金剛石ヲ以テ玻璃上ニ刻シタル遺囑等ニテモ適正ナル可キヤ曰ク此筆者尋常ノ法式ニ從テ遺囑ヲ爲シタルヲ得可ク而シテ壁上等ニ記シタル所ノ事ハ容易ニ之ヲ紙上ニ記スルヲ得可キノ證アルニ於テハ適正ナラサル者トス可キナリ何トナレハ總テ此等ノ書ハ嚴格ナラサル者ナレハナリ然リト雖モ非常ナル情實アリテ此ノ如キノ方法ニ依ルニ非サレハ其最後ノ意思ヲ表出スルヲ得サル可キノ證アル場合ニ於テハ之ヲ適正ナル者トス可キナリ

然レトモ此事項ニ附テハ辯駁スルヲ得可キナリ自筆ノ遺囑ヲ執行セントスル時ハ先ツ死者住所ノ地ノ初告裁判所ノ上席人ニ此遺囑ヲ

差出サヽル可カラス若シ此遺囑ニ封印アル時ハ上席人之ヲ開封シ而シテ後チ上席人ハ遺囑書ノ差出、開封並ニ形情ヲ調書ニ記シ且ツ其任シタル所ノ公證人ニ之ヲ附託ス可キナリ(第千七條)○論者曰ク然レハ若シ壁上等ニ遺囑ヲ記スルニ於テハ如何ソ此諸法式ヲ充タスヲ得ン乎余答ヘ曰ク法ニテ遺囑ヲ裁判所上席人ニ差出シ而シテ之ヲ公證人ニ附託セン事ヲ命シタルハ是レ「プレリュンキュエ、ヒット」モ最多キ場合ニテト云フ義ノ所ニテ定メタルナリ是ニ由テ之ニ匹敵ス可キ所爲ヲ以テ法意ヲ滿足セシムルヲ得可キナリ

上席人ハ其場所ニ出張シ而シテ壁上ニ於テ其看取シタル所ノ書ヲ細ニ書取リ以テ調書ヲ作ル可キナリ此調書ハ其順序ニ從テ上席人ノ任シタル所ヲ公證人ニ之ヲ附託ス可シ

〔七百七十九號〕第肆　自筆遺囑書ノ信憑力(プラルス、プロバンド)

公成證書トハ管轄ナル公ケノ官吏ノ法律ニ記シタル式ニ從テ受取リタル所ノ書面ヲ云フナリ此書面ハ眞實タル可キ推測アル者ニシテ其中ニ記載スル所ノ約條並ニ其日附ハ共ニ皆ナ眞實ナル者ナリトス此書面ノ眞實タル旨ハ之ヲ防禦スルヨリハ之ヲ證明スルニ及ハス而シテ之ヲ打破セントスル者ヨリ其眞實ナラサル旨ヲ證明ス可キナリ且ツ此證據ハ詐詭ノ申立ノ道ニ由ラサレハ之ヲ爲スヲ得サルナリ(インスクリプション、ドフォー)(千五百二十三號及千五百三十一號參觀)

私印證書トハ本人自身ニ記載シテ手署シ又ハ公ケノ官吏ニ非サル外人ニ記載セシメテ自身ニ手署シタル所ノ書面ヲ云フナリ此書面ハ他ヨリ之ヲ打破セントスル時ハ書面ノミニテハ眞實タル可キノ推測アル者ニ非ス故ニ其眞實タル旨ハ之ヲ以テ防禦スル者ヨリ之ヲ證明セサル可カラス(千五百五十八號及千五百六十號參觀)

自筆ノ遺囑ハ固ヨリ是レ私印證書タル者ナリ何トナレハ尋常ノ平人タル遺囑者ノ手ニ成リタル者ナレハナリ且ツ此事項ニ附テハ第九百九十九條ニモ更ニ疑ヲ容ル可キ所ナシ何トナレハ該條ニハ明言シテ遺囑ヲ私印證書ト稱シタレハナリ是ニ由テ遺囑者ノ正當相續人ハ他ヨリ遺囑書ナリトシテ之ニ抗抵スル所ノ其書跡竝ニ手署ヲ以テ眞實ナラサル者ナリト申述スルヲ得可シ故ニ又受遺囑者ヲシテ其書跡、手署ハ死者ノ者ニ相違ナキ旨ヲ證明セシムルヲ得可キナリ受遺囑者其遺囑物ヲ得ンカ爲メ相續人ヲ攻擊スル時又ハ裁判所上席人ノ命令ニ據テ受遺囑者ヲシテ其得タリト主張スル所ノ財産ヲ假ニ占有セシムル時相續人ヨリ其遺囑物ヲ取戻サントシテ受遺囑者ニ對シテ訴ヲ爲ス場合ニ於テ其訴ヲ排斥シテ受遺囑者ノ防禦セントスル時モ亦此ノ如クナル可キナリ(第千八條)

此第二ノ場合ニ於テハ受遺囑者ハ遺囑物ヲ占有スルカ故ニ之ニ對シテ相續人ノ爲シタル遺囑物取戻ノ訴ニ附テハ被告人タル者ナリ故ニ原告人ヨリ其遺囑者ノ親族ニシテ相續ス可キノ等親中ニ在ル者ナル旨ヲ證明セサル限ハ受遺囑者ハ決シテ何樣ノ證據ヲモ擧ルニ及ハサルナリト雖モ一回其證明セラレタル上ハ受遺囑者ハ遺囑ノ眞實タル事ヲ證明セサル可カラサルナリ何トナレハ此場合ニ於テハ受遺囑者ハ其防禦セントシテ申立ル所ノ事項ニ附テハ原告人トナル者ナレハナリ

〔附言〕大審院判決ニテモ假ニ遺囑物ヲ占有スル事ヲ許サレタル受遺囑者ハ諸形情ニ依テ遺囑書ニ疑惑ス可キ所アルニ非サレハ決シテ何樣ノ證據モ擧ルニ及ハサル旨ヲ裁判シタルノ例アリ

千八百六十年五月二十一日ノ判決、及ヒ千八百七十二年八月五日

ノ判決ヲ參看スル可シ

〔七百八十號〕自筆ノ遺囑ハ私印證書ニ外ナラサル者ナリト雖モ其日附ニ附テハ信用アル者ナリ若シ然ラストスルニ於テハ遺囑者二個ノ遺囑ヲ作テ互ニ矛盾スル所アル時又ハ相反對スル者ナル時ハ其何レヲ効アル者トス可キヤ之ヲ知ル能ハサレハナリ何トナレハ其何レヲ以テ最新ノ者ナリトス可キヤ之ヲ知ルノ手段ナケレハナリ〔第千三十六條〕

然リト雖モ要領ニ於テハ日附ノ眞實ヲ駁擊スル所ノ相續人ハ必ス詐詭ノ中立ヲ爲サヽル可カラサルナリトハ是レ既ニ大審院ニ於テモ判決シタル所ナリト雖モ余ハ此ノ如キノ點迄ニ論シ到ルヲ欲セサルナリ相續人ハ結局私印證書ヲ駁擊スルニ過キサルナリ而シテ詐詭ノ申立ハ全ク例外非常ナル訴訟手續ニシテ駁擊スル所ノ書面タル公ケノ官吏ノ作リタル者ナリトシテ之ヲ差出シタル場合ニ非サレハ必シモ此申立ヲ爲スニ及ハサルナリ

日附ノ不確實又ハ詐詭ノ證據ハ大要ニ於テハ直ニ遺囑ヨリ出ル所ノ事件ニ依ラサレハ擧ルヲ得サル者ニシテ他ノ事件ニ依テ其證ヲ取ルヲ許サヽルナリ然リト雖モ例外ニテ左ノ場合ニ於テハ諸種ノ證據、證人ノ證據又ハ遺囑外ノ事件ヨリ引取シタル推測ヲ以テ證明スルヲ得可キナリ即チ

第一　遺囑書ノ諸記事又ハ其實際ノ景狀タル日附ノ眞實タル可キ所ニ疑惑ヲ生セシム可キ者ナル時○實ニ此場合ニ於テハ遺囑書中ニ在ル所ノ徵憑（エンヂス）ヲ充足スルニ過キサルナリ

第二　精神健全ナラサル事又ハ恐嚇ヲ、原因トシ或ハ無能力ヲ原因トシテ遺囑ヲ駁擊スル時

○第四節　公正ノ遺囑

第九百七十一條〔七百八十一號〕第壹　注目

公正ノ遺囑ハ公證人ノ記シタル者ニシテ而シテ一種特別ナル者ナリ公證人ノ書面ナルカ故ニ共和十一年「ウッソトーズ」月二十五日公證人ノ法ニ記シタル法式ニ循ハサル可カラス又遺囑ナルカ故ニ民法ニ記シタル別段ノ規則ニ據ラサル可カラサルナリ

〔七百八十二號〕第貳　民法ニ記載シタル正式ノ記列

第一　他ノ一名ノ公證人ト二名ノ證人トノ立會ヒタル公證人又ハ他ノ公證人アラサル時ハ四名ノ證人ノ立會ヒタル公證人ニ遺囑者其遺囑ヲ書取ラシム可シ

第二　遺囑者ノ口授スル如ク公證人ハ之ヲ筆記セサル可カラス

第三　公證人ハ證人ノ面前ニ於テ之ヲ遺囑者ニ讀聞セサル可カラス

第四　前ニ指示シタル各法式ヲ充タシタル旨ヲ遺囑書中ニ明記セサル可カラス

第五　遺囑作成ニ附キ干預シタル者ハ皆ナ遺囑書ニ手署セサル可カラス

此各法式ニ附キ更ニ詳說ス可シ

第九百七十二條〔七百八十三號〕其一及ヒ其二　遺囑ハ遺囑者之ヲ記ス可ク若クハ一名ノ公證人又ハ二名ノ公證人中ノ一人遺囑者ノ口授スルカ如ク之ヲ記ス可キナリ○尋常ノ公證人ノ書面ハ證人ナクシテ二名ノ公證人之ヲ記載ス若クハ二名ノ證人ノ立會ヲ得テ一名ノ公證人之ヲ記載ス是ニ反シテ遺囑ハ二名ノ證人ノ立會タル二名ノ公證人カ又ハ四名ノ證人ノ立會タル一名ノ公證人ニ非サレハ之ヲ記載スルヲ得サルナリ

此差異ハギローベル氏ノ「トリビュナ」ニ出シタル意見書中ニ之ヲ説明シタリ其説ニ曰ク遺囑ハ多クハ死ニ瀕スルノ際ニ之ヲ爲スカ故ニ監視人ヲ增加シ以テ邪思慾情ノ爲メニ財産ヲ失フ所ノ者ヲ保護セサル可カラスト

尋常ノ書面ハ本人不在ナリト雖モ公證人ハ本人ヨリ聞取シタル所ニ依テ之ヲ記スルヲ得可キナリ即チ公證人ハ先ツ覺書ヲ記シ而シテ後チ其役所ニ於テ編集スルヲ得可キナリ然レトモ遺囑ニ附テハ公證人ハ遺囑者ノ面前ニ於テ且ツ其口授スル所ニ依ラサレハ之ヲ記スルヲ得サルナリ遺囑者自身ニ其旨趣ヲ口述セン事ヲ法ノ望ミタルハ是レ口述スル者ハ其意ヲ明瞭ナラシメントスルカ故ニ自然ニ熟慮シテ其用語ニ附テハ斟酌セサルヲ得サル可キ所アレハナリ故ニ口述ハ是レ全ク遺囑者一己ノミノ所爲ニ依テ遺囑ノ成リタル事ヲ證スルニ足ル者ナリ遺囑者ト談話スルノ際覺書ヲ記シ而シテ之ニ因テ編集スル時ハ恐ラクハ細密ニ遺囑者ノ旨趣ヲ盡サヽル事多カル可キナリ又若シ公證人ヨリ遺囑者ニ訊問シ而シテ其答フル所ニ從テ之ヲ記載スルニ於テハ其害タル殊ニ甚シカル可キナリ何トナレハ遺囑者ハ恐ラクハ問題ノ主意ヲ詳解セスシテ其答ヲ爲ス事アル可ケレハナリ

〔七百八十四號〕口授トハ他ノ者ニ筆記セシメント欲スル所ノ事ヲ言語ヲ以テ述フルヲ云フナリ故ニ啞者ハ公成證書ニテハ遺囑スルヲ得サルナリ

口授ハ一名ノ公證人ニ之ヲ爲シ又二名ノ公證人アル時ハ其公證人二名ニ之ヲ爲ス此第二ノ場合ニ於テハ二名ノ公證人ノ面前ニ於テ口授ヲ爲サヽル可カラス、筆記セサル公證人モ亦茲ニ立會ハン事

ヲ法ノ望ミタルハ是レ他ノ公證人ヲ監視シテ其謬誤ヲ爲ス時ハ之ヲ告知セシメンカ爲メナリ

公證人中ノ一人ニテ遺囑書ノ全文ヲ記スルヲ得可ク又各公證人互ニ相輪番ニテ之ヲ記スルヲ得可シト雖モ公證人ノ下役(クレルク)又ハ證人ニハ決シテ之ヲ記スルヲ許サストス

證人モ亦必ス口授ノ時ニ出席セサル可カラス何トナレハ第九百七十一條ノ法文ニ公正ノ遺囑トハ二名又ハ四名ノ證人ノ面前ニ於テ一名又ハ二名ノ公證人ノ記シタル者ヲ云フト有レハナリ

〔七百八十五號〕他ノ口授ニ依テ記スルトハ是レ口述スル人ノ言語ヲ其言語ノ儘ニ書面ニ寫出スヲ云フナリ故ニ遺囑ハ其口授セラレシ如クニ記セサル可カラス公證人ハ注意シテ遺囑者ノ用ヒタル語ヲ寫出サヽル可カラサルナリ然レトモ法意ニテハ語理通セサルモ必ス口授ノ儘ヲ記セサル可カラストヽ云フニハ非サルナリ故ニ譬ヘハ口授中ニ佛語ノ謬誤アランニ公證人其編集中ニ於テ其謬誤ヲ避テ之ヲ出サヽル事アルモ其遺囑ノ無効ナラサル可キハ固ヨリ言ヲ待タサルナリ

遺囑者ハ其解スル所ノ語ヲ以テ口授スルヲ得可シト雖モ若シ外國語ヲ以テ口授スル時ハ公證人ハ佛蘭西語ニテ之ヲ編集セサル可カラス○若シ外國語ヲ以テ遺囑ヲ口授シタル時ハ之ヲ受ル所ノ公證人ハ紙端ニ於テ其口授セラレタル所ノ語ニテ飜譯シテ之ヲ記載ス可シ然リト雖モ茲ニ注意ス可キ所アリ即チ此譯文ハ遺囑ノ公正タル者ニ非ス其佛蘭西語ノ寫ヲ以テ眞成ノ遺囑ナリトス○此ノ如キノ遺囑ハ口授セラルヽ所ノ語ト佛蘭西語トヲ證人ノ解シ得ル時ニ非サレハ爲スヲ得サル者ナリ若シ然ラサルニ於テハ證人ハ其口授

セラレタル如クニ記載セラレシ者ナルヤ否ヤヲ保證スル能ハサル可キナリ

〔附言〕 共和十一年「プレーリアル」月二十四日ノ政府ノ「アレーテ」並ニ共和十二年「テルミドル」月四日、同二十九日司法卿ノ「レットル」ヲ參觀ス可シ

〔七百八十六號〕 其三 證人ノ面前ニ於テ遺囑者ニ其遺囑ヲ讀聞セサル可カラス是レ一ハ遺囑者ヲシテ眞ニ其意ヲ記シ得タルヤ否ヤヲ審査セシムル爲メナリ又一ハ證人ヲシテ口授セラレタルカ如クニ諸條件ノ記載セラレタルヲ保證セシムル爲メナリ○聾者ハ公正ノ式ヲ以テ遺囑スル能ハサルナリ何トナレハ聾者ニ附テハ讀聞カスルノ法式ヲ行フモ無益ニ屬スレハナリ

〔七百八十七號〕 其四 公證人ハ法ノ命シタル各法式ヲ規則ニ適シテ成就シタル旨ヲ明言シテ遺囑書ニ記載セサル可カラサルナリ○故ニ唯此諸法式ヲ成就シタルノミニテハ未タ十分ナラサルナリ必ス公證人ハ鄭重ニ遺囑書ニ記載シテ法ノ命シタルカ如ク各法式ヲ逐一成就シタル旨ヲ斷言セサル可カラサルナリ

此鄭重ナル記載ノ式ハ甚タ有益ナル者ナリ若シ法ニ於テ此式ヲ命セサルニ於テハ必ス弊害ヲ生スルニ至ル可キナリ各法式ヲ十分ニ行ハス又ハ全ク之ヲ行ハサルニ於テハ是レ其公證人ノ過失タル可キカ故ニ之ヲシテ償金ヲ拂ハシムル事アル可キナリ然リト雖モ此民法上ノ罰ニテハ公證人ヲ畏懼セシメ而シテ之ヲシテ大ニ注意スル所アラシメ以テ嚴ニ法式ヲ遵守セシムルニ足ラサル可キナリ是ニ反シテ記載ノ公正タル式ハ公證人ヲシテ畏懼セシメ以テ嚴ニ成規ヲ奉守セシムルヲ得可キナリ實ニ法ノ命スル所ノ各法式ヲ嚴ニ

行ハスシテ而シテ之ヲ行ヒタル旨ヲ記載シ以テ其正確タル事ヲ斷言スルニ於テハ是レ公證人ハ一ノ詐詭罪ヲ犯シタルナリ而シテ此詐詭ニ依リ其公證人ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ故ニ公證人ハ若シ其不注意、怠慢ナル事アルニ於テハ此刑ニ依リ其自由ト榮譽トヲ失フ可キカ故ニ必ス畏懼シテ注意スル所アル可キナリ

故ニ法ニハ此記載ヲ爲ス可キノ地位ヲ指定セサルカ故ニ遺囑書ノ首端ニ於テナリ又ハ其中央ニ於テナリ又ハ其結末ニ於テナリ其地位ニ拘ハラスト雖モ公證人ハ必ス左ノ言ヲ記セサル可カラス即チ遺囑ハ遺囑者ノ口授シタル者ナリ遺囑ハ其口授ニ從テ公證人又ハ公證人中ノ一名ノ記シタル者ナリ證人ノ面前ニ於テ遺囑者ニ之ヲ讀聞セタリト若シ遺囑者ト證人トニ之ヲ讀聞カセタリト記載スルヿアレハ是レ規則ニ適セサル事ナリ若シ此ノ如ク記載スルニ於テ

ハ證人ノ面前ニ於テ遺囑者ニ遺囑ヲ讀聞カセタル事ノ證ナカル可キナリ何トナレハ遺囑者ト證人トヲ分チテ各別ニ讀聞カスルヲ得可ケレハナリ○然レトモ此記載ノ事ニ附テハ一定ノ文例アルニ非サルナリ總テ法律ノ主意ハ各法式ヲ嚴ニ遵守シタル旨ヲ明瞭ニ斷言シテ曖昧タル所ナカラシムルニアルノミナリ

第九百七十三條〔七百八十八號〕 其五 遺囑書ニハ遺囑者、公證人及ヒ證人手署セサル可カラス○若シ遺囑者手署スルヲ知ラス又ハ手署スル能ハサル時ハ其原因ヲ指定シタル陳述ヲ遺囑書ニ明記シ以テ手署ノ缺漏ヲ補フヲ得可シ唯遺囑者ノ手署セサリシ旨ヲ公證人ノ記載セシノミニテハ十分ナリトセス何トナレハ遺囑者手署スルヲ知ラス又ハ手署スル能ハサル事アレハナリ此記載ハ左ノ事項ヲ揭ケタル時ニ非サレハ手署ノ缺ヲ補フニ足ラストス

公正ノ遺囑

(一) 遺囑者手署スルヲ知ラス又ハ手署スル能ハサル旨ヲ陳述シタル事

(二) 某々ノ原因ニ依テ其手署スルヲ知ラス又ハ手署スル能ハサル事

故ニ遺囑者手署スルノ際忽然死去シテ其手署ヲ成就スル能ハサルニ於テハ其遺囑ヲ不十分ナル者ナリトス遺囑者唯一其通常ノ手署ノ一二語ヲ遺囑書ニ記スルニ過キサル時ハ其遺囑ハ手署シタル者ナリト言フヲ得サル可ク而シテ遺囑者ハ其手署スル能ハサリシ所以ノ原因ヲ陳述セスシテ死去シタルカ故ニ其手署ノ缺ハ決シテ他ノ記載ヲ以テ補フヲ得サルナリ

遺囑者手署スルヲ知ラスト陳述シタリト言フノ語ヲ記載スル時ハ其記載ヲ規則ニ適シタル者ナリトス此記載ハ實ニ遺囑者ノ手署セ

サル所以ヲ指定スル者ナリ

遺囑者書記スルヲ知ラストト陳述シタリト言フノ語ヲ記載スル時ハ是ニ異ナリ實ニ此語ニ依テハ手署ヲ缺キタル所以ノ原因ヲ知ル能ハサルナリ書記スルヲ知ラサル人即チ悉ク「アベセ」ノ文字ヲ書スルヲ得サル人ナリヒ手署スルヲ知ルヲ得可シ即チ其姓字ヲ綴ル可キ文字ハ之ヲ記スルヲ得可ケレハナリ然リト雖モ書記スルノ語ヲ手署スルノ語ト同義ニ遺囑書中ニ用ヒタル他ノ例アル時ハ上文ニ於テ余ノ非難シタル所ノ記載ニテモ法意ヲ滿足スルヲ得可キナリ手署セン事ヲ求メタルニ遺囑者書記スルヲ知ラストト陳述シタリト言フノ語ヲ記載シタル時之ヲ規則ニ適シタル者ナリト裁判シタルノ例アリ是レ他ニ手署ノ語アリテ書記スルノ語ハ是レ即チ手署スルノ語ト同義ニ用ヒタル者ナレハナリ○又假令ヒ遺囑者手署スルヲ

知ラスト陳述セシ事ヲ記載シ而シテ其記載シタル規則ニ適シタル者ナルモ其陳述タル詐詭ニ出テタルノ證アル時ハ此記載ヲ以テ手署ノ缺ヲ補フヲ得サルナリトス實ニ此陳述ハ其手署ヲ以テ遺囑ヲ確實ニスル事ヲ竊カニ拒ミタル者ニ過キサルナリ

第九百七十四條〔七百八十九號〕「ウヒル」都會繁華ノ地ヲ云フ「ウヒル」ノ郭外ノ地ヲ云フニ於テ之ヲ爲シタル時ハ其遺囑作成ニ附キ立會フ可キ二名又ハ四名ノ證人ハ必ス之ニ手署セサル可カラス若シ其手署ヲ缺ク時ハ如何ナル記載ヲ爲スモ決シテ其缺ヲ補フヲ許サス然レ𪜈「カンパーキュ」キ村落人口少ク地ヲ云フ中ニ於テハ時トシテハ手署スルヲ得可キ數名ノ證人ヲ得難キ事之アリ故ニ「カンパーキュ」ニ於テ遺囑ヲ爲シタル時ハ二名ノ證人中ノ一人又ハ四名中ノ二人ノ遺囑書ニ手署スル時ハ十分ナル者ナリトス

所謂ル「カンパーキュ」トハ何ヲ言フヤ曰ク立法議院ニ於テハ千人以下ノ邑ハ悉ク之ヲ「カンパーキュ」中ニ置ク可シト論シタリ然リト雖モ此說ハ終ニ行ハレサリシナリ何レノ法律ニモ此事項ニ附キ確定シタルノ法文ナシ故ニ證人タル者皆ナ遺囑書ニ手署セサル可カラサルヤ否ヤノ論題ハ遺囑書ニ作リタル所ノ地ノ人口ニ從ヒ其實際ノ形情ニ依テ裁判所ノ斷定ス可キ時ニ在リトス

〔七百九十號〕遺囑書ニ遺囑者竝ニ證人ノ手署シタル旨ハ公證人之ヲ記載スルニ及ハス唯實際其手署シタルノミニテ十分ナリ「ウッントーズ」月ノ公證人ニ關スル法第十四條ニハ凡ソ公證人ノ記スル書面ニハ本人竝ニ證人ノ手署シタル旨ヲ記載ス可キ事ヲ命シタリ然リト雖モ余輩既ニ第七百八十一號ニ於テ論述セシカ如ク此法ハ民法ニテ別段ニ規則ヲ設ケタル事ニハ施用ス可キ者ニ非サルナリ然リ而シ

テ民法ニ遺囑者竝ニ證人ノ手署ニ關スル事ハ都テ皆ナ之ヲ規定シタリ且ツヂ=ーベル氏「トリビュナ」ニ開陳シタル言ニ曰ク「公證人ニ關スル法ハ遺囑ニハ適用ス可キ者ニ非ストス遺囑ニ附テハ民法ニ於テ證人ニ關スル一切ノ事件ヲ悉ク規定シタリ」ト

又同上ノ理由ニ因リ余ハ將ニ言ハントス曰ク證人ノ姓名、身分、住所ヲ記載スル事ハ是レ同法第十二條、第十三條ニテ尋常ノ公證人ノ書面ニ附テハ必要ナリトスル所ナリト雖モ遺囑ニ附テハ必シモ之ヲ要スルニ非サルナリトス

是ニ反シテ公證人ハ自身ノ手署セシ事ハ必ス之ヲ記載セサル可カラサルナリ民法ニハ公證人ノ手署ノ事ハ決シテ之ヲ規定セサリシナリ是ニ由テ此事項ニ附テハ「ウ゛ウントーズ」月ノ公證人ノ法ニ據ラサル可カラサルナリ該法第十四條ノ法文ニ曰ク「公證人ハ唯其領承スル所ノ書面ニ手署スルノミナラス其之ニ手署シタル旨ヲ必ス記載セサル可カラサルナリ」ト

〔七百九十一號〕自筆ノ遺囑ニ於テハ之ヲ爲シタル所ノ地ヲ指定スルヲ要スル事ナシ何トナレハ遺囑者ハ何レノ場所ニ於テナリトモ遺囑スルヲ得ルカ故ニ其地ヲ指定スルモ益ナケレハナリ是ニ反シテ公正ノ遺囑ニ附テハ必ス其地ヲ指定セサル可カラス何トナレハ此遺囑ノ適正タル事ハ遺囑者ノ能力ト公證人ノ能力トニ關スレハナリ公證人ハ其職ヲ行フ可キ能力アル地ニ於テ遺囑ヲ領承シタルヤ否ヤヲ檢スル爲メニハ遺囑ヲ爲シタル地ヲ知ラサル可カラサルナリ

○然リト雖モ茲ニ注目ス可キ所アリ即チ此地ヲ記載セサルモ其遺囑ヲ無効ナリトスルニハ非サルナリ(「ウ゛ウントーズ」月ノ法第十二條及ヒ第六十八條ヲ比照、參觀ス可シ)然レトモ之ヲ記載スルヲ怠リタル

公證人ハ百「フラン」ノ罰金ニ處セラル可キナリ

○第五節　秘密ノ遺囑

第九百七十六條及第九百七十七條〔七百九十二號〕秘密ノ遺囑ヲ適正ナラシムルニハ左ノ法式ヲ行ハサル可カラス

第一　遺囑者自身ニ其條件ヲ書記シ又ハ外人ニ之ヲ書記セシメサル可カラス

第二　遺囑者自身ニ之ヲ書記スル時ニテモ亦外人ニ之ヲ書記セシムル時ニテモ必ス常ニ遺囑者自身ニ其書面ニ手署セサル可カラス然レトモ日附ハ必シモ之ヲ記載スルニ及ハサルナリ

第三　遺囑ヲ記シタル紙又ハ此紙ヲ包括スル所ノ封紙ニテ閉縅シ（クロール）而シテ印形（スセレー）ヲ爲サヽル可カラス○此法式ハ此紙面ヲ檢閲セシムル所ノ公證人並ニ證人ノ面前ニ於テナリトモ亦其面前ニ非サル所ニ於

テナリトモ之ヲ行フヲ得可シ○遺囑者ハ必シモ自身ノ封印（カッセー）ヲ用フルニ及ハス法ニ他人ノ封印ヲ用フルヲ許シタルヲ以テ之ヲ知ル可キナリ

世論ニ於テハ遺囑者ノ處置ヲ記シタル所ノ書又ハ封筒（アンヴロップ）ニ用ヒタル所ノ紙ヲ麵包又ハ封蠟ニテ閉縅シタルノミニテハ十分ナラス必ス遺囑者其麵包又ハ封蠟ノ上ニ印形又ハ封印ノ類ヲ押打セサル可カラストセリ論者曰ク法ハ恐ラクハ苛刻ナル可シト雖モ其明文アリ如何ニ爲シ難シト○此解釋ハ法文ニハ假令ヒ適當スルモ法意ニハ必ス反對ス可キナリ遺囑者ノ處置ヲ記載シタル所ノ書面ト詐詭ノ書面トヲ變換スル能ハサルカ爲メニ法ニハ遺囑書ハ必ス之ヲ封シテ押印セン事ヲ望ミタルナリ然レハ法ノ此主意ヲ達セントスルニハ如何ス可キヤ若シ遺囑書ヲ開封スルニ於テハ必ス其開封シタルノ

痕跡ヲ存ス可キノ方法ヲ以テ之ヲ封緘スル爲メニ用フル所ノ封蠟ニ印形ヲ押打スルト、セサルトニハ拘ハラサルナリ固ヨリ法ニハ「スセレー」印形トヽ譯セリノ語ニ附テ解義ヲ載セサルニ依リ其意ヲ解釋シテ廣濶ナラシムルヲ得可キナリ

世人一般ノ通語ニ於テ紙ヲ破壞スルニ非サレハ之ヲ開クヲ得サル可キ方法ヲ以テ閉緘シタル時ハ其紙ヲ「スセレー」シタル者ナリト云フニ非スヤ若シ然ラストスルニ於テハ法ハ甚タ奇怪ノ者ナル可キナリ世人多クハ「エペンゲル」針ノ一種又ハ爪頭ニ非サレハ封印ニ爲ス可キ者ヲ有セス然レハ封緘スル所ノ蠟上ニ此封印ヲ押打スルニ於テハ其遺囑ハ皆ナ之ヲ取消サシム可キヤ

第四　遺囑者ハ公證人並ニ證人(證人ノ數六名)ニ其處置ヲ記シタル紙面ヲ呈示ス可シ遺囑者ハ之ヲ閉緘シ封印シテ呈示シ又ハ公證人、證人ノ面前ニ於テ之ヲ閉緘シ封印セシム可シ

第五　遺囑者ハ此紙面ノ記事ハ即チ其遺囑ニシテ自身書記シテ手署シタル旨又ハ他人ニ書記セシメテ自身手署シタル旨ヲ公證人、證人ニ陳述ス可シ

第六　公證人ハ調書ヲ作ル可シ而シテ此調書ニハ、第一、遺囑者ヨリ公證人ニ閉緘、封印シタル紙面ヲ呈示シ又ハ公證人ノ面前ニテ之ヲ閉緘、封印セシメタル事ヲ記シ、第二、此紙面ノ記事ハ即チ其遺囑ニシテ自身ニ書記、手署シタル旨又ハ外人書記シテ自身手署シタル旨ヲ遺囑者ノ陳述シタル事ヲ記ス可シ此調書ヲ稱シテ「アクト、ド、シュスクリプシヨン」上書アル書面ノ義ナリト云フ何トナレハ此調書ハ遺囑者ノ處置ヲ記シタル紙面上又ハ其封紙上ニ記スル者ナレハナリ○此「アクト、ド、シュスクリプシヨン」ハ他ノ公證人ノ書面ノ如ク日附ヲ

記載セサル可カラサル者ナリ(「ウッントーズ」月ノ法第十二條)遺囑ノ日附ハ獨リ此日附ニ依テ定マル者ナリ何トナレハ遺囑ハ其秘密遺囑ヲ爲シタル限ハ「アクト、ド、シュスクリプシヨン」ニ依ラサレハ完全ナル者ニ非サレハナリ又遺囑者數箇ノ遺囑ヲ遺シタル場合ニ於テ其遺囑中ノ何レヲ以テ最後ノ者トスルヤ之ヲ認定セント欲スル時ハ亦此日附ニ由ラサル可カラサルナリ

第七　「アクト、ド、シュスクリプシヨン」ニハ遺囑者、公證人竝ニ六名ノ證人手署セサル可カラス○假令ヒ二名ノ公證人ノ遺囑ヲ記載シタル時ナリ𪜈法ニテハ必ス證人ノ立會ハン事ヲ望ミ而シテ又假令ヒ「カンパーキュ」ニ於テ遺囑ヲ記載シタル時ニテモ悉クノ證人皆ナ手署セン事ヲ望ミタリ

遺囑者其遺囑書ニ手署シタルノ後ヲ偶然ノ支障ニ依テ「アクト、ド、シュスクリプシヨン」ニ手署スル能ハサル時ハ此場合ニ於テハ別段ニ證人ノ員數ヲ增加スルニ及ハスト雖モ其手署スル能ハサル所以ノ陳述ヲ記載セサル可カラス若シ遺囑者其遺囑ヲ外人ニ書記セシムルノ際ニ於テ手署スル能ハサルニ至リシ時ハ第七ノ證人ヲ呼ハサル可カラス而シテ此證人ハ他ノ六名ノ證人ト共ニ「アクト、ド、シュスクリプシヨン」ニ手署セサル可カラサルナリ

第八　遺囑ノ呈示、閉緘、封印ノ式(此式ハ遺囑ノ呈示ト同時ニ之ヲ爲シタル時ニ限ル)遺囑者ノ陳述及ヒ「アクト、ド、シュスクリプシヨン」ハ相連接シテ間斷ナク之ヲ爲サヽル可カラス公證人ハ遺囑ヲ成就セシメスシテ譬ヘハ賣買ノ如キ他ノ關係ナキ所爲ヲ取扱ヒ而シテ後ニ至リ更ニ又其遺囑ニ取掛ルヲ得サルナリ是レ所謂ル羅馬人ノ「ユニテ、ド、コンテキスト」(諸條件ヲ合一ニ爲スヲ云フナリ)○此諸法式ヲ間斷ナク

成就セン事ヲ法ノ欲シタルハ是レ遺囑者、公證人他ノ所爲ヲ爲スノ間ニ於テ外人遺囑書ニ代フルニ詐詭ノ書ヲ以テセン事ヲ防止スルカ爲メナリ然リト雖モ亦注意ス可キ所アリ即チ相連接シテ間斷ナク行フ可キ法式ハ證人ノ面前ニ於テ公證人ニ遺囑書ヲ呈示スル時ニ始マル者ナリ故ニ遺囑書ヲ記シタル時刻ト證人ノ面前ニ於テ公證人ニ之ヲ呈示シタルノ時刻トノ間ハ何程相離ルヽモ遺囑ヲ適正ナリトスルニ妨ケナシトス

〔七百九十三號〕 上文ニ記シタル所ノ諸法式ノ一ヲモ遵守セサルニ於テハ其遺囑ヲ無効ナル者ナリトス○秘密ノ遺囑タルヲ得サル可キ者ナリト雖モ然レトモ其遺囑書タル全文遺囑者ノ手ニ成リ而シテ遺囑者之ニ日附ヲ記シ且ツ手署シタル者ナレハ之ヲ自筆ノ遺囑ト同視スルヲ得サル可キヤ

二三ノ論者ハ同視スルヲ得スト主張セリ其説ニ曰ク秘密ノ遺囑ハ二箇別種ノ遺囑ヲ含蓄スル者ニ非ス此遺囑ハ分別ス可カラサル一個正式ノ書面ニシテ而シテ之ヲ適正ナラシムルニ附キ法ノ命シタル所ノ正式ヲ缺クニ於テハ全ク其價ヲ失フ可キ者ナリ且ツ遺囑者ハ一箇ノ秘密遺囑ノ外爲スヲ欲セス又爲サヽリシナリ然レハ此遺囑ハ無効ナルカ故ニ遺囑者ハ無遺囑ニテ死去セシナリト言ハサルヲ得サルナリト

余ノ考フル所ヲ以テスルニ自筆ノ遺囑ト同視ス可キナリ遺囑者ハ「余ハ秘密ノ遺囑ヲ爲サヾ然ラサレハ余ハ無遺囑ニテ死セン」ト云フノ旨趣ヲ有シタル者ナリト是レ妥當ノ事ニ非サルナリ其主タル旨趣ハ一遺囑ヲ爲シタルニ在リ遺囑ヲ保存シ之ヲ執行シテ殊ニ其効アラン事ヲ保スル爲メニ遺囑者ハ自身ニ作成シタル所ノ遺囑ニ

被ラシムルニ秘密遺囑ノ式ヲ以テセシハ是レ眞ニ然リトス然リトス雖モ遺囑者ハ其相續ヲ規定スル事ヲ以テ法律ニ委シタルニハ決シテ非サル可キナリ論者曰ク其遺囑ニハ秘密遺囑ノ性質ト勢力トヲ備ヘサルナリト是レ至當ノ論ナリ然レ𪜈此遺囑ハ自筆遺囑トスル時ハ固ヨリ適正ナル者ニシテ而シテ其勢力ヲ有スル者ニ相違ナカル可キナリ何トナレハ死者ハ一遺囑ヲ爲サント欲シ而シテ自筆遺囑ヲ適正タラシム可キ爲メニ法ノ命シタル式ハ全ク之ヲ充足シタレハナリ正式ナクシテ適正ニ爲スヲ得可キ所ノ書面ニ附キ隨意ニ正式ニ從テ之ヲ爲シ而シテ其書面ニ固有タル法式ハ之ヲ充足シタルニ於テハ假令ヒ正式ニ附テハ不規則ナル所アルモ之ヲ適正ナリトスルニ妨ケナカル可キナリ蓋シ第千三百十八條ノ法文ニ法式ノ缺失ニ依リ公成證書タル可キ價ナキ所ノ證書ナリ𪜈若シ之ニ本

人ノ手署アルニ於テハ私印證書タル可キ價アリトストアルハ是レ之ヲ謂フナリ

○第六節　或ル法式ニテ遺囑スルヲ妨ケ又ハ全ク遺囑スルヲ妨ル所ノ有形ノ原因

第九百七十八條及第九百七十九條（七百九十四號）第一　手署スルヲ知ラス又ハ手署スル能ハスト雖モ讀ム事ヲ得可キ所ノ人○此者ハ自筆ノ式ニテハ遺囑スルニ附キ無能力者ナリト雖モ公正ノ式又ハ秘密ノ式ニテハ遺囑スルヲ得可キナリ然レ𪜈茲ニ注目ス可キ所アリ即チ秘密ノ式ニ依テ遺囑ヲ爲ス場合ニ於テ法ニテ第七ノ證人ノ立會ヲ望ミシ事是ナリ（七百九十二號第七參觀）

第二　讀ムヿヲ知ラス又記スルヿモ能ハサル所ノ人○此者ハ公成證書ニ依ラサレハ遺囑スル能ハサルナリ決シテ他ノ式ニテハ遺囑

スルヲ得ス即チ此者ハ記スル事能ハサルニ依テ自筆ノ式ニ依ルヲ得ス又遺囑ハ外人ニ之ヲ記セシムト雖モ之ヲ公證人ニ呈示シタル時ニ於テ其記セシメント欲シタル所ノ條件ヲ眞ニ記シタル者ナルヤ否ヤヲ自身保證スル能ハサルニ依リ秘密ノ式ヲ用フル能ハサルナリ

第三　啞者○啞者ハ公正ノ式ニテハ遺囑スル能ハスト雖モ(七百八十二號參觀)若シ書スル事ヲ知ルニ於テハ自筆ノ式又ハ秘密ノ式ニ依ル時ハ遺囑スルヲ得可キナリ

若シ秘密ノ式ニ依テ啞者ノ遺囑スル時ハ其呈示スル所ノ紙面ハ即チ其遺囑ニシテ自身書記シテ手署シタル旨又ハ外人ニ書記セシメテ自身手署シタル旨ニ附キ遺囑者ノ爲ス可キ陳述ヲ爲ス能ハサルニ依リ「アクト、ド、シュスクリプシヨン」ノ上部ニ左ノ語ヲ自書シテ此陳述ニ代ヘサル可カラス即チ「余ノ呈示スル所ノ紙面ハ即チ余ノ遺囑ナリ」ノ語ヲ記セサル可カラス公證人ハ此語ノ次ニ「アクト、ド、シュスクリプシヨン」ヲ記シ而シテ此語ハ公證人、證人ノ面前ニ於テ遺囑者ノ自書シタル者ナル事ヲ附記ス可キナリ○其法式ニ附テハ尋常ノ秘密遺囑ニ附キ法ノ命シタル法式ニ異ナル事ナシ但シ左ノ二個ノ變例(デロガシヨン)ハ格別ナリトス

第一ノ變例○通法ニ於テ秘密ノ遺囑ヲ爲サント欲スル者ハ自身ニ之ヲ記スルヲ得可ク又外人ニ之ヲ記セシムルヲ得可キナリ(七百九十二號第一參觀)啞者タル遺囑者ハ必ス自筆ニテ之ヲ記セサル可カラサルナリ○然リト雖モ啞者ナリト雖モ能ク文字ヲ讀ムヲ得ル者アリ然ルニ必ス自筆ニテ其遺囑ヲ記セン事ヲ望ムハ何故ナルヤ曰ク民法編集ノ時ニ在テハ啞者教育ノ法タル今日ノ如ク完全具備ス

ルヲ得サリシナリ故ニ其當時ニ在テハ啞者ハ二三ノ文字ハ之ヲ讀ムヲ得ルニ過キシト雖モ其外人ニ記セシメタル所ノ遺囑ヲ十分ニ會得スルヲ得可キノ力ハ有セサリシナリ此ノ如キノ情實アリシカ故ニ啞者ニ附テハ其遺囑ヲ必ス自身ニ記セン事ヲ望ミタルナリ立法官ノ見ル所ニテハ此法式ヲ充タス事ハ是レ即チ法律上ノ證據ニシテ即チ是ニ由リ遺囑者十分ニ原因ヲ知リ以テ遺囑ヲ爲ス可キノ力ヲ備ヘタルヲ證ス可キナリ

第二ノ變例○通法ニ據ル時ハ秘密ノ遺囑ヲ爲ス所ノ遺囑者ハ公證人、證人ニ其呈示スル所ノ遺囑書ニハ日附ヲ記スルニ及ハサルナリ唯ヽ「アクト、ド、ジュスクリプシヨン」ニ日附ヲ記スルノミニテ十分ナリトス(七百九十二號第二及第六參觀)遺囑者若シ啞者ナルニ於テハ是ニ異ナリ法ニ於テ啞者ハ必ス遺囑書ニ日附ヲ記セン事ヲ望ミタリ○此日附ハ全ク無益ノ者ナリ何トナレハ秘密ノ遺囑ハ「アクト、ド、ジュスクリプシヨン」ノ日附ニ依ル者ナレハナリ(七百九十二號第六參觀)茲ニハ實ニ法律ノ錯誤アリ然レトモ此錯誤ハ沿革上ニ就テ之ヲ辯解スルヲ得可キナリ千七百三十五年ノ命令書ニテハ遺囑書竝ニ「アクト、ド、ジュスクリプシヨン」ハ何レノ場合ニ於テモ亦遺囑者ノ身分ノ如何ニ拘ハラス共ニ其日附ヲ記セン事ヲ望ミタリ民法ニ於テハ遺囑書ニ日附ヲ記スルノ無益ナルヲ考ヘ而シテ第九百七十六條ニ於テ此事項ニ附テハ該命令書ノ條規ヲ廢止シタリ然ルヲ第九百七十九條ニ於テハ混雜シテ又其條規ヲ再出セシナリ

書記スルヲ知ラサル所ノ啞者ハ何レノ式ニ依ルモ遺囑スルヲ得サルナリ

第四　聾者○聾者ハ書記スル事ヲ知ルニ於テハ自筆ノ遺囑ナリトモ

亦秘密ノ遺囑ナリトセ之ヲ爲スヲ得可キナリ又讀ム事ヲ知ルニ於テハ假令ヒ書スル事ヲ知ラスト雖モ秘密ノ遺囑ハ之ヲ爲スヲ得可キナリ然リト雖モ聾者ハ何レノ場合ニ於テモ公成證書ニ依テハ遺囑スル能ハサルナリ(七百八十六號參觀)故ニ讀ム事ヲ知ラス又書スル事ヲモ知ラサルニ於テハ聾者ハ遺囑スルニ附キ無能力者タル可キナリ

○第七節　遺囑ニ附キ證人タルヲ得可キ人

第九百七十五條及第九百八十條

(七百九十五號)　遺囑ニ附キ其立會ヲ要スル所ノ證人ハ左ノ如クナラサル可カラス

第一　男子ナラサル可カラス故ニ婦女ハ證人タルヲ得サル者ナリ婦女ハ其節操ニ於テ男子ト共ニ集會ス可カラサル所アリ是レ其證人タルヲ得サル所以ナリ

第二　二十一歳ノ丁年者ナラサル可カラス

第三　民權ヲ有持セサル可カラス且ツ證人タル可キ者ハ唯〻民權ヲ有持スルノミニテハ尚ホ十分ナラス必ス之ヲ執行スルヲ得ル者ナル可キナリ故ニ法律上ノ禁止又ハ裁判上ノ禁止ヲ受ケタル者ハ證人タルヲ得ストス何トナレハ禁止セラレタル者ハ民權ヲ有持スト雖モ之ヲ執行スルヲ得サル者ナレハナリ

第四　帝國ノ臣民タラサル可カラス千七百三十五年ノ命令書ニハ王國人ナラサル可カラスト記シ民法ノ最初ノ編集ニハ共和國人トト記シタリ此共和國人ハ即チ帝國ノ臣民トナリタル者ナリ其後千八百十六年「レストーラシヨン」王家ノ再興ノ時ニハ帝國ノ臣民ヲ稱シテ王ノ臣民ト言ヘリ現今ニ在テハ單ニ佛蘭西人ト言フ可キナリ

遺囑ニ附キ證人タルヲ得可キ人

此各書式ハ到底事實ニ於テ變スル所ナク唯〻各時代ノ國體ニ近キ語ヲ擧ケ用ヒシニ過キサルナリ故ニ王國人ト言フノ語モ帝國臣民ト言フノ語モ其主意タル全ク同一ナリ古法ノ時ニ在テハ王國人ト言フノ語ハ常ニ外國人(エタランゼー)ト言フノ語ニ對シテ用ヒタル者ニシテ全ク佛蘭西人ト言フノ語ト同義ナリ○故ニ外國人ハ佛蘭西ニ其住所ヲ定ムルノ允可ヲ得テ民權ヲ有持スト雖モ(第十三條)遺囑ニ附テハ證人タルヲ得サル者ナリ

遺囑ニ關スル證人ノ能力ニ附テハ民法ニテ別種ノ方法ヲ用ヒタルカ故ニ此事項ニ附テハ「共和十一年「ウヴントーズ」月二十五日公證人ノ法ハ廢止セラレタルナリ(七百八十一號參觀)是ニ由テ民法ニテ無能力ナリト定メタル所ノ人員中ニ在ラサル者ハ何人ナリ𪜈遺囑ニ附テハ證人トナルヲ得可キナリ且ツ「ウヴントーズ」月ノ法ニテ無能力者ナリトシタル所ノ人員中ノ者ナリ𪜈證人タルヲ得可キナリ故ニ國士(シトワイヤン)タラサル者即チ譬ヘハ分散人ノ如キ公權ヲ有持セサル人又ハ邑內ニ住所ヲ有セサル人ハ尋常ノ書面ニ附テハ證人タルヲ得サル者ナリト雖モ遺囑ニ附テハ證人トナルヲ得可キナリ(「ウヴントーズ」月ノ法第九條)(下ノ附言ヲ見ル可シ)民法ニテ能力ヲ廣メテ證人タル者ノ數ヲ增加シタルハ是レ死ニ瀕シタル時ニ於テ遺囑ヲ爲サント欲スル者ナシテ其證人トナス可キ能力者ヲ容易ニ得ル能ハサルカ爲メニ其權利ヲ行フノ妨ケトナラシメサルニ在リ

〔附言〕奴僕ハ現今ハ撰擧シ又ハ撰擧セラルヽノ權ヲ有持ス故ニ奴僕モ亦國士タル身分ニ存スル所ノ最モ貴重ナル特權ヲ有スル者ナリ然レハ奴僕モ公證人ノ書面ニ附テ其證人タルヲ得可キ者ナルヤ曰ク此論題ニ附テハ甚タ異論アリ然レ𪜈余ハ其

證人タルヲ得可キヲ信スルナリ(第一帙百二號ヨリ百四號マテ參觀)

概言スルニ遺囑ニ附テ證人トナルヲ得サル者ハ左ノ如シ

第一　婦女

第二　二十一歳以下ノ幼者

第三　民權ノ執行ヲ剝奪セラレタル人

第四　外國人

〔七百九十六號〕一般ニハ遺囑ニ附キ證人タルヲ得可キ能力ヲ有スル者ニシテ而シテ若干ノ場合ニ於テハ關係ノ無能力者トナル事アリ故ニ左ノ者ハ公正ノ遺囑ニ附テハ證人トナルヲ得サルナリ

第一　受遺囑者○其受ル所ノ遺囑物タル何程些少ナリトモ是ニ拘ハラス證人タルヲ得サル者トス

第二　受遺囑者ノ第四級迄ノ親族又ハ姻族○又受遺囑者ノ匹耦者モ證人タルヲ得サル可キナリ何トナレハ匹耦者ハ第一級ノ姻族ナリトモ言フ可キ者ナレハナリ○受遺囑者並ニ第四級迄ノ其親族姻族ハ實ニ利害得失ノ關係大ナル者ニシテ其證據ニハ十分ニ信ヲ置ク能ハサル可キ所アルカ故ニ其關係スル所ノ事件ニ附テハ證人タルヲ得サルナリ

第三　遺囑ヲ領承スル所ノ公證人ノ書記役○此書記役ハ公證人ノ指揮ヲ受ル者ナルカ故ニ公證人ノ書面(クレルク)ヲ審査スル能ハサル可キ所アレハナリ

〔七百九十七號〕民法ニハ公正ノ遺囑ニ附キ證人タル可カラサル關係ノ無能力者ヲ殊更ニ定メタリ故ニ「ウッントーズ」月ノ法ニ規定スル關係ノ無能力ハ都テ皆ナ遺囑ニ附テハ適用ス可キ者ニ非サルナリ

トス(七百八十一號及七百八十五號參觀)故ニ「ウォントーズ」月ノ法ニテハ公證人ノ親族、奴僕ハ無能力者中ニ置クト雖モ其親族、奴僕ハ遺囑ニ附テハ證人トナルヲ得可キナリ又余ヲ以テ之ヲ見ルニ「ウォントーズ」月ノ法第十條ニ據テ本人ノ親族、奴僕ハ尋常ノ書面ニ附テハ證人タルヲ得サル者ナリト雖モ遺囑ニ附テハ遺囑者ノ親族、奴僕ハ證人タルヲ得可キ者ナリトス

〔七百九十八號〕第九百七十五條ニ於テ公正ノ遺囑ノ證人トナル事ニ附キ無能力者ナリト定メタル所ノ受遺囑者並ニ其親族、姻族ハ秘密ノ遺囑ニ附テハ證人タルヲ得可キナリ若シ然ラストスルニ於テハ公證人ハ何人ヲ證人ニ撰ム可キヤ之ヲ知ル能ハサル可キナリ何トナレハ公證人ハ素ト遺囑ノ何人ノ爲メニ爲サレタルヤ其人ヲ知ラサレハナリ

〔七百九十九號〕遺囑者及ヒ公證人ノ親族、姻族、奴僕ハ公正ノ遺囑ニ附テハ證人タルヲ得ル者ナリ(七百九十七號參觀)ト雖モ秘密ノ遺囑ニ附テモ亦證人タルヲ得可キヤ二三ノ論者ハ證人タルヲ得スト主張セリ其說ニ曰ク民法ハ公正ノ遺囑ニ附テノ外關係ノ無能力ヲ規定セス故ニ秘密ノ遺囑ニ附テハ「ウォントーズ」月ノ法ニ據ラサル可カラサルナリト

余ハ其反對ノ說ヲ可トス遺囑ニ附テ證人タル可キ能力者ノ區域ヲ廣メタル法律ノ主意ハ遺囑スルノ權ヲ容易ニ執行セシムルニ在リ公正ノ遺囑ニ附テヨリモ秘密ノ遺囑ニ附テハ大ニ證人タル者ノ員數ヲ增加シタルニ依リ凡ソ公正ノ遺囑ニ附テ證人タルヲ得可キ者ハ皆ナ秘密ノ遺囑ニ附テハ證人タルヲ得可キ者ナリトス公正ノ遺囑ニ附テ既ニ證人タルヲ得况ヤ秘密ノ遺囑ニ於テオヤ

○第二款　若干ノ遺囑ノ法式ニ附キ特別ナル規則、

〔八百號〕特別ノ情狀アルヲ以テ法ニテ若干ノ遺囑ニ附テハ尋常ノ法式ヲ免除セサル可カラスト思考セリ其情狀左ノ如シ

第一　軍役（セルビス、ミリテール）

第二　傳染病

第三　海上旅行

第四　外國寄留

○第一節　軍人ノ遺囑

〔八百一號〕第壹　此遺囑書ヲ記載ス可キ身分アル人

（自第九百八十一條至第九百八十四條及第千一條）

此遺囑書ハ歩兵大隊ノ長又ハ騎兵大隊（バタリヨン）ノ長又ハ其他總テ上等ノ官（エスカドロン）吏二名ノ證人ノ面前ニテ之ヲ記載ス可ク又ハ同シク二名ノ證人ノ立會ヲ得テ一名ノ「スー、エンタンダン、ミリテール」之ヲ記載ス可ク又ハ

二名ノ「スー、エンタンダン、ミリテール」之ヲ記載ス可シ此後ノ場合ニ於テハ必シモ證人ノ立會アルヲ要セサルナリ

〔附言〕民法第九百八十一條ニ載スル所ノ「コンミッセール、デ、ゲール」（兵隊ノ諸務ヲ管理スル官吏）ニ代ルニ「スー、エンタンダン、ミリテール」（同ク官吏ノ名）ヲ以テセリ（十八百十七年七月二十九日命令書參觀）

又遺囑者若シ疾病ニ罹リ又ハ創傷ヲ被リタル時ハ病院監察ヲ任セラレタル「コンマンダン、ミリテール」官名ノ立會ヲ得テ軍醫官之ヲ記載スルヲ得可キナリ（第九百八十二條）

〔八百二號〕第貳　法式

遺囑者ハ其遺囑ニ手署セサル可カラサルナリ若シ遺囑者手署スルヲ知ラス又ハ手署スル能ハサル旨ヲ陳述スル時ハ之ヲ記載スル所ノ官吏其陳述並ニ手署スル能ハサル所以ノ原因ヲ記載ス可キナリ」

且ツ遺囑書ヲ記載スル所ノ一名又ハ數名ノ官吏之ニ手署セサル可カラス又證人ノ立會ヲ要スル場合ニ於テハ二名ノ證人共ニ之ニ手署ス可キナリ若シ其中ノ一人手署スルヲ知ラス又ハ手署スル能ハサル時ハ他ノ一人ノ手署ノミヲ以テ足レリトス然レトモ此場合ニ於テハ一人ノ手署セサリシ所以ノ原因ヲ記載セサル可カラサルナリ

民法中ニ記シタル所ノ法式ハ僅ニ之ニ過キサルナリ是ニ由テ此法式ヲ充タスニ於テハ十分ナリトス故ニ必シモ遺囑者其遺囑ヲ口授スルヲ要セス又之ヲ記載スル所ノ官吏ハ必シモ自身ニ之ヲ筆記スルニ及ハス此官吏ハ其書記官又ハ其他何人ニナリトモ之ヲ記セシムルヲ得可キナリ又口授ヲ必要トセサルカ故ニ證人ノ面前ニ於テ遺囑ヲ讀聞カスル事ヲモ必要トセサルナリ

〔八百三號〕第參　證人タル可キ者ノ身分

民法ニハ此事項ニ附テハ一言セス故ニ何人ナリトモ遺囑者ノ言語ヲ會得シ法律ノ命シタル法式ヲ充足シタル事ヲ保證スルニ足ル可ク及ヒ其場合ニ依テハ其時ノ事情ヲ辯明スルニ足ル可キ者ハ皆ナ證人タルヲ得可キナリト斷定ス可キナリ此說ニ據ル時ハ受遺囑者、幼者、婦女、外國人ハ證人タルヲ得可キナリ

然レトモ余ヲ以テ之ヲ見ルニ軍人ノ遺囑ノ作成ニ立會フ可キ證人ノ身分ニ附キ民法ニ一言セサルハ是レ民法ハ此事項ニ附テハ第九百七十五條及ヒ第九百八十條ノ條規ニ據ラシムルノ主意ナル可シト信スルナリ

〔附言〕オーブリー氏ロー氏ハ左ノ區別ヲナシタリ曰ク第九百七十五條ノ後ノ二條規ニ記シタル無能力者ハ軍人ノ遺囑ニ適施ス可キ者ニハ非サルナリト

〔八百四號〕第肆　軍人ノ法式ニ從テ遺囑スルヲ得可キ人

兵士並ニ兵隊中ニ使用セラルヽ者ハ皆ナ法式ニ據テ遺囑スルヲ得可キナリ

〔八百五號〕第伍　此者ノ此特權ヲ有スル所ノ場合

左ノ場合ニ於テハ此特權ヲ有ス

第一　佛蘭西領地外ニ發遣シタル兵隊中又ハ其領地外ノ屯營又ハ城塞中ニ在ル時

第二　何レノ場所ニ拘ハラス虜獲セラレテ敵中ニ在ル時

第三　佛蘭西領地內ニ於テ攻圍ヲ受ケタル場所又ハ戰鬪ノ爲メニ其門ヲ閉鎖シ而シテ交通ノ斷絶シタル所ノ城塞又ハ其他ノ場所ニ在ル時

〔八百六號〕軍人ノ遺囑其効ヲ有スルヲ息ムルハ何レノ時ナルヤ

ソ

此遺囑ニ附テノ法式ハ之ヲ尋常ノ法式ニ比スルニ其保證タル可キノ力小ナルカ故ニ法ニテハ尋常ノ法式ヲ用フルヲ得可キ所ニ歸リタル遺囑者ハ更ニ復タ通法ニ從テ其遺囑ヲ爲サン事ヲ欲シタリ然レトモ是ニ附テハ遺囑者ニ一期限ヲ許シタリ其期限ハ遺囑者尋常ノ法式ニ從テ遺囑スルヲ得可キ場所ニ歸リタル時ヨリ起算シテ六箇月ナリトス遺囑者此期限內ニ於テ死去スル時ハ其軍人遺囑ヲ執行ス可シト雖モ是ニ反スル場合ニ於テハ其遺囑ハ無効タル可キナリ

○第二節　疫病其他總テ傳染病ノ時ニ於テ爲シタル遺囑

自第八百九十五條至第八百九十七條

〔八百七號〕第壹　此遺囑書ヲ記載ス可キ身分ヲ有スル人

此遺囑書ハ治安裁判官其不在ノ時ハ其補員又ハ邑ノ官吏中ノ一人ニテ之ヲ記載スルヲ得可シ所謂ル邑ノ官吏トハ邑長又ハ副邑長ヲ云フナリ治安裁判官又ハ邑ノ官吏ハ二名ノ證人ノ立會ヲ得サル可

カラス

治安裁判官又ハ邑ノ官吏ニ支障アル時又ハ遺囑ヲ爲スノ地ニ其在ラサル時ハ衛生官吏(オートリテ、サニテール)ヲ以テ之ニ代ハラシムルヲ得可キナリ

軍人ノ遺囑ノ規則ハ其法式ニ關シ其作成ニ立會フ所ノ證人ノ有ス可キ身分並ニ其効ヲ生ス可キ時間ニ關シテハ疫病ノ時ニ於テスル遺囑ニ附テモ亦之ヲ適施ス可キナリ

第貳　此特別ナル法式ニテ遺囑スルヲ得可キ人

疫病其他傳染病ニ依テ地外ト全ク往來スル事ヲ得サル所ノ地内ニ在ル者ハ皆ナ此法式ニ據ルヲ得可キナリ遺囑者自身ニ此病ニ罹ルト否トヲ問フ事ナシ

○第三節　海上ノ遺囑

自第九百八十八條至第九百九十八條

（八百八號）第壹　此遺囑書ヲ記載ス可キ身分ヲ有スル人

此遺囑書ヲ記載スルヲ得可キ者左ノ如シ

兵船(カペーター)又ハ其他政府ノ船舶ニ於テハ其船舶ヲ指揮スル官吏若シ其官吏ノ在ラサル時ハ之ニ代ル可キ次官是ナリ此官吏ハ何レモ其船舶ノ事務ヲ管理スル官吏又ハ其職務ヲ代理スル所ノ者ト共ニス可キナリ

商船ニ於テハ其船ノ書記人(エグリヲン)又ハ其職務ヲ代理スル者是ナリ此者ハ甲比丹(カピテン)船長(パートル)又ハ「パトロン」(船舶取締人)ト共ニス可ク又其不在ナル時ハ之ニ代ル所ノ者ト共ニス可キナリ

故ニ政府ノ船舶ニ於テハ遺囑書ヲ書記スル者ハ甲比丹ナリ而シテ甲比丹ハ事務ヲ管理スル官吏ノ立會ヲ受ク可シ商船ニ於テハ全ク之ニ反對ス蓋シ商船ノ甲比丹ハ船舶取扱ニ附テハ熟練シタル者ナリト雖モ文字ノ事ニ附テハ其船舶ノ書記人ニ及ハサル事間々之アリ

是レ此差異アル所以ナリ

政府ノ船舶ニ於テ其甲比丹ノ遺囑商船ニ於テ其甲比丹船長又ハ「パトロン」ノ遺囑ハ總テ其次等ニ位スル所ノ者之ヲ記載ス可キナリ

何レノ場合ニ於テモ遺囑書ヲ記載スル所ノ官吏ハ必ス常ニ二名ノ證人ノ立會ヲ受ケサル可カラサルナリ

軍人ノ遺囑ノ法式並ニ其遺囑書作成ニ附キ證人トシテ立會フ所ノ者ノ有ス可キ身分ニ關スル規則ハ海上ノ遺囑ニ附テモ亦之ヲ適施ス可キナリ

〔八百九號〕第貳　海上ノ遺囑ヲ爲スヲ得可キ人

既ニ航行ヲ始メテ尚ホ未タ終ラサル所ノ船內ニ在ル官吏、水夫、乘組人、旅客ハ皆ナ此遺囑ヲ爲スヲ得可シ故ニ海上ノ遺囑ナリト看做スニハ二箇ノ要件相合セサル可カラサルナリ即チ左ノ如シ

第一　海上ニ於テ遺囑ヲ爲シタルヿヲ要ス

第二　航行中ニ在テ之ヲ爲シタル事ヲ要ス○是ニ由テ乘船シタル者ナリトモ其船舶出發ノ日ヲ待テ尚ホ港內ニ在ルニ於テハ尋常ノ式ニ據ルニ非サレハ遺囑スルヲ得サルナリ○又遺囑書作成ノ時船舶既ニ佛蘭西港內ニ至リタル時ハ其遺囑ハ海上ノ遺囑ト看做スヲ得ス此場合ニ於テハ佛蘭西國ノ通法ニ從テ之ヲ爲スニ非サレハ適正タル者トセス又佛蘭西國官吏ノ在留スル所ノ外國領地又ハ佛蘭西國ニテ支配スル地ニ船舶ノ至リタル時モ亦同樣ナリ此場合ニ於テハ佛蘭西國法ノ命シタル法式ニ從フカ又ハ遺囑ヲ作リタル所ノ國ニ於テ慣用スル所ノ法式ニ從フニ非サレハ其遺囑ヲ適正ナル者トセス」尋常ノ法式ニ從テ遺囑書ヲ記載スルノ能力アル佛蘭西ノ公ケノ官吏外國ニ在留ス可キ事ヲ想像シテ上文論シ來リシナリ此公ケノ官

吏トハ公使ト領事トヲ云フナリ

然リト雖モ論者ノ之ヲ駁擊スルアリ千六百八十一年航海上ノ命令書ニハ明文ヲ掲ケテ公使領事ニ與フルニ佛蘭西人ノ遺囑書ヲ記載スルノ權ヲ以テセリ然レトモ民法ニハ此條規ヲ再出セサリシナリ故ニ曰ク「公使及ヒ領事ハ遺囑書ヲ記載ス可キノ身分ヲ有セス茲ニテハ航海上ノ命令書ヲ引用スルヲ得ス何トナレハ民法ハ海上ノ遺囑ニ附テハ十分ノ方法ヲ設立シタレハナリ」ト

余答テ曰ク遺囑ニ附テハ公使領事ノ能力ニ關スル航海上ノ命令書ノ條規ハ民法ニ明言シテ之ヲ再出セサリシト雖モ然レトモ民法ニテハ該命令書ハ尚ホ實行セラルヽ者ナリト想像シタルナリ何トナレハ民法ニハ第九百九十四條中ニ於テ遺囑書ヲ記載スルノ能力アル佛蘭西國ノ公ケノ官吏外國ニ在留スル事ヲ想像スレハナリ且ツ茲ニ附言ス可キ事アリ千六百八十一年ノ命令書ニハ領事ノ職掌ニ附キ特別ノ條規ヲ包含セリ而シテ民法ニハ之ヲ言フ事ナシ故ニ此條規ハ尚ホ實行セラル可キ者ナル可キナリ(千八百三十四年三月二十二日外務卿ノ布達ニモ亦此意ヲ顯ハシタリ)

實ニ民法第四條ニ據テ余輩ノ說ヲ駁擊スルヲ得可キナリ其駁論ニ曰ク法ハ佛蘭西人ノ身分證書ヲ記スルノ委任ハ此官吏ニ之ヲ爲シタリ然リト雖モ佛蘭西人ノ遺囑書ヲ記載スルニ附テハ之ニ委任シタル事ナシ故ニ此官吏ハ遺囑書ヲ記載ス可キ者ニ非サルナリト然リト雖モ身分證書ト遺囑ノ差異アル所以ハ容易ニ之ヲ辯解スルヲ得可キナリ抑領事ハ既ニ古昔ノ命令書ニ據テ遺囑書ヲ記載スルノ任ヲ受ケタル者ナルカ故ニ後チ又新ニ領事ニ之ヲ任スルハ固ヨリ無益ノ事ナル可シ身分證書ニ附テハ古昔ヨリ曾テ領事ハ之ヲ記載スル

ノ權ヲ得タル事ナシ何トナレハ身分證書ヲ記スル事ハ最初ハ「エグリーズ」ノ寺院（耶蘇宗）ニ於テセシ事ナレハナリ故ニ明文ヲ揭ケテ之ヲ領事ニ委任セサルヲ得サルナリ

〔八百十號〕第參　海上ノ遺囑ニ附テ受遺囑者トナルヲ得サル可キ人

遺囑者ハ其船舶ノ官吏ニハ決シテ遺囑物ヲ與フルヲ得ス

遺囑ノ編集ニ關係セサル官吏ニ遺囑物ヲ與フル時ニテモ其遺囑物ハ無効ノ者ナリトス然レトモ其遺囑ハ餘部ニ附テハ適正ナル者ナリ」

遺囑書ヲ記載スル所ノ官吏ニ遺囑物ヲ與ヘタル時ハ遺囑ハ全部ニ附テ無効ナル者ナルヤ將タ唯此官吏ニ與ヘタル遺囑物ニ附テノミ無効ナルヤ二三ノ論者ハ其遺囑ノ全部皆ナ無効ナリトセリ此論者ハ類似ニ依リ「ウォントーズ」月ノ法ヲ適用セシナリ該法ニテハ公正ノ遺囑書ヲ記載スル所ノ公證人ニ遺囑物ヲ與フル事アル時ハ其公正ノ遺囑ノ全部ヲ無効ナラシメタリ○又他ノ論者曰ク民法ニハ遺囑書ヲ記載スル所ノ官吏ニ遺囑物ヲ與ヘタル場合ト船舶中ノ他ノ官吏ニ遺囑物ヲ與ヘタル場合トヲ區別スル事ナシ是ニ由テ其結果ハ何レノ場合ニ於テモ同一ナラサル可カラス故ニ遺囑編集ニ關係セサル官吏ニ與ヘタル遺囑物ヲ無効ナラシムルモ之ニ因テ他ノ事件ヲ無効ナラシム可カラサルナリト

若シ遺囑物ヲ收受シタル所ノ官吏即チ遺囑者ノ親族ナルニ於テハ其遺囑物ハ適正ナル可キナリ

〔八百十一號〕第肆　何レノ時ニ於テ海上ノ遺囑ハ其効ヲ有スルヲ息ムルヤ

此遺囑ハ遺囑者ノ海上ニ於テ死去スル時又ハ尋常ノ法式ニ從テ之ヲ改作スルヲ得可キ地ニ上陸シタルヨリ三月內ニ死去シタル時ニ

非サレハ適正ナルヲ得サル者トス

〔八百十二號〕第伍　航海上ノ危險ヲ避ケテ遺囑書ノ失亡ヲ防ク爲メニ爲ス可キ注意

此處置ハ遺囑構成ノ法式ニ非ス是レ偏ニ遺囑書ヲ保存スル爲メノミニスル者ナリ是ニ由テ假令ヒ此處置ヲ爲サヽル事アルモ其遺囑ヲ適正ナリトスルニ妨ケナシ第千一條ニハ法ノ命シタル法式ニ從テ爲サヽル遺囑ハ之ヲ無効ナラシムトアルモ此條ハ玆ニ適施ス可キ者ニハ有ラサルナリ

遺囑ニハ二通ノ本書ヲ作ラサル可カラス若シ船舶佛蘭西領事ノ在留スル外國ノ港ニ着スル時ハ遺囑書ヲ記載シタル官吏ハ一通ノ本書ヲ閉緘シテ封印ヲ爲シタル上之ヲ領事ニ渡サヽル可カラス領事ハ之ヲ海軍卿ニ送呈シ而シテ又海軍卿ハ其遺囑者住所ノ地ノ治安裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏メシム可キナリ

若シ船舶其艤裝ノ佛蘭西港又ハ其他ノ佛蘭西港ニ着スル時ハ二通ノ遺囑ノ本書ヲ閉緘シ、封印シテ若シ又航海中既ニ其一通ヲ領事ニ渡シタル時ハ他ノ殘ル所ノ一通ヲ閉緘シ、封印シテ之ヲ海軍兵召募ノ官署ニ納メサル可カラス其官署ノ官吏ハ直ニ之ヲ海軍卿ニ送呈シ而シテ海軍卿ハ遺囑者住所ノ地ノ治安裁判官ノ書記局ニ之ニ藏ムル事ヲ命ス可キナリ

何レノ場合ニ於テモ其船舶ノ乘組人姓名簿中、遺囑者ノ姓名ヲ記シタル端ニ領事又ハ海軍兵召募ノ官署ニ遺囑ノ本書ヲ渡シタル旨ヲ附記セサル可カラス

○第四節　外國ニ於テ佛蘭西人ノ爲シタル遺囑

第九百九十九條〔八百十三號〕佛蘭西人ハ外國ニ於テ左ノ式ニ從テ遺囑ヲ爲スヲ得可

シ

第一　自筆ノ式ニ從テ之ヲ爲スヲ得可シ遺囑ヲ爲ス所ノ國ニ於テ此式ニテ遺囑スルヲ許スト許サヽルトニ拘ハル事ナシ

第二　公成證書ニ依テ佛蘭西ノ法式ニ從テ領事館ニ於テ之ヲ爲スヲ得可シ(八百九號參觀)

第三　假令ヒ佛蘭西ニ於テハ用ヒサル式ナリトモ遺囑スル所ノ國ニ於テ用フル者ナレハ此式ニ從テ之ヲ爲スヲ得可キナリ羅馬ニ所謂ル「ロキュス、レジー、アクトム」(場所ハ書面ヲ支配スト云フノ義ナリト云フ)是ナリ

譬ヘハ一佛蘭西人英吉利ニ於テ證人中ノ者又ハ其他ノ者ニ其主意ヲ記載セシメ而シテ後チ四名ノ證人ノ面前ニテ遺囑スル事ヲ想像ス可シ此遺囑ハ佛蘭西國法ニ認定セサリシ所ノ式ニ從テ爲シタル者ナリト雖モ然レトモ適正ナル者ナリトス第九百九十九條ニハ佛蘭

西人ハ外國ニ於テ自筆ノ式ニテ又ハ公正ノ式ニテ遺囑スルヲ得可シトアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ自筆ノ式ニモ非ス又公正ノ式ニモ非サル所ノ式ニテハ遺囑スルヲ許サヽル者ノ如キナリ然レトモ若シ此法文ノミニ拘泥スルニ於テハ、第一、佛蘭西人ハ外國ニ於テハ假令ヒ此國ニ於テ秘密ノ式ニテ遺囑スルヲ許ス時ナリトモ此秘密ノ式ニテハ遺囑スル能ハサルナリト謂ハサル可カラス何トナレハ第九百九十九條ニハ此式ニテ遺囑スル事ヲ記載セサレハナリ、第二、文字ヲ知ラサル佛蘭西人若シ公正ノ式ヲ慣用セサル所ノ國ニ在ルニ於テハ決シテ遺囑ス可キノ手段ナシト謂ハサル可カラサルナリ然レハ第一ノ結果ハ奇怪ノ者ニシテ而シテ又第二ノ結果ハ外國ニ在ル所ノ佛蘭西人ヲシテ容易ニ遺囑スルヲ得セシメント欲スル所ノ法律ノ主意ニ反スル者ナリ

故ニ余ヲ以テ之ヲ見ルニ第九百九十九條ニ於テハ公正ノ語ハ自筆ノ語ニ對シテ之ヲ用ヒタル者ノ如シ法ノ主意ハ左ノ如クナル可キナリ曰ク佛蘭西人ハ外國ニ於テ自筆ノ式ニ據リ又ハ其遺囑スル所ノ國ニ於テ慣用スル他ノ一切ノ式ニ據テ遺囑スルヲ得可シト

第千條〔八百十四號〕外國ニテ遺囑ヲ爲シタル時ハ其遺囑者ノ住所現ニ佛蘭西ニ在ルニ於テハ其住所ノ官署ノ簿冊ニ之ヲ登記シタル後チ若シ又其住所現ニ佛蘭西ニ在ラサルニ於テハ佛蘭西ニテ知レタル其最終住所ノ官署ノ簿冊ニ之ヲ登記シタル後ニ非サレハ佛蘭西ニ在ル動產ニ附キ其遺囑ヲ執行スルヲ得サルナリ又其遺囑書ニ佛蘭西ニ在ル不動產ヲ記載シタル場合ニ於テハ前文記スル所ノ外更ニ其不動產所在ノ地ノ官署ノ簿冊ニ其遺囑書ヲ登記セサル可カラス但シ斯ノ如ク其遺囑書ヲ二箇ノ簿冊ニ登記スルト雖モ二倍ノ稅銀ヲ出スニハ及ハサルナリトス

○第三款、第四款、第五款及ヒ第六款　遺囑物ノ區別

○第一節　遺囑物ノ區別

第千二條〔八百十五號〕遺囑物ニ不特定ノ者アリ不特定名義ノ者アリ又特定名義ノ者アリ

第千三條　第一　不特定ノ遺囑物トハ一切ノ稱ヲ以テ與フル所ノ遺囑物即チ遺囑者死去ノ當日ニ遺ス所ノ財產全部ニ附テ偶然ノ權利ヲ與フル所ノ遺囑物ヲ云フナリ

余茲ニ財產全部ニ附テ偶然ノ權利ト言ヘリ何トナレハ遺囑物ノ文面ニハ假令ヒ不特定ト記スルト雖モ實際遺囑ヲ執行スル時ニ於テハ其與ヘントスル所ノ名稱ニハ常ニ應セサル事アレハナリ實ニ其受遺囑者ト共ニ來ル所ノ他ノ若干ノ相續人又ハ受遺囑者ノ爲メニ

減却セラルヽ事アル可キナリ然レトモ是レ遺囑物ノ性質ヲ斷定ス可キ爲メノ結果ニハ有ラサルナリ此性質ハ遺囑者ノ與ヘントスル所ノ名稱ニ依テ定ム可キ者ナリ若シ其名稱タル遺囑者其死後ニ遺ス所ノ全部ヲ受遺囑者ニ與フ可キ者ナルニ於テハ其遺囑物ハ即チ不特定ノ遺囑物ナリ且ツ假令ヒ受遺囑者ノ意ヲ滿足セシムル能ハサル時即チ遺囑ヲ執行シテ其名稱ニ適合セサル時ナリトモ尙ホ不特定ノ遺囑タル者ナリ

故ニ財產ノ些少ナル部分ヲ得ルニ過キス且ツ更ニ財產ヲ得ル事ナキモ尙ホ不特定ノ受遺囑者ナル可キナリ又遺囑者ノ財產ヲ擧ケテ受遺囑者悉ク之ヲ得ル事アルモ其遺囑ハ特定名義ノ者タル事アリ今此論理ヲ詳悉スルカ爲メニ二三ノ例ヲ揭ケ以テ說明ス可シ

譬ヘハ余甲ニ遺囑スルニ余ノ一切ノ財產ヲ以テス甲ハ果シテ余ノ一切ノ財產ヲ得可キヤ曰ク決シテ然ラサルナリ何トナレハ余存留相續人ヲ遺ス事アレハナリ甲ハ一切ノ財產ヲ得可キノ期望（エスポワル）アルヤ曰ク固ヨリ有ル可キナリ何トナレハ余ノ存留親族ハ余ニ先チテ死去スル事アル可ク又ハ存留親族タル者余ノ死後ニ生存スルモ余ノ相續ヲ拋棄シテ領承セサル事アル可ケレハナリ故ニ余ノ爲シタル遺囑物ニハ一切ノ財產ヲ包括スルノ名稱ト偶然ノ權利トアリ是レ即チ不特定ノ遺囑物ナリ

余甲ニ余ノ一切ノ財產ヲ遺囑ニシ而シテ乙ニハ十萬「フラン」ヲ遺囑ニシタリ余死去スル時ニ於テ余ノ相續物中ニ十萬「フラン」ヲ遺ス乙ハ余ノ死後ニ生存シテ余ノ之ニ爲シタル所ノ遺囑物ヲ領承ス此場合ニ於テハ甲ハ絕テ得ル所ナカル可キナリ若シ是ニ反シテ乙ハ余ニ先チテ死去シタル時又ハ乙ハ余ノ後ニ生存スト雖モ余ノ之ニ與

ヘタル所ノ遺囑物ヲ抛棄スル時ハ甲ハ余ノ一切ノ相續財産ヲ得可キナリ是ニ由テ甲ハ絶テ得ル所ナキ事アル可ク又一切ノ財産ヲ悉ク得ル事アル可シト雖モ其遺囑物ハ常ニ不特定ノ遺囑物ナリ

又余ハ甲ト乙トニ余ノ一切ノ財産ヲ遺囑ニセリ余ハ二箇ノ不特定ノ遺囑物ヲ爲シタルナリ甲乙共ニ不特定ノ名稱ヲ有シ余ノ全相續財産ニ附テ偶然ノ權利ヲ有ス可シ若シ甲乙二人共ニ之ヲ受ルニ於テハ必ス其分派ヲ爲サヽル可カラサルナリ何トナレハ全相續財産ヲ二人ニシテ共有スル能ハサレハナリ甲乙共ニ生存スルニ於テハ其部分ヲ減却セラル可キナリ然リト雖モ若シ其一人遺囑者ニ先チテ死去スル時又ハ遺囑者ノ後ニ生存スト雖モ其受ケタル所ノ遺囑物ヲ抛棄スル時ハ他ノ受遺囑者ハ一人ニシテ不特定ヲ有ス可キナリ何トナレハ不特定ノ名稱ヲ有スル者ニシテ而シテ此場合ニ在テハ其遺囑セラレタル所ノ權利ヲ執行スルニ於テ更ニ妨ケナケレハナリ

〔八百十六號〕 余ハ甲ト乙トニ各半部ノ割合ニテ余ノ一切ノ財産ヲ遺囑ト爲セリ此場合ト上文ノ場合トヲ混ス可カラス

余若シ甲ト乙トニ余ノ一切ノ財産ヲ遺囑スル時ハ是レ余ハ二箇ノ不特定ノ遺囑物ヲ爲シタルナリ何トナレハ各受遺囑者ニハ一切ノ相續財産ヲ有ス可キノ期望アリ二人ノ受遺囑者中ノ一人ノミ來ル時ハ其名稱ノ如ク實行セラルレハナリ若シ余ノ財産ノ半部ヲ甲ニ遺囑シ其半部ヲ乙ニ遺囑スル時ハ是ニ異ナリ此場合ニ於テハ余ハ二箇ノ不特定名義ノ遺囑ヲ爲シタルナリ何トナレハ各受遺囑者ハ余ノ財産ノ半部ニ制限セラレ、節減セラレタル權利ニ非サレハ收受セサルカ故ナリ此受遺囑者ハ如何ナル場合ナリトモ其遺囑セラレタ

ル所ノ者即チ余ノ財産ノ半部ニ非サレハ常ニ有スルヲ得サル者ナリ他ノ半部ニ附テハ之ヲ受ク可キノ名稱ナシ是レ他ノ受遺囑者又其在ラサル時ハ余ノ無遺囑相續人ノ取ル可キ者ナリ

〔八百十七號〕余若シ汝ニ余ノ財産不定特ニ遺囑スル時ハ余ノ汝ニ爲スノ所ノ遺囑ニハ制限ナキ者ニシテ余ノ遺囑スル時ニ余ノ家財中ニ在ル所ノ財産ノ性質ニ拘ハラス皆ナ之ヲ包含ス可キナリ其財産ハ各箇ニ定リタル者ニ非スシテ一箇ノ各部タル可ク而シテ余ノ遺囑作成ノ時ニ於ケル財産全部ニ非スシテ余ノ死去ノ時ニ余ノ遺ス所ノ財産全部ナリ是ニ由テ余ノ家産ノ變換ニ拘ハル事ナシ後ニ余ノ得タル所ノ財産ハ余ノ家産ノ增加シ、減却スルニ拘ハラス遺囑ノ眼目ハ變スル事ナシドマント氏曰ク不特定ハ理由ノ名稱ニシテ之ヲ組立ツル所ノ財産ニ依テ變スル事ナシ假令ヒ財産ハ全ク改マル事アルモ是ニ由テ不特定ノ名稱ハ更ニ換ラサルナリ不特定ハ新財産ノ爰ニ添附シ又ハ若干ノ財産ノ離去スルニ依テ或ハ增加スル事アル可ク或ハ減却スル事モアル可キナリト

〔八百十八號〕余ノ遺囑ヲ爲ス時刻ニ余ノ有スル所ノ一切ノ財産ヲ余ノ遺囑スル時又ハ各個ニ指定シタル物件ヲ余ノ遺囑スル時ハ假令ヒ其財産又ハ物件中ニ余ノ現ニ所持スル所ノ物ヲ悉ク皆ナ包括スルモ其遺囑ハ特定ノ遺囑ナリ譬ヘハ余ノ家財ヲ擧ケテ僅ニ一箇ノ園庭、一箇ノ家屋、二三ノ家什ニ過キサランニ余今汝ニ余ノ園庭、余ノ家屋幷ニ之ニ存在スル所ノ一切ノ家什ヲ遺囑トセン此遺囑ハ特定ノ遺囑ナリ何トナレハ余ノ死去ノ時ニ遺ス可キ財産全部ノ名稱ナケレハナリ且ツ死去前ニ於テ余新ニ財産ヲ得ル事アルモ余ノ汝ニ遺囑シタル所ノ者ニ非サレハ汝ハ決シテ之ヲ得ル能ハサルナリ又

余ノ家屋ヲ賣却シ又ハ之ヲ他ノ家屋ト更換スル時ハ余ノ汝ニ遺囑シタル所ノ家屋ハ汝之ヲ得ル能ハサルナリ何トナレハ之ヲ他ニ讓渡シタルカ故ニ此家屋ニ附テハ余ハ汝ニ爲シタル所ノ遺囑ヲ暗ニ取消シタレハナリ(第千三十八條)又汝ニ余ノ遺囑シタル所ノ家產ト更換シテ得タル所ノ代金又ハ他ノ家屋モ亦汝ハ之ヲ得ル能ハサルナリ何トナレハ此代金、此新家屋ハ汝ニ爲シタル遺囑中ニ在ラサル者ナレハナリ

第千十條(八百十九號) 第貳 不特定名義ノ遺囑物(書式百十二號參觀)

民法ニハ此遺囑物ノ解義ナクシテ唯此遺囑物ヲ爲ス所ノ場合ヲ記列セシノミナリ第千十條ノ法文ニ據ルニ遺囑物ヲ不特定名義ノ者トスルノ場合左ノ如シ

半部又ハ三分一ノ如キ法ニテ處置スルヲ許ス所ノ財產ノ部分ヲ遺囑スル時

己レノ一切ノ不動產ヲ遺囑スル時

己レノ一切ノ動產ヲ遺囑スル時

己レノ一切ノ不動產ノ一部分ヲ遺囑スル時

己レノ一切ノ動產ノ一部分ヲ遺囑スル時

又茲ニ第六ノ場合ヲ附記ス可キナリ己レノ死去スル時ニ己レノ遺所ノ一切ノ財產ノ半部、三分一ノ如キ或ル部分ヲ遺囑スル時是ナリ此遺囑物ハ不定特ノ遺囑物ニアラス何トナレハ其名稱トスル所ノ財產全部中ノ一部分ニ過キサレハナリ又特定ノ遺囑物ニモアラサルナリ何トナレハ法ニテ處置スルヲ許ス所ノ財產ノ一部分ノ遺囑ニテモ不特定名義ノ遺囑物ナリトス況ヤ又己レノ一切ノ財產ノ一部分ノ遺囑ナレハ之ヲ不特定名義ノ遺囑物トセサルヲ得サレハ

ナリ

〔八百二十號〕第參　特定ノ遺囑物トハ不特定ノ遺囑物ニモアラス又不特定名義ノ遺囑物ニモアラサル者ヲ云フ

故ニ一切ノ財産ヲ與フ可キノ名稱ナリ又不特定名義ノ遺囑物ノ六箇ノ場合中ニモ入ラサル遺囑物ハ總テ皆ナ特定ノ遺囑物ナリトス」

故ニ譬ヘハ一萬「フラン」ト云フカ如キ極定シタル金額又ハ余ノ何號ノ家屋又ハ某ノ地ニ在ル余ノ牧場ノ如キ各箇ニ極定シタル財産ヲ以テ遺囑トスル時ノミナラス又譬ヘハ余ノ現ニ有スル一切ノ家屋又一切ノ不動産或ハ某ノ州ニ遺留ス可キ一切ノ家屋又ハ不動産又ハ余ノ家屋内ニ現存スル一切ノ動産ト云フカ如キ財産中ニテ極定シタル合部ヲ以テ遺囑トスル時モ亦其遺囑物ヲ特定ノ遺囑物ナリトス此諸種ノ場合ニ於テハ何レモ皆ナ其遺囑物ハ特定ノ者ナリ何

トナレハ不特定ノ名稱ナク不特定名義ノ六箇ノ場中ニモ入ル事ナケレハナリ

〔八百二十一號〕一般ノ通論ニテハ一切ノ財産ノ虚有權ヲ遺囑トスル時ハ其遺囑物ヲ不特定ノ者ナリト決定セリ直接ニ遺囑物中ニ包含セサル所ノ入額所得權ハ遺囑ニナリタル不特定ニ附着シタル土地ノ義務即チ虚有權ノ受遺囑者ノ負フタル一義務ニ過キサル者ナリ若シ財産ニ附着スル所ノ義務絶止スルニ至ル時ハ其利ヲ得ル者ハ即チ此義務ヲ負フタル財産ノ所有者タル可キナリ故ニ一切ノ財産ノ虚有權ノ遺囑ハ偶然此財産全部ヲ包含スルナリ

〔八百二十二號〕一切ノ財産ノ入額所得權ノ遺囑物ハ特定ノ者ナリ是レ不特定遺囑物ニアラス何トナレハ不特定ノ名稱ナキ者ナレハナリ又不特定名義ノ遺囑物ニモ非サルナリ何トナレハ不特定名義ノ遺

囑物ノ六個ノ場合ニ入ラサル者ナレハナリ法ニ於テハ死去ノ一切ノ財産上ニ入額所得權ヲ有スル者ヲ稱シテ不特定ノ入額所得者ト云ヘリ(第六百十二條)然リト雖モ法ニ此語ヲ用ヒタルノ主意ハ財産ノ合部上ニ權ヲ有スル入額所得者ニ對シテ確定物即チ各箇ニ極定シタル物件ノ入額所得者ヲ指示スカ爲メニ之ヲ用ヒタルニ過キサルナリ(第一帙千六百四號以下參觀)

〔八百二十三號〕 玆ニ論定スヘキ一問題アリ譬ヘハ余ノ處置スルヲ得可キ一切ノ財産ヲ甲ニ遺囑スヌ又ハ余ノ財産中ノ處置スルヲ得可キ分量ヲ甲ニ遺囑スト云フノ語ヲ載セタル遺囑ハ之ヲ不特定遺囑ト看做スヘキヤ將タ不特定名義ノ遺囑ト看做スヘキヤ、一見セシ所ニテハ此遺囑ハ不特定遺囑ナルカ如シ實ニ左ノ說ヲ爲スヲ得可キナリ曰ク若シ遺囑者絕テ其存留相續人ヲ遺サスシテ死去スルニ於テハ所謂ル處置スルヲ得可キ分量中ニハ其財産全額ヲ包含スヘキナリ故ニ處置スルヲ得可キ分量ノ遺囑ハ一切ノ財産ニ附テ偶然ノ權ヲ與フル者ナリ故ニ其遺囑ハ不特定遺囑ナリト然リト雖モ遺囑者其存留相續人ヲ遺サヽルヘキ場合ニ於テハ其一切ノ財産ヲ遺囑スルノ主意ナリシ事ヲ證明シタル上ニ非サレハ此論說ハ適當スルヲ得サルナリ實ニ遺囑者ニハ此ノ如キノ主意ナキ事アル可キナリ何トナレハ遺囑者ノ主意ニテハ處置スルヲ得可キ分量ノ語ハ恐クハ部分ノ語ト同義ニ用ヒシモ知ル可カラサレハナリ故ニ譬ヘハ三人ノ子ヲ有スル所ノ父其處置スルヲ得可キ部分ヲ遺セ囑ソコ恐ラクハ是レ其財産ノ四分ノ一ヲ遺囑スルノ意ナル可キナリ

故ニ此問題ハ實際ニ附キ景況ニ從テ斷定セサル可カラサル者ナリ是レ純粹ニ遺囑者ノ旨趣ノ解釋ニ關スル問題ナリ故ニ遺囑者其遺

囑ヲ爲シタル時ニ三人ノ子又ハ其以上ノ子ヲ遺シ而シテ他ニ別段ノ推測ヲ爲ス可キノ情實ナキニ於テハ處置スルヲ得可キ分量ヲ遺囑トセシ所ノ遺囑者ノ主意ハ其財產ノ四分ノ一ヲ與ヘントスルニ過キサル者ナリト推測ス可キハ是レ自然ノ事ナリ若シ然ラストスルニ於テハ遺囑者ハ其子ノ先ツ死去セン事ヲ豫察セシ者ナリト言ハサル可カラス然リ而シテ遺囑者ノ旨趣タル此ノ如ク非常ナル事ヲ豫察セシ者ナリトハ測度スル能ハサルナリ

○第二節　遺囑ノ性質

第千二條〔八百二十四號〕凡ソ遺囑ノ處置ハ「相續人設置ノ名義ニテ爲シ又ハ遺囑ノ名義ニテ爲シタルニ拘ハラス不特定ノ遺囑物、不特定名義ノ遺囑物又ハ特定ノ遺囑物ニ附キ法ノ定メタル規則ニ循ヒ其効ヲ生ス可シ」ト

羅馬法並ニ成文法アル佛蘭西國內ノ地ニ於テハ遺囑ヲ區別シテ二種トナシタリ曰ク相續人設置（アンスチチユシヨンデリチエ）曰ク遺囑物（レグ）是ナリ設置シタル相續人ハ正當相續人ノ如ク死者ニ代リシ者ニシテ唯〻其財產ニ相續シタルノミナラス又其身ニモ相續セシ者ナリ死者ニ代リ（レプレゼンテ）理スルカ故ニ死者ノ權利ト義務トニ相續ス可ク又死者ノ身ヲ繼續（コンチニユエ）スルカ故ニ唯〻其財產ヲ以テ死者ノ義務ヲ辨濟スルノミナラス其財產外ニ及フ者ト雖モ際限ナク之ヲ辨濟セサル可カラサリシナリ○又財產掌握ノ權ハ相續人ニ屬スル者ナリ故ニ相續人ハ遺囑者ノ親族ニ對シテ相續物引渡ノ願ヲ爲スニ及ハサリシナリ法ニ於テ相續人ニ許シテ相續財產ヲ占有セシメタリ但シ相續人ハ裁判官ニ請フテ其遺囑書ノ審查ヲ受ケサル可カラストセリ

相續人ノ設置即チ遺囑者其死後ニ代理セシメント欲スル所ノ人ヲ

指定スル事ハ遺囑ヲ適正ナラシムルニ附キ本然ノ要件ナリシナリ故ニ相續人ノ設置ナキニ於テハ決シテ遺囑ハ適正タルヲ得サリシナリ唯遺囑物ノミヲ記載シタル遺囑ハ遺囑トシテハ全ク成立セサル者トナセリ

其受遺囑者ハ遺囑者ニ代理スル事ナシ死者ノ財產ニ附テハ相續人ナリト雖モ其身ニ附テハ相續人タルニ非サルカ故ニ受遺囑者ハ其受ケタル所ノ財產ノ限外ニ出テヽハ死者ノ義務ヲ辨濟スルニ及ハサリシナリ○受遺囑者ハ財產掌握ノ權ヲ有ス故ニ受遺囑者ハ死者ニ代ル者ニ對シテ其遺囑物引渡ノ願ヲ爲サヽルヲ得サリシナリ

〔八百二十五號〕佛蘭西國中ニ於テ舊慣ニ依ルノ地ニ在テハ之ニ反シテ遺囑ヲ以テ相續人ヲ立ツルヲ許サス即チ遺囑者ノ身ニ代テ其相續ヲ爲ス者ヲ設ルヲ許サヽルヲ以テ要領トナシタリ其說ニ曰ク凡ソ人ノ相續人ヲ立ルヲ得ル者ハ獨リ上帝ノミニシテ人爲ヲ以テスルヲ得可キ事ニ非サルナリト

一地方ノ慣習ニテハ相續人ヲ設置スル時ハ其遺囑書ヲ無効ノ者トシ而シテ又其記載スル所ノ遺囑物ヲモ併セテ無効ノ者トナシタリ」又一地方ノ慣習ハ稍〻寬ニシテ若シ遺囑者相續人ヲ設置スル時ハ其遺囑ヲ無効ノ者トセスシテ之ヲ存立セシメシト雖モ然レトモ其遺囑ハ不特定ノ遺囑ニ過キサル者トセリ、設置セラレタル者ハ相續人タルニ非スシテ尋常ノ受遺囑者ナリ即チ遺囑者ノ財產ニ相續スルノミニシテ財產掌握ノ權ヲ有セス而シテ其受ケタル財產ノ外ハ遺囑者ノ義務ヲ辨濟スルニ及ハストセリ

〔八百二十六號〕此諸方法ハ何レモ民法ニハ採用セサリシ者ナリ第九百六十七條及ヒ第千二條ハ則チ之ニ干涉スルノ條規ニシテ而シテ

左ノ二箇ノ規則ヲ定メタリ即チ

第一　遺囑者其旨趣ヲ表出スル所ノ名義ノ如何ナルニ拘ハラス其趣旨ハ必ス之ヲ執行セサル可カラス

第二　遺囑者其遺囑書ニ掲ルニ相續人設置ノ語ヲ以テスルモ亦之ヲ遺囑物ナリト稱スルモ總テ之ニ拘ハラス其遺囑書ノ効ハ常ニ同一ナリト○是ニ由テ相續人設置幷ニ遺囑物ハ其性質ヲ同フスル二箇ノ條件ニシテ同一ノ規則ニ循ヒ同一ノ効ヲ生スル者ナリ然レハ其効ハ如何ナルヤ受遺囑者ハ遺囑者ノ身ニ相續スル者ナルヤ其代理ヲ爲スヤ將タ單ニ財産ニ相續スルニ過キサル者ナルヤ之ヲ概言スルニ民法ハ何レノ方法ヲ採用シタルヤ成文法アル地方ノ方法ヲ用ヒシヤ將タ慣習法ノ方法ヲ用ヒシヤ

此事項ニ附テハ民法ニハ明瞭ノ説明ナキカ故ニ全ク世人ノ疑ヲ解ク

ヲ得サルナリ

不特定名義ノ遺囑物ニ附テハ世論皆ナ同一ニシテ不特定名義ノ受遺囑者ハ單ニ財産ニ相續スルニ過キサル者ナリトセリ凡ソ死者ノ身ニ相續シテ之ニ代ル所ノ相續人ハ其得可キ財産ニ附テハ滿盈、完全ナル掌握權ヲ有ス可シ然ルニ民法ニ於テハ不特定名義ノ受遺囑者ニ許スニ此掌握ノ權ヲ以テセシ塲合ナシ是ニ由テ不特定名義ノ受遺囑者ハ死者ニ代ル者ニ非ス又掌握ノ權ヲ有スル者ニ非ス單ニ財産ノ相續人ニ過キサル者ナルカ故ニ其得タル所ノ財産ノ限内ニ非サレハ死去ノ義務ヲ辨濟スルニ及ハサルナリ

〔附言〕有名ナル法官ミシアス、ガエヤル氏ハ一大論説ヲ著シ以テ反對ノ説ヲ唱ヘタリ具ニ其著書「レビュ、クリチック、ド、ゼュリスプリュダンス」ニ之ヲ載セタリ(千八百五十二年六月出版第二帙)

不特定受遺囑者ニ附テハ若シ遺囑者其存留親族ヲ遺サヽリシニ於テハ民法ニテ此受遺囑者ニ許スニ掌握ノ權ヲ以テセリ是ニ反スル場合ニ於テハ掌握ノ權ハ存留相續人ニ屬スヽ可キナリ(第千四條ヨリ第千六條マテ)

掌握ノ權ヲ有セサル不特定受遺囑者ハ死者ニ代ル者ニ非ス單ニ財產ノミニ相續スル者ニシテ其受ケタル所ノ財產ノ外ハ死者ノ義務ヲ辨濟スルニ及ハサルナリ

〔附言〕然レトモ若シ此受遺囑者掌握ノ權ヲ有スル時即チ存留相續人ト共ニ相續セサル時モ亦此ノ如クナル可キヤ將タ是ニ反シテ眞ニ死者ノ身ニ代ル者トス可キヤ曰ク此問題ニ附テハ甚タ異論アリ未タ一定セス即チ左ニ之ヲ揭ク可シ

〔八百二十七號〕第一說○不特定受遺囑者ハ存留相續人ト共ニ相續セスト雖モ死者ニ代ル者ナリ何トナレハ果シテ法意ヲ此ノ如クナラストセハ掌握ノ權ハ死者ノ身ニ相續スル者ニ非サレハ之ヲ有セサルニ依リ法ニテ此受遺囑者ニ許スニ此權ヲ以テセサリシナル可ケレハナリ抑民法ハ成文法ノ要領ト慣習法ノ要領トヲ調和セシメント欲シタル者ナリ若シ不特定受遺囑者、存留相續人ト共ニ相續スルニ於テハ掌握ノ權ヲ有セサル可ク而シテ財產ノ相續人タルニ過キサルカ故ニ其受ケタル所ノ財產ノ外ハ義務ヲ辨濟スルニ及ハサル可キナリ若シ又存留相續人ト共ニ相續セスシテ一人ノミニテ相續ヲ受ル時ハ其相續物ニ附キ無論掌握ノ權ヲ有ス可ク而シテ死者ノ身ニ代ル者ナルカ故ニ其受ケタル財產ノ多寡ニ拘ハラス義務ヲ辨濟ス可キナリ

〔八百二十八號〕第二說○不特定受遺囑者ハ決シテ死者ニ代ル者ニ

非サルナリボナエー氏曰ク相續人設置ハ慣習法ニ於テハ許サヽルル事ナリ「然リト雖モ若シ遺囑者ノ相續人ヲ設置スル事アルニ於テハ此條件ハ無効ニハアラサル可ク而シテ不特定遺囑ノ名義ニテ之ヲ存立セシム可キナリ」ト是レ即チ民法ニ掲ケタル所ノ説ナリ且ツ第千二條ノ法文ニ據ルモ遺囑ノ諸條件ハ相續人設置ノ名義ニテ之ヲ記スルモ亦遺囑ノ名義ニテ之ヲ記スルモ之ニ拘ハラス一遺囑ノ効ヲ有ス可キ事ハ判然タリ且ツ「トリビュナ」ニ於テ解シタル旨趣モ亦全ク此ノ如クナリ其言ニ曰ク「相續人設置ハ既ニ大ニ慣習トナリタル事ナルニ依リ相續人設置ノ名義ヲ全ク存立セシメ而シテ又羅馬法ニ於テ相續人ノ名目ニ附着セシメタル所ノ一切ノ効ハ悉ク皆ナ消除セラレタル事ヲ明言セサル可カラサルナリ」ト是ニ由テ法ニ存在スル所ノ者ハ是レ相續人ト云フノ名稱ナリ獨リ殘リタル者ハ此

語ノミナリファワル氏モ立法議會ノ演説ニ之ヲ明言セリ

存留相續人ト共ニ相續セサル所ノ不特定受遺囑者ニ掌握ノ權ヲ民法ノ許シタルハ固ヨリ相續ナキ事ナリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ民法ハ慣習法ニ依ラサル者ナリ然リト雖モ此受遺囑者ハ掌握ノ權ヲ有シ而シテ其遺囑物ヲ遺囑者ノ親族ニ要求スルニ及ホサスト雖モ是ニ由テ此遺囑者ハ即チ死者ニ代テ其身ニ相續スル者ナリトハ云フヲ得サルナリ實ニ掌握ノ權ト受遺囑者ノ死者ニ代ル事トノ間ニハ必シモ關係スル所アルニ非サルナリ凡ソ死者ニ代ル者ハ皆ナ掌握ノ權ヲ有スト雖モ掌握ノ權ヲ有スル者ハ皆ナ死者ニ代ルニハ有ラサルナリ是レ決シテ法文ニナキ事ナリ故ニ掌握ノ權ヲ有スル者ニシテ而シテ相續人ニ非サル事之レ有ル可キナリ即チ第千二十六條ノ法文ニ遺囑執行人ハ遺囑財産ヲ得ル者ニハ有ラスト雖モ若干ノ財

エクセキユツール、テスタマンテル

産ニ附テハ掌握ノ權ヲ有スルヲ得可シトアル是ナリ

此說ニ依ル時ハ不特定受遺囑者ハ其受ケタル財産ノ外ハ義務ヲ辨濟スルニ及ハサルナリ

〔附言〕又第三ノ說ニテハ不特定受遺囑者ハ目錄ノ便宜ニ依テ之ヲ領承セサルニ於テハ常ニ區別ナク其受ケタル所ノ財産ノ高外ニ於テモ必ス義務ヲ辨濟セサル可カラストセリ

○第三節　各種ノ受遺囑者ノ得ル所ノ權利幷ニ其有スル所ノ訴權

第千十四條〔八百二十九號〕第壹　受遺囑者ノ得ル所ノ權利幷ニ之ヨリ生スル所ノ訴權

不特定受遺囑者ハ無遺囑相續人ノ如ク死者ノ遺シタル諸財産各個ノ所有權ヲ得ル者ナリ此受遺囑者一人ニシテ相續スル時ハ其所有權ハ純粹ニシテ更ニ他ニ干涉スル所ナキ者ナリ又他ノ存留相續人ト共ニ相續スル時ハ其所有權ハ分離セラルヽ者ナリ遺囑相續モ亦無遺囑相續ノ如ク實ニ財産ノ所有權ヲ得ル一方法ナリ〔第七百十一條〕

不特定受遺囑者ハ無遺囑相續人ト共ニ相續スル時ハ其所有權ハ分離セラルヽ者ナリ遺囑相續モ亦無遺囑相續ノ如ク實ニ財産ノ所有權ヲ得ル一方法ナリ〔第七百十一條〕

不特定受遺囑者ハ無遺囑相續人ト共ニ相續スル時ハ其所有權ハ純粹ニシテ更ニ他ニ干涉スル所ナキ者ナリ又他ノ存留相續人ト共ニ相續スル時ハ其所有權ハ分離セラルヽ者ナリ遺囑相續モ亦無遺囑相續ノ如ク實ニ財産ノ所有權ヲ得ル一方法ナリ〔第七百十一條〕

不特定受遺囑者ハ無遺囑相續人ト共ニ相續スル時ハ其所有權ハ純粹ニシテ他ニ關係スル所ナキ所有權ヲ得ル事アル可シ又時トシテハ分離セサルノ所有權ヲ得ル事アル可キナリ若シ人ノ此受遺囑者ニ一切ノ不動産又ハ一切ノ動産ヲ以テスル時ハ其所有權ハ純粹ノ者ナル可シ若シ又一切ノ

財産或ハ一切ノ不動産或ハ一切ノ動産ノ一部分ヲ以テ遺囑トスル時ハ其所有權ハ分離セサル者ナリ○不特定受遺囑者ノ有スル所ノ訴權ハ不特定名義ノ受遺囑者モ亦其受ケタル所ノ財産ノ限界内ニ於テハ之ヲ有ス可キナリ

〔八百三十號〕特定ノ受遺囑者ハ第千十四條ノ法文ニ據テ「遺囑セラレタル者ニ附キ一權利」ヲ得可シ

此權利ノ性質ハ如何ナル者ナルヤ遺囑セラレタル物件上ノ一權利即チ一所有ノ權ナルヤ將タ之ニ反シテ遺囑セラレタル者ニ附テノ單一ナル權利即チ一人權ニ過キサル者ナルヤ○第千十四條ノ法文ノミニ據ル時ハ所謂ル所得權利トハ遺囑セラレタル者ニ附テ單一ナル權利即チ一人權ナリト言ハサルヲ得サルナリ然リト雖モ若シ此ノ如クニ斷定シ去ルニ於テハ是レ一ハ佛國ノ古法ヲ認定セサルナリ何トナレハポチエー氏ノ言ニ遺囑セラレタル者ノ所有權ハ相續開始ノ日以後ハ遺囑者ヨリ受遺囑者ニ移轉ス可シト有レハナリ又一ハ民法ヲモ認定セサルナリ何トナレハ民法ニ於テモ所有權ヲ得ル方法中ニ遺囑ヲ列スレハナリ(第七百十一條)

故ニ受遺囑者ハ遺囑セラレタル物ノ上ニ所有權ヲ有ス可キナリ然リト雖モ常ニ此ノ如クナルニハ有ラサルナリ所有權ハ素ト各箇ニ指定セラレタル物ノ上ニ非サレハ成立セサル者ナルカ故ニ(種類ハ各箇ニ指定セラル可キ物ニ非ス)確定物即チ遺囑者ニ屬スル所ノ物ニシテ各箇ニ指定シタル物ヲ以テ遺囑トセシ時ニ非サレハ直ニ遺囑ノミニテハ所有權ヲ移轉ス可キニ非ス所謂ル確定物トハ遺囑者ノ有スル甲號ノ家屋、某ノ地ニアル遺囑者ノ牧場、遺囑者ノ白馬又ハ其納屋ニ在ル所ノ麥何石ト云フノ類ナリ、種類ノミノ定リアル物ヲ遺囑

物トスル時(千九十七號ヨリ千九十八號マテ參觀)譬ヘハ各箇ニ指定セスシテ一匹ノ馬、某ノ州ニ在ル所ノ何町ノ地面又ハ麥何石ト云フカ如キ物ヲ以テ遺囑トスル時ハ其受遺囑者ハ唯一人權ヲ得ルニ過キサルナリ此場合ニ於テハ遺囑者ノ死後ニ於テ更ニ一新事件アルニ非サレハ所有權ヲ移轉スルヲ得サルナリ所謂ル新事件トハ遺囑物ノ義務者ヨリ遺囑物ヲ引渡ス事是ナリ(八號及千百二十六號參觀)確定物ヲ以テ遺囑トナシタル場合ニ於テハ受遺囑者ハ遺囑者ノ代權人ナリ何トナレハ遺囑物ノ所有權ハ直ニ受遺囑者ニ屬スレハナリ種類ノミノ定リタル物ヲ以テ遺囑ト爲シタル場合ニ於テハ受遺囑者ハ遺囑物ノ義務者ノ代權人ナリ何トナレハ受遺囑者ハ此義務者ノ遺囑ヲ執行スルニ依テ始テ遺囑物ノ所有權ヲ得レハナリ

第千十四條及第千十七條

〔八百三十一號〕 特定ノ受遺囑者ハ其遺囑セラレタル所ノ者ヲ得ル爲メニ有スル三箇ノ訴權アリ左ノ如シ

第一 遺囑者所有權ヲ有スル所ノ確定物ヲ以テ遺囑トナシタル時ハ取戻ノ訴權

第二 遺囑物ハ唯一其種類ノミニテ定マリタル時ハ人ニ係ルノ訴權

第三 總テノ場合ニ於テ相續一切ノ不動產ニ附キ書入ノ訴權

取戻ノ訴權ヲ生スルノ原因ハ所謂ル所有權ハ遺囑ノ贈與ノ効ニ依テ得ル者ナリト云フノ要領中ニ在ルナリ(第七百十一條)

人ニ係ルノ訴權ヲ生スルノ原因ハ相續人又ハ不特定相續人ノ相續ヲ領承スルニ依テ生スル所ノ準契約中ニ在ルナリ凡ソ相續ヲ領承スル者ハ財產ノ全部ニ附着スル所ノ義務ヲ辨濟スル事ヲ一身ニ擔當セサル可カラサルナリ

〔八百三十二號〕 書入ノ訴權ニ附テハ其要領ハ直ニ法律中ニ在リ即チ

受遺囑者ノ得ル所ノ書入ハ眞ノ法律上ノ書入ナリト

此書入ハ受遺囑者ニ與フルニ三箇ノ保證ヲ以テスル者ナリ即チ左ノ如シ

第一　先取ノ權即チ遺囑物ノ義務者タル者ノ自己ノ權利者ニ先立テ書入不動產、賣却ノ代價ヲ以テ辨濟セラルヽノ權是ナリ(第二千百三十四條)

第二　追隨ノ權即チ不動產ノ有ル所ニ之ヲ追隨シテ此不動產ヲ得タル外人ニ迫テ若シ其之ヲ委棄スルヲ欲セサルニ於テハ其代價ヲ辨償セシムルノ權是ナリ(第二千百十四條及第二千百六十六條以下)

第三　遺囑物ノ義務者中ニテ其部分中ニ相續不動產ヲ有スル者ニ對シ全部ニ附テ要求スルノ權(第千十七條)

此全部ニ附テ要求スルノ權ハ要領ヨリシテ必シモ正シク生ス可キノ効ニハ有ラサル可シ正理ニ依テ之ヲ論スルニ於テハ蓋シ辯明スルヲ得サル可キナリ

第二千百十四條ノ法文ニ於テ書入ハ分割ス可カラサル者ナリ此書入ノ權ヲ有スル所ノ權利者ハ假令ヒ義務ハ其義務者ノ死去ニ依テ分割セラルヽモ已レノ有スル所ノ者ハ都テ皆ナ義務者ノ相續人中ニ於テ其部分中ニ書入不動產ノ一部分ナルモ之ヲ有スル者アル時ハ之ニ對シテ之ヲ要求スルヲ得可キナリ譬ヘハ九千「フラン」ノ書入、人權アリ而シテ之ヲ平分シテ有スル三名ノ相續人アランニ人ニ係ルノ訴ニ依ル時ハ其權利者ハ各相續人ニ對シテハ其一身ニ擔當スル所ノ部分即チ三千「フラン」ニ非サレハ要求スルヲ得サルナリ若シ之ニ反シテ權利者書入ノ訴權ニ依ル時ハ書入不動產ヲ所持スル所ノ相續人中ノ者ニ對シテ義務ノ全部即チ九千「フラン」ヲ要求スルヲ

得可キナリ

書入ハ分割ス可カラスト云フノ此理論ヲ受遺囑者ノ書入ニ適用シタルハ甚タ其當ヲ得サル者ナリ譬ヘハ九千「フラン」ノ遺囑物アリ而シテ平等ノ部分ヲ有スル三名ノ相續人アランニ受遺囑者ハ唯一箇ノミノ人權即チ一箇ニ九千「フラン」ナル人權ヲ得可キヤ曰ク決シテ得サル可キナリ何トナレハ遺囑物ヲ辨濟スルノ義務ハ增加シテ生スレハナリ各相續人ハ三千「フラン」ニ非サレハ其一身ニ之ヲ擔當セサレハナリ故ニ受遺囑者ハ三箇ノ異ナル人權即チ各權三千「フラン」ノ人權三箇ヲ得ルナリ是ニ由テ左ノ如ク言フ可キナリ曰ク受遺囑者ハ三箇ノ書入ヲ有ス何トナレハ受遺囑者ハ三箇ノ人權ヲ有シ而シテ其各人權ニ附キ一書入ヲ有スレハナリト此説ニ依ル時ハ受遺囑者ハ相續不動產ヲ占有スル各相續人ニ對シテ三千「フラン」ノ書入

訴權ヲ有ス可キナリ

然リト雖モ此説ハ民法編集官ノ採用シタル所ノ者ニハ非サルナリ編集官ノ受遺囑者ニ許ス所ノ書入ノ訴權ハ相續不動產ヲ占有スル各相續人ニ對シ而シテ其一身ノ義務ノ分量ニ拘ハラスシテ其同シ相續人ノ義務即チ全部ニ附テ行フヲ許シタル者ナリ編集官ハ人ニ係ル訴權ニ基キタル書入訴權ヲ各相續人ニ對シテ有スルヲ許ス事ニハ注意セサリシナリ既ニ成立シタル書入ヲ細分スル事ハ是レ書入ヲ分割ス可カラサルノ要領ヲ犯スニ非スシテ是レ數箇ノ相干渉セサル主タル書入ヲ認定スルナリ蓋シ編集官ハ「ギュスチニヤン」帝ノ「インスチチュト」ヲ摸寫セシト思ヒシナリ此「インスチチュト」ニ云フ「アリ曰ク遺囑物ノ義務ハ其書入ニ附テ擔當ス可シト(「インスチチュト」第二節遺囑物ノ所ニ見ユ)然レトモ「ギュスチニヤン」帝ハ其義務者ハ其全部ニ

附テハ擔當ス可シトハ謂ハスシテ而シテ其憲法ニ讓テ一箇ノ規則ヲ設ケタリ此憲法ニハ書入ノ訴權ハ人ニ係ル訴權ノ限内ニ非サレハ各相續人ニ對シテ之ヲ行フ可カラスト明言シタリ是レ全ク民法トハ反對ノ事ナリ

故ニ此事項ニ附テハ民法ノ理論ハ書入ヲ分割ス可カラスト云フノ要領ヲ誤用シタル者ニシテ是レ實ニ立法上ノ一錯誤ナリ

〔附言〕オーブリー氏及ヒローー氏ノ説ニテハ受遺囑者ハ相續不動産上ニ書入ノ權ヲ有セストセリ是ニ由テ受遺囑者ハ此不動産ヲ占有スル外人ニ對シテ之ヲ追隨スルヲ得ス又相續人ノ此不動産ノ全部或ハ一部ヲ占有スル時ハ遺囑ノ辨濟ニ附キ相續人ノ一身ニ擔當スル所ノ部分外ニ於テハ此相續人ヲ訴フルヲ得サルナリ

第千十四條〔八百三十三號〕第貳　遺囑物ノ所得其要求及ヒ其移轉

尋常簡單ニ遺囑物ニ附テハ其受遺囑者ハ遺囑者死去ノ時刻ヨリ其權ヲ得可ク而シテ其遺囑物ヲ得ル時ヨリ以後ハ即チ之ヲ要求スルヲ得可キナリ故ニ受遺囑者ハ相續開始ノ當日ヨリ遺囑物引渡ノ願ヲ爲スヲ得可キナリトス○又此時刻ヨリシテ其遺囑物ヲ移轉スルヲ得可キナリ若シ遺囑者ニ先チテ受遺囑者ノ死去スル時ハ其遺囑物ハ無効ニ屬ス可シ(第千三十九條)何トナレハ遺囑物ハ人ノ身ニ係ル者ナルカ故ニ受遺囑者ノ身ニ附テニ非サレハ生スル者ニ非サレハナリ然リト雖モ受遺囑者一回遺囑物ヲ得タルニ於テハ假令ヒ其遺囑者ニ後レテ死去スル事僅ニ一瞬時間ナルモ受遺囑者ハ總テ他ノ諸權利ノ如ク之ヲ其相續人ニ移轉スルヲ得可キナリ

故ニ尋常簡單ノ遺囑物ハ遺囑者死去ノ時刻ヨリ開始スル者ナリ故ニ此時ヨリハ之ヲ要求スルヲ得可ク又之ヲ移轉スルヲ得可キナリ」

未必條件ノ遺囑物ハ遺囑者死去ノ時刻ニ於テセスシテ未必條件ノ成就スル所ノ時刻ニ於テ開始シテ要求スルヲ得可ク、移轉スルヲ得可キナリ受遺囑者其遺囑物ヲ得ルニハ遺囑者ノ後ニ生存スルノミニテハ十分ナラサルナリ必ス未必條件成就ノ時ニ於テ尙ホ生存セサル可カラサルナリ若シ未必條件ノ成就セサル間ニ死去スルニ於テハ其遺囑物ハ効ヲ失フ可キナリ(第千四十條)

故ニ遺囑物移轉ニ關シテハ未必條件ハ既往ニ遡ルノ効ヲ有セサルナリ然レヒ契約ノ事柄ニ附テハ之ニ異ナリトス(第千百七十九條)契約ト遺囑物トニ此差異アルハ是レ自然ノ理ニ於テ然ル事ナリ遺囑者ハ偏ニ受遺囑者ノ一身ヲ思フノミニシテ其相續人ニハ絶ヘテ考ヘ及ハサルナリ故ニ遺囑物ヲ得ルノ權ハ受遺囑者ノ一身ノミノ爲メニ生シタル者ナリ契約ニ附テハ之ニ反シテ雙方ノ結約者ハ各〻其

一身ノ爲メノミナラス又其相續人ノ爲メニ結約スルナリ(第千百二十二條)故ニ契約人中ノ一方ノ者死去スルモ決シテ之ニ因テ其契約ニ障礙ヲ生スル事ナカル可キナリ

期限アル遺囑物ハ遺囑者死去ノ時刻ヨリ開始スル者ナルカ故ニ又此時刻ヨリハ之ヲ得ルヲ得可キナリ實ニ期限ハ未必條件ト異ナリテ權利ヲ得ル事ヲ停止スル者ニ非ス唯〻之ヲ要求スルヲ得ル事ヲ停止スルノミナリ(第千四十一條及第千百八十五條)故ニ期限アル遺囑物ヲ得ルニハ唯〻受遺囑者ノ遺囑者ヨリ後ニ生存セシノミニテ十分ナリトス若シ期限ニ至ラサル前ニ受遺囑者死去スル時ハ遺囑物ハ總テ他ノ得タル諸權利ノ如ク其相續人ニ移ル可キナリ(第千四十一條)

故ニ期限アル遺囑物ハ遺囑者死去ノ時刻ヨリ得タル者ニシテ之ヲ